

福井工業高等専門学校
自己点検・評価報告書

平成 21 年 1 月

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

ま え が き

本校は、本年度で創立44周年を迎え、この間、本科卒業生約6,100名、専攻科修了生約230名を社会に送り出し、わが国の産業発展に寄与するとともに福井地域に多大の貢献を果たしてきた。国立高等専門学校は、主として国民の税金で運営されており、その運営状況を外部に公開し、内容を国民に積極的に説明するとともに、常に改善に努めることが求められている。本校も法人化後5年が経過し、第1期中期計画の最終年度を迎えるところであるが、この中期計画に沿った教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）により認定され、認定校としての社会的評価を得るとともに、本校専攻科修了生は技術士一次試験が免除され、最短26歳で技術士の資格が取れることとなっている。また、本校は平成17年に全国高専のトップを切って大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、「本校は高等教育の基準を満たしており、改善を要する点はない」との認定を受けた。付帯意見として、平成17年度から工学基礎コースを設置し、1年全科共通科目としての「ものづくり科学」を新設したことなど、本校の取り組みの幾つかが優れたものとして併せて認定されたことは、教職員と学生諸君が普段から取り組んできた努力が実ったものである。

本校では、自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を常時稼働させ、普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている。本自己点検・評価報告書は、平成19年12月にまとめた同報告書に続くもので、本校の教育・研究活動の全貌を記載している。

上記福井高専教育点検システムでは、計画(Plan)、実施および運用(Do)、点検・検証(Check)、見直し・改善(Action)の、いわゆるPDCAサイクルが常時運用されるが、その要が毎年刊行されている本報告書であり、外部に公開して第三者のご批判、評価、ご意見を戴くことをその目的とする。本校では、学外有識者の意見を仰ぐため、福井工業高等専門学校評議員会を設置し、本校の教育研究目標と計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について助言と勧告を得ることとしており、本書はそのための基礎資料としても活用する。

本書が本校内外で活用されて、本校の教育研究内容のより一層のレベルアップにつながることを期待している。

平成21年1月

福井工業高等専門学校

校長 池田大祐

目 次

ま え が き

I. 本校の現状と特色	1
I-1 現状と特色	1
I-2 本校の学習と教育の目標	2
I-3 地域への支援	6
I-4 学校改革資金などの採択状況	9
I-5 学校運営体制の見直し	17
I-6 本校におけるこれからの新しい教育と学科の再編	18
II. 各学科・教室の教育理念	23
II-1 一般科目教室	23
1. 教育理念・教育目標	23
2. 将来計画	23
3. 重点課題	24
II-2 機械工学科	24
1. 教育理念・教育目標	24
2. 将来計画	25
3. 重点課題	26
4. 進学・就職指導状況	26
II-3 電気電子工学科	27
1. 教育理念・教育目標	27
2. 将来計画	27
3. 重点課題	28
4. 進学・就職指導状況	28
II-4 電子情報工学科	28
1. 教育理念・教育目標	28
2. 将来計画	28
3. 重点課題	29
4. 進学・就職指導状況	30

II-5 物質工学科	30
1. 教育理念・教育目標	30
2. 将来計画	30
3. 重点課題	31
4. 進学・就職指導状況	31
II-6 環境都市工学科	31
1. 教育理念・教育目標	31
2. 将来計画	32
3. 重点課題	33
4. 進学・就職指導状況	34
III. 専攻科	35
1. 教育理念・教育目標	35
2. 将来計画	36
3. 重点課題	36
IV. 教務関係	37
1. 基本方針	37
2. 教育関連の課題と今年度の対応	37
3. 校舎改修工事に伴う教務関連の今年度の対応	38
4. 入学者確保とその状況	38
5. 留学生受け入れ状況	45
6. 在校生の状況	45
V. 進路指導関係	49
1. 基本方針	49
2. 本校卒業後・修了後の進路	49
3. 進路決定の流れ	50
4. 進学・就職先一覧	52
VI. 学生指導関係	53
1. 基本方針	53
2. 学生の活動状況	55
3. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成20年度）	57
VII. 学寮関係	58
1. 基本方針	58
2. 寮生の受け入れ状況	58
VIII. 学生相談室関係	59
1. 基本方針	59
2. 学生相談室・保健室利用状況と相談分野	59

IX. 図書館関係	6 1
1. 基本方針	6 1
2. 活動状況	6 1
X. 総合情報処理センター	6 3
1. 基本方針	6 3
2. 活動状況	6 3
X I. 地域連携テクノセンター	6 7
1. 基本方針	6 7
2. 活動状況	6 8
X II. 教育研究支援センター	6 9
1. 基本方針	6 9
2. 活動状況	6 9
X III. 評価体制	7 0
1. 本校の評価体制	7 0
2. 外部評価の受審	7 0
3. 評議委員会による外部評価	7 0
4. JABEE への取り組み	7 3
X IV. 資料一覧	
・科学研究費補助金採択一覧	7 5
・外部資金受入一覧（共同研究・受託研究・奨学寄付金）	7 8
・出前授業・公開講座実施一覧	9 5
・公開授業実施一覧	1 1 1
・教員の派遣一覧	1 1 2
X V. 教育研究スタッフ一覧	
・一般科目教室	1 1 3
・機械工学科	1 6 1
・電気電子工学科	1 8 1
・電子情報工学科	2 0 3
・物質工学科	2 2 5
・環境都市工学科	2 4 9

I. 本校の現状と特色

I-1 現状と特色

福井工業高等専門学校は実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和40年に設置された。これまでに、約6,100人の卒業生を送り出している。現在、機械・電気電子・電子情報・物質・環境都市の5学科（在校生975人）において、実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく、5年一貫教育を行っている。また、大学3・4年課程相当の専攻科（在校生62人）において、さらに高度な教育も行っている。

教育の特徴としては、豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため、「ものづくり教育」を進め、NHKアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し、平成5年度、平成9年度の2度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得している。このほか、全国高専デザインコンペティション、全国高専プログラムコンテストにも毎回参加している。

本校を目指す中学生に対しては、アドミッションポリシーを示すと共に、平成17年度には、入学時に学科を決められない中学生のために、2年次より転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また、福井高専は地元で立脚した学校及び地元で開かれた学校を目指し、産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では、地元で密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者の組合である、福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置し、和紙に関する共同研究を行っている。さらに、福井高専の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地である。福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し、眼鏡枠材料に関する共同研究を「地場産業支援室」の設置により行っている。また、平成17年5月には、これら地域社会との連携をさらに深めるため、近隣2市1町と本校は包括的な連携である「地域連携協定」を結び、さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組むこととした。

このような地域に対する支援を一つのプロジェクトとしてまとめ、平成17年度採択文部科学省現代的教育ニーズ支援取組「越の国ひとづくり・まちづくりコミュニティ」事業として3年間にわたり実施した。さらに、これらの取組から、新しい産業を興し、地域の活性化を図ることを教育に活かした取組である、平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ支援取組「起業家育成による実践的なキャリア教育の推進」を実施している。

国際連携としては、海外学生派遣制度の外、平成17年度からオーストラリアのバララット大学と提携し、学生の相互交換留学制度を開始することとし、平成18年5月に本校学生17名がバララット大学へ1週間留学し、英会話と現地の文化歴史に関する学習を行った。また、平成18年12月18、19日の両日、同大学の学生8名と教員1名の本校への派遣があった。派遣された学生は本校の英語授業に参加したほか、伝統産業の見学とホームステイを行った。今後とも同大学と本校は相互交換留学制度を続けることで合意している。

学校運営の評価として、平成14年度に校外の有識者による外部評価委員会（平成16年度より評議員会）を設置し、開催後に結果の開示を行っている。

また、平成17年5月には日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定校となった。平成

18年11月には中間審査として訪問審査が行われ、前回のWの項目がほとんどA評価となった。今後も、公開授業、学生・教員相互からの評価などにより、恒常的な教育改善に努める。

さらに、平成17年度11月には大学評価学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審し、平成18年3月に「改善事項なし」との評価結果が同機構より発表された。今後とも、教育・研究内容の充実に努めたい。

I-2 本校の学習と教育の目標

本校は人材育成目的を基本理念に、「創造性豊かな人材の育成」、「幅広い工学的素養と基礎力と応用力の育成」など5項目として掲げている。習得させるべき能力は、豊かな創造力を持ち、他者とコミュニケーションができる能力、自分の考えを発表できる能力、問題解決能力と論理的思考能力であり、これらの能力習得を、「ものづくり教育」によって行うことを「教育目標」に掲げている。そして、これらの目的と目標は、社会のニーズと学校教育法第70条の2によるものである。これらのことを図.1に示す。

さらに、これらの人材育成の目的の実現に向けて、卒業認定・準学士課程と専攻科課程の成績評価・単位認定数や進級・卒業認定を規定として策定し、学生にさまざまな方法で周知している。また、カリキュラム編成は教育目標に沿って数値化して作成し、講義と実験のバランスを考慮している。入学者受け入れのポリシー（アドミSSIONポリシー）は教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の方針を学校全体と各学科、専攻科ごとに明確に定め、社会に公表している。

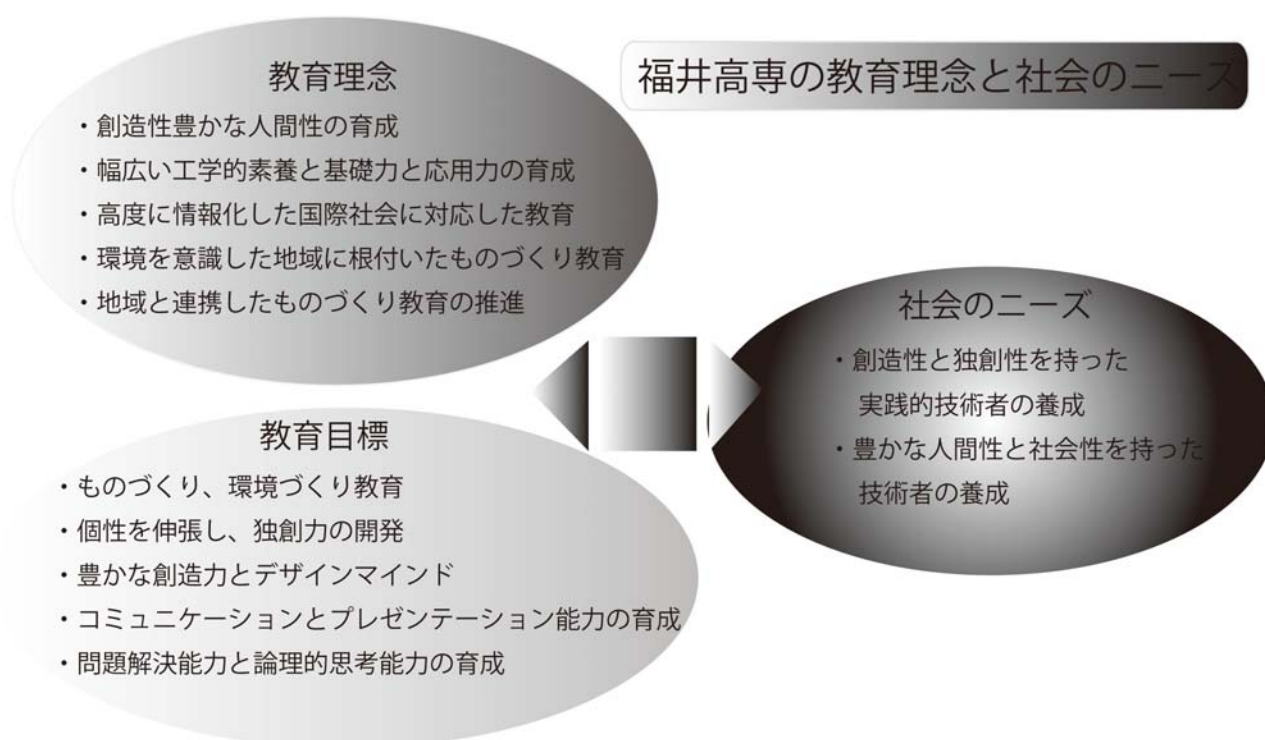


図.1 福井高専の教育理念と社会のニーズ

次に、本校の教育目標、養成する人材像、各学科の目的、専攻科の目的、学習教育目標を示す。

教育目標

- A. 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- B. 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- C. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- D. 高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- E. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

養成する人材像

地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。

(準学士課程・専攻科課程等ごとの独自の目的)

各学科の目的

機械工学科

- (1) 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- (2) 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- (3) 創造性、実践的能力等の育成と、社会の期待に応えるための人間の育成

電気電子工学科

- (1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成
- (2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成
- (3) 独創力およびコミュニケーション能力の育成

電子情報工学科

- (1) 基礎的な学力と能力の育成
- (2) 変化する I T 社会に対応できる応用力の育成
- (3) 実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力の育成

物質工学科

- (1) 物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成
- (2) 材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成

(3) 実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

環境都市工学科

(1) 環境都市工学に必要な基礎的な学力と能力の育成

(2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成

(3) 実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力の育成

専攻科の目的

生産システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

環境システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

福井高専学習教育目標

(A) 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成

- ① 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できること。
- ② 異なる文化圏に属する人々がもつ歴史・伝統などの文化や、それらに根ざした価値観などを、認識・理解する意識を持てること。
- ③ それぞれの地域の特性に応じて自然環境と人間社会との調和を図る必要性を認識できること。
- ④ 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できること。
- ⑤ 地球環境の保全と循環型社会とを意識したものづくりに必要な知識と技術とを結びつけることで、生産から消費・廃棄に至るプロセスをひとつのシステムとして認識できること。
- ⑥ 構造物または製品をデザインする際に、つくる目的を意識し、機能性・安全性および経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できること。

(B) 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成

- ① 工学的諸問題に対処する際に必要な、線形代数・解析・確率・統計などの数学に関する知識を理解できること。
- ② 工学的諸問題に対処する際に必要な、運動力学・電磁気学・熱力学などの物理に関する知識を理解できること。
- ③ 工学的諸問題に対処する際に必要な化学、または生物に関する基礎知識を理解できること。
- ④ 工学的諸問題に対処する際に必要な情報処理に関する基礎知識を理解できること。
- ⑤ 習得した自然科学・情報処理等の基礎知識と、機械工学・電気電子工学・電子情報工学・物質工学・環境都市工学のうちいずれかの分野における専門基礎知識・技術とに基づいて、その分野に関する工学的現象を正しく理解できること。

(C) 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成

- ① 現代社会において必要とされている工学的技術について、複数の具体例を挙げられること。
- ② さまざまな知識を適切な情報源から得、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できること。
- ③ 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持てること。
- ④ 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、課題について多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せること。
- ⑤ グループでの協議および共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できること。
- ⑥ 自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できること。

(D) 高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成

- ① 日常的な話題についての英語の談話を聞き、その中の情報・考えなどを理解できること。
- ② 幅広い話題についての英語の文章を読み、その中の情報・考えや書き手の意図などを理解できること。
- ③ 自らが持つ情報・考えなどを、英語の談話や文章で、場面や目的に応じた表現を用いて述べられること。
- ④ 英語で書かれた解説や論説・学術論文などを筆者の意図に沿って読解し、その内容を日本語で説明できること。
- ⑤ 自分の意見・主張などを、日本語の談話や文章で、分かりやすく規範的な表現を用いて述べられること。

- ⑥ 他者の意見・主張に真摯に耳を傾け、的確に理解したうえで、問題点を指摘できること。
- ⑦ 原稿などを作成するにあたり、読者や聴衆を意識して内容を整えられること。
- ⑧ 説明の必要に応じて、正確で分かりやすいグラフや図などを描けること。
- ⑨ 口頭発表にあたって、聴衆の反応に適切に対応し、質疑に対して的確に応答できること。

(E) 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

- ① 与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導けること。
- ② 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せること。
- ③ 工学上の考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立てられること。
- ④ 問題解決のプロセスを計画するにあたり、得られる情報を最大限に活用して、適切な実験・解析方法を選択できること。
- ⑤ 数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理できること。
- ⑥ 実験または数値シミュレーションの結果を評価し、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できること。

I-3 地域への支援

地域への支援は地域連携テクノセンターにおける活動と広報委員会における活動によって行っている。ここでは、広報委員会における活動を述べる。

(1) 出前授業

出前授業は毎年40回以上行っており、福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。地域連携協定を結んだ市町の小学校・中学校を中心に派遣している。本校の出前授業の特徴は派遣する教員のほか、ほとんどの場合、学生を帯同する。特に、中学校への出前授業は、出前授業を開催する中学校の出身学生を出前授業に参加させ、後輩に成長した先輩の様子を見てもらうこととしている。学生も後輩に誇らしく実験を行うようである。

また、環境都市工学科では、河川の水質や水生動物と河川の汚染の関係など、住民に身近な話題で環境問題の意識を高めている。また、NPO 団体と連携して、地域の環境教育支援にも取り組んでいる。

(2) 福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」

福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し、地域住民対象開放講座である、福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に毎年、環境関係の講師を派遣して、事後のアンケートで好評を博している。

(3) 公開講座等の開催

平成17年5月に提携した地域連携協定に則り、地域の青年・壮年・高齢者・女性などの団体と連携し、地域の人々に対する学習ニーズに応えるため、公開講座、高度技術者研修などを実施し、リカレント教育を実施している。この地域では高齢化が進み、生涯学習、健康を目指す生涯スポーツなどのニーズがたかまっている。本校はこのようなニーズに応えると同時に、本校の体育関係の施設の地域への開放を行って行きたい。

(4) 緊急通報連絡網サービス

平成17年度に、近隣の行政から本校に対して、地域の幼児、小中学生を不審者などから守るため、緊急時における携帯電話による通報システムの開発と実施の依頼があった。このため、本校はこの依頼を受け入れ、平成17年度採択の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの一貫として実施することとなった。現在は、越前市・鯖江市と協力しながらシステムを改良し、福井高専周辺の丹南地域の教育機関を対象に無償でサービスを提供している。このシステムは、越前市全小中学校および鯖江市の半数の小学校など約120校で採用され、約1万の保護者が地域での安全安心情報の提供に利用している。高専周辺の小中学校保護者に活用されていることから、高専進学を目指す生徒への高専認知拡大の効果も期待されている。

今後、この緊急連絡システムは、システムの構成やプログラムを公開し、緊急連絡システムが別の研究者や企業によって、さらなる応用ができるように学生による研究として指導を進めている。

(5) 「誘・遊・愉 おもしろフェスタ in サンドーム福井2008」

本校は、8月9日(土)、10日(日)の2日間、(財)福井県産業会館が主催し、福井県、福井県教育委員会などが後援する青少年対象の科学イベントである「誘・遊・愉 おもしろフェスタ」に実行委員会として学校全体が参加した。

同行事は「全国に誇る福井のものづくり技術の紹介」、「伝統工芸から未来技術まで」をテーマに(財)福井県産業会館が本校などと連携して、小・中・高・大学生の科学への誘い・参加、産業への寄与・振興を認識し、知識・理解を深めるために開催された。本校は計画時から中心的に参加し、当日は会場の福井県産業振興施設(サンドーム福井)の展示総面積約8,000㎡の中心部で、ロボットコンテスト参加機実演、パスタタワーコンテスト大会、コンピューターによる様々な展示・実演、ソーラーカー試乗、化学

実験などを行った。家族連れなど、約1万2千人の人出で大賑わいだった。地元のテレビ・新聞でも大きく報道された。

昨年本校は、青少年にサイエンスの面白さを紹介するサイエンスフェアを校内で独自に開催していたが、本年より福井県の産官学が協力して、サイエンスと福井県のものづくりを紹介するイベントとして開催した。今後もこのイベントを中心的に開催し、本校の学習内容などの紹介を行っていききたい。



誘・遊・愉 おもしろフェスタ in サンドーム福井 2008

(6) 「丹南夢レディオ」による本校紹介番組

平成19年度4月より、地元コミュニティFMラジオ「たんなん夢レディオ」で毎週日曜日に福井高専紹介番組「高専ラジオ」を放送している。4月は入学式、5月は体育祭、6月はオープンカレッジの紹介、など毎月の行事紹介をしながら本校の様子を紹介している。10月からは現代GPに採択されたアントレプレナーサポートセンターのコーナーも開設された。FM放送で、高専が定期的な番組を持つことは全国的に初めてと思えるが、中学生などの反響が大きいことから、今後も入試情報などを伝えて行きたい。



放送中の様子

I-4 学校改革資金などの採択状況

(1) 平成17年度文部科学省現代G P採択事業「越の国ひとづくり・まちづくりコミュニティ」

本校が位置する福井県丹南地方は県下最大の工業集積地である。地域の中心地である越前市は越前打ち刃物工業、電子材料工業が盛んである。隣接する今立地区は、平安時代より和紙製造をはじめ、全国屈指の産地となっている。また、鯖江市は世界でも有数の眼鏡枠工業の集積地として有名である。このように、特色ある地域産業や伝統工芸品産業が数多く立地しており、産業別就業人口では第二次産業比率が高く、工業都市圏を形成している。このプロジェクトでは、この越前市、鯖江市との様々な連携を行い、地域全体に協力を行うとともに、インターシップ、卒業研究など教育としても実施してきた。昨年度はプロジェクトの最終年度であり、平成19年12月6日に現代G Pフォーラムを開催し、実績の報告を行った。

(2) 高専を活用した経済産業省事業「Fテクノ・アカデミック・スクール」

平成18年度より始まった、経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成支援」事業では(財)ふくい産業支援センターが管理法人となり、福井高専を活用して中小企業の人材育成を行っている。

① 事業の目的

鯖江地区を中心とする、福井県眼鏡産地は眼鏡枠を全国の95%、世界の20%近くを生産している。しかし、バブル経済崩壊以降、年々深刻化する国内不況に加えて中国に代表される低コストで生産可能な東アジア地域のメーカーの台頭や、世界的な景気の先行き不透明感から、眼鏡産地は大変厳しい状況に置かれている。このような状況のもと、鯖江産地では工業高校卒業者の技術者が多いが、このような若手技術者に、大学程度の機械工学の基礎を習得させ、付加価値を持つ製品の開発、新産業への技術転換のため、創造力・独創性を持つ開発型の技術者にレベルアップすることは重要となっている。

また、福井県で有数の産業となった原子力工業に、福井県内の原子力発電関連産業に異業種から進出を希望している中小企業が増加している。

このような福井県の中小企業の若手技術者を福井工業高等専門学校設備と人的資源によりレベルアップするのを事業の目的とし、(1) 原子力発電・放射線関連講座、(2) 機械工学基礎講座の二つの講座を開催している。

② 事業の対象者と内容

原子力関係に進出を希望する企業の若手技術者を対象に、

- (1) 原子力・放射線工学の基礎を講義と実習によって教育し、放射線への無用な恐怖感を取り除く。
- (2) この研修受講後、企業の原子力関連業務の従事に大きな戦力となる技術者の育成を目指す。
- (3) 眼鏡枠、鉄工関係、打ち刃物工業などに携わる若手技術者を対象に、機械工学および機械設計に関する基礎知識の全般を講習する。
- (4) CAD技術の講習も行い、現場技術者から今後開発が可能な技術者へのレベルアップを図る。

(3) 平成19年度文部科学省現代GP採択事業「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」

最近、本校では卒業生によるベンチャービジネスの立ち上げが相次いでいる。携帯電話向けのインターネット閲覧ソフトでは業界トップシェアとなる企業を起こした卒業生もいる。そこで、平成19年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に起業家育成による全校学生へのキャリア教育を申請し、採択となった。

現在、本校内に、起業を支援するためのオフィス（アントレプレナーサポートセンター）を設置し、ここに本校学生あるいは地域の若手技術者が入所し、本校教職員や外部専門家による起業に関するビジネススキルなど総合的なキャリア教育を行っている。詳しくは次のとおりである。

① アントレプレナーサポートセンターの設置

平成19年4月に本校の地域連携テクノセンターを一部改修して、起業を支援するためのオフィス（アントレプレナーサポートセンター）を設置した。ここでは、入所者が本校教職員に対して技術相談、共同研究を行う。これらには学生も本科の卒業研究、専攻科の特別研究として参加する。このスペースではあくまでも起業前の段階における技術的な準備のためのものであり、起業準備が整い次第、行政機関などとの連携により実際の活動に移るものとする。

現代GP採択後、センターには本校学生2名と1グループ、社会人2名、県内大学生1名が入所し、起業家を目指している。



アントレプレナーサポートセンター

② 現代GPパネルディジョンの開催

近年、本校では卒業生によるベンチャービジネスの立ち上げが相次いでいる。携帯電話向けのインターネット閲覧ソフト（フルブラウザ）では業界でもトップシェアとなる企業を起こした卒業生もいる。また、他の高専卒業生でも卒業生や在 student で起業をするケース

が増加している。中小企業庁の平成15年度の調査によれば、高専卒業生の創業率は大学・大学院と同程度かそれ以上と報告されている。

そこで、本校では、起業をめざす学生や卒業生・一般社会人の起業家の起業を支援するため、ビジネススキルの習得方法や専門知識を教育する総合的なキャリア教育を平成19年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに申請し採択を受けた。現在、このプログラムを実施中であるが、その一環として、2回のパネルディスカッションを開催した。2回とも、現在、企業で活躍している本校卒業生をパネラーとして招聘し、起業体験や学生へのアドバイスなどについて熱心な討議を行った。

(1) 第1回パネルディスカッション

- 期 日 平成20年3月24日(月) 午後2時00分～午後3時30分
- 場 所 福井工業高等専門学校 メディアホール
- パネラー 新出 純彦 氏 アル・デザインワークス プロダクトマネージャー
坂永 秀和 氏 (株)アイジュピタ 代表取締役
福野 泰介 氏 j i g . j p 代表取締役社長CEO
宮川 栄一 氏 モノバイト 代表取締役

(2) 第2回パネルディスカッション

- 期 日 平成20年8月9日(土) 午後1時00分～午後2時30分
- 場 所 サンドーム福井 会議室
- パネラー 新出 純彦 氏 アル・デザインワークス プロダクトマネージャー
福野 泰介 氏 j i g . j p 代表取締役社長CEO
宮川 栄一 氏 モノバイト 代表取締役



③ 現代 GP フォーラムの開催

福井高専では、平成19年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムとして、起業をめざす学生の支援のため実践的なキャリア教育を行っている。

去る、12月12日（金）に、このような取組の一環として、平成20年度の現代GPが鯖江市内で開催された。本校では、学生が高度に発達した現代社会で自立するための力を涵養するため、キャリア教育を進めている。このため、学生や地元の若手技術者の起業準備を支援するためのアントレプレナーサポートセンターを校内に設置し、他の学生も含めて現代的教育ニーズ取組支援プログラムとして、アントレプレナー意識の向上に努めている。

今回のフォーラムの冒頭で、木谷国立高等専門学校機構理事より、本校のキャリア教育は全国の高専でもユニークな取組として注目しており、高専独自のものづくり教育と併せて、優秀な技術者の育成に努めてほしいとの挨拶があった。



（４）平成19年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業「高専ものづくり塾 3D デザイン設計講座～就職支援と企業人ブラッシュアップ～」

福井県は眼鏡枠工業、電子部品工業、工作機械製造業などの企業が多い。特に眼鏡枠工業は国内の95%を生産している。これら県内の企業は中小企業が多く、新規技術の開発のための技術者が不足している。これらの県内企業で、現在、特に3次元CAD技術は開発・製造において最も重要な技術となっている。そのため、技術者達が会社の枠を超えて3次元CADの自主勉強会を開催するなど活動が活発となってきている。また、眼鏡など県内製造企業の経営悪化から離職者も多い。さらに、いわゆるニートの若者や、団塊の世代の熟年の再就職希望者も次第に増加している。

このような社会的ニーズを踏まえて、いわゆるニート、フリーターなど未就職者、離職者や再就職希望者、育児休暇中の主婦・男性を対象に就職の際に有利となる、地元産業界が望む技術である、3次元CAD技術の講習会を行っている。

定評ある、高専の「ものづくり教育」を就職支援に活かすと共に、地域の企業が必要とする人材発掘を行う。また、就業中の技術者にもレベルアップ講座として参加を呼びかけ

ている。平成19年度から3年間にわたって実施される。

① 平成19年度における講習会の実施

(1) スケジュール

第1回 9月10日(月)～10月11日(木) その後自立講座4回

参加者24名

第2回 11月12日(月)～12月10日(月) その後自立講座4回

参加者19名

第3回 2月4日(月)～3月3日(月) その後自立講座4回

(2) 内容

3次元CAD「Rhino」の基本から実際のモデリングまでを学習する。休職中の
人、休業中の人、あるいは企業に勤めながら技術のレベルアップを考えている人を対象
に基本的な技術の講習を行っている。実際に参加した人の目的は、求職のため、あるい
はレベルアップのため、趣味としてなど様々である。



3次元CAD講習会の様子

(5) 頑張るICT高専学生応援プログラム

(主催：本校、総務省北陸総合通信局、独立行政法人情報通信研究機構)

① 目的

『頑張るICT高専学生を応援するプログラム』は、将来のICT人材と期待される高専学
生に対してICTの魅力を開発するとともに、こうした若年人材によるICTベンチャー創業
やICTベンチャーへの就職を支援することを目的とし、各種セミナー・イベントを企画・
開催する。

② 概 要

当プログラムの開催に当たっては、地域とのつながりが深い高専の特性を活かして、画一的・一方的なセミナー・イベントではなく、地域ごとの特色を活かし地域の要望を取り入れたものとする。当プログラムは以下の3つのプログラムから構成される。

③ 実施スケジュール概要

- ・ 10月～ : 事前打ち合わせ（企画）
- ・ 1月 8日（木）：経営セミナー第1回
- ・ 1月13日（火）：経営セミナー第2回
- ・ 2月 2日（月）：経営セミナー第3回
- ・ 2月28日（土）：起業家講演会開催
- ・ 3月（未定） : ICTベンチャー企業訪問

1.1 起業家講演会（高専ベンチャー創業体験談、地域パネルディスカッション）

(1) 概 要

地方にあって ICT ベンチャーと接触する機会に乏しい高専学生に、ICT ベンチャー起業の意義を理解してもらい、学生の起業家マインドを創出することを目的とする。高専出身のベンチャー起業家及びその他の専門家等を高専に派遣し、創業体験や創業時の苦労を語ってもらうとともに、当該地方の自治体や商工会議所等の地域関係者を交えたパネルディスカッションを開催する。

(2) 場 所 本校

(3) 講演者

ウノウ（株）代表取締役 山田進太郎氏（早稲田大学卒）

2001年8月有限会社ウノウとして法人化。2004年2月よりシリコンバレーに拠点を移し、インターネットビジネスのリサーチなどをする。2005年2月帰国、ウノウ株式会社に組織変更

1.2 パネルディスカッション

(1) 概 要

地域関係者にご協力いただき、起業家（講演者）の方も加わり、さまざまな進路選択の可能性やそれぞれのメリット・デメリット、自身の進路を検討する学生の意思決定へのアドバイスとなる話を伺う。

(2) 参加者

電子情報工学科学生30名、IT研究会学生15名、石川高専学生数名
講師数名

1.3 経営セミナー（起業ノウハウセミナー）

(1) 概 要

ベンチャーを起業するに際しては、優れた技術・アイデア以外に、経営・財務・法務等のノウハウが必要になる。但し、経営科目に馴染みの薄い高専学生にとって、経営・財務・法務等の専門的知識を短時間で習得することは難しいものと思われる。このため、経営セミナーでは起業する上でのファーストステップである「ビジネス・プラン」についてセミナーを開催する。セミナーでは知識をインプットするだけでなく、最終的にはアウトプットとして実際にビジネスプランを作成することを目的とする。

(2) 場 所

本校電子情報工学科5年クラスルーム

(3) 日 時

第1回： 1月 8日（木）13：20～「企業経営の基礎」100分×2コマ

第2回： 1月13日（火）15：10～「ビジネスプラン作成の基礎知識」

第3回： 2月 2日（月）13：20～「ビジネスプラン作成実習と発表」

(4) 内 容

講義においては、ビジネスプランを作成する上で必要な知識のインプットを行う。各講義後半には、ディスカッションの場を設け、アイデアをビジネスに繋げる力を養成する。実習では各自がビジネスプランを作成する。講師として、業務上ベンチャーをサポートする立場にある専門家1名を派遣する。なお、実習にあたっては、高専から1名程度の運営要員をご準備頂く。

<講義講師>

サクセスリサーチ株式会社 代表取締役 西村 一則 氏

茨城大学理学部数学科卒業。理学修士。システム監査技術者。電子部品メーカー、シンクタンク、ベンチャーキャピタルを経て独立し、サクセスリサーチ株式会社を設立。IT、調査、コンサルティングの豊富な知識と経験、ベンチャー支援や産学連携推進のノウハウと実績を有する。東京海洋大学社会連携推進共同研究センター客員教授。

(6)平成20年度高専機構特別経費『企業技術者等活用プログラム』事業

「ものづくり技術のIT化とICT技術者育成」

① プログラムの概要

鯖江市は国内の眼鏡枠の95%を生産する一大生産地となっている。しかし、東アジア地域のメーカーの台頭などにより生産額が激減している。このため、業界では、眼鏡枠の開発・生産に、IT技術を大幅に取り入れたり、産地情報の発信などにWebなどのICT技術を取り入れるなど力を注いでいて、業界にはICT技術の集積が進んでいる。また、地元の鯖江市・越前市では、福井高専卒業生を中心にICT情報産業が育ち始めている。携帯電話のインターネット閲覧ソフトでは業界のトップシェア企業を地元で興した卒業生もいる。

このような状況のもと、本校のものづくり教育を進めるため、また最近、利用が多様化して

いるモバイル携帯としての携帯電話関連技術を学生に講習するため、地元の眼鏡枠工業技術者と ICT 関連企業技術者を講師として招き、本校の学生対象に講習会を正課外に継続的に開催する。詳しくは次のとおりである。

(1)近年、眼鏡枠工業では商品の開発・企画・設計に 3 次元 CAD 技術が不可欠となっている。今後のものづくり技術に 3 次元 CAD 技術は重要であるので、企業技術者を講師として招き、機械工学科、環境都市工学科の希望学生に 3 次元 CAD 技術の講習会を開催する。これにより、ものづくり技術の IT 化を図る。

(2)今後、モバイル ICT 端末の中心となる携帯電話関連アプリケーション技術を中心とした講習を行う。また、ホームページサイトの作成方法と Web を利用した今後のビジネスについての講習も行う。これらにより、現在、学校で行っている情報関連技術を利用した実践的な技術を学生に理解させる。

② 教育効果

(1)これまでの製図教育では、平面図、立面図、側面図という平面 3 枚から立体を頭の中で想像して設計する基本を重要な教育目的としてきた。これらの基本教育はこれからも続けるが、現在、企業では製品開発を最初から 3 次元 CAD によって設計・企画・開発あるいは強度計算なども行っている。このような実践的な技術教育に対処させるには、学校における 3 次元 CAD 教育が今後は必要である。この講習により、学生は基礎教育を学んだ後に、最新の設計法・開発方法などを学べるようになる。

(2)現在、高専・大学では情報処理教育として C 言語などを学生に教育している。しかし、最近、携帯電話などのモバイル ICT 技術では JAVA 言語がさかんに用いられている。そこで、学生に企業技術者より JAVA 言語の教育を行い、学校で習っている情報教育を基礎としながら、企業で用いている実践的技術を講習する。

このように、企業技術者に新しい企業における技術を学生が直接、学ぶことは新しい技術の習得のほかに、キャリア教育となることが考えられる。

③ 実施計画を実現するための人的、物的条件の整備状況

現在、本校内に 35 台のパーソナルコンピューターを設置し、3 次元のモデル構築に最適なソフトである、「Rhinoceros」を導入済みである。また、同様な 3 次元 CAD として、「ソリッドワークス」、「オートキャド」なども情報処理センター端末室に 40 名程度のライセンスが取得してある。また、既に、環境都市工学科などでこれらの設備を用いて、本校教員が学生に教育を行っている。

また、電子情報工学科では、実験室などに 40 セットのパソコンセットを導入している。これらを用いて、全学科の本科 1 年生から専攻科生までの約 30 名に毎週 2 日間程度、モバイル ICT 関連のソフト開発のための講習を教員 2 名で行っている。

④ 教職員・学生の関与

3 次元 CAD を用いた、ものづくり技術の IT 化講習には、5 人の教員が指導補助にあたり、本科全学科の学生約 30 名と専攻科生約 5 名が参加する。

モバイル ICT 関連の情報教育には、本科全学科の学生約 20 名と専攻科生約 5 名が参加する。

教員は3名が指導補助にあたる。

⑤ 学内の支援体制

このプログラムの全体の企画は企画室があたる。また、「ものづくりのIT化」、「モバイルICT技術」とも、関連教員で実行委員会を作り、運営・実施にあたる。実施後は、創造教育開発センターで受講した学生からのアンケート等による評価を行う。

⑥ 技術者の招聘について

今回、企業から招聘する技術者はすべて本校の卒業生であり、採用などに関する問題点、困苦する点はない。

・ 3D-CAD講座開催内容

対 象	本校学生 14名
内 容	3Dモデリングソフト「ライノセラス」の入門から応用まで
講 師	山口直邦氏（本校機械工学科卒業生）
期 間	10月第3週目から来年1月まで（試験期間中を除く）の20回
開催時間	17時～20時
場 所	専攻科棟4階

・ i-phone アプリ講座開催内容

対 象	本校学生 10名
内 容	i-phone, i-pod アプリケーション作成の入門から実際の制作まで
講 師	本校卒業生（福野氏、中西氏、宮川氏）
開催時間	17時～20時
場 所	電子情報工学科棟3階



i-phone アプリ講座の様子

I-5 学校運営体制の見直し

平成20年11月の定例協議会において、学校校務の多忙化による教育・研究への弊害に関

する意見が出され、その後、組織の見直しについて企画室で原案を作成し、12月協議会において一部修正された。詳しくは下記のとおりである。

1. 協議会

学校運営会議と名称変更し、会議機能に合わせた構成とするため、次の職をもって構成する。

副校長、校長補佐、各学科長・教室主任、事務部長。

校長は委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

2. 各種委員会

構内交通委員会・・・施設整備委員会などへ引き継ぐ

有害廃棄物等処理委員会、放射線障害防止委員会・・・安全衛生委員会へ引き継ぐ

広報委員会ホームページ専門部会・・・広報委員会に引き継ぐ

交換留学・海外派遣委員会・・・国際交流委員会に改組する

知的財産委員会・・・知的財産教育委員会に改組する

3. その他

(1) 学科主任を学科長とする。

(2) 評議員会を内容に合わせて、外部有識者会議に名称変更する。

(3) 企画室委員の構成人数を減少する。

(4) 次の委員や委員会の改組などを次年度以降に検討する。

- ・教務主事補人数の減少

- ・補導委員会の機能、構成

- ・総合情報処理センターを「メディア教育センター」などへの名称変更と図書館との融合を検討

- ・JABEE 委員会機能の他委員会などへの引き継ぎ

- ・教育システム評価委員会機能の他委員会への引き継ぎ

I-6 本校におけるこれからの新しい教育と学科の再編

平成19年度に下記のような再編計画が決定され、今後、第2期中期計画などにその方針などが具体的に盛り込まれる。

1. これまでの経緯

平成18年9月に、高専機構によって「国立高専の整備について～新たな飛躍を目指して～」が発表され、それに対する本校の対応として、同年10月に、企画室内にワーキンググループを設置した。同グループによる本科・専攻科の学科再編についての答申が平成18年12月に協議会において報告された（「企画室本科と専攻科の再編計画中間報告書」）。この中で、

(1) 新しい学科構想案は長期にわたる教育体制となるため、将来の社会情勢・ニーズに対応したものとしたい。

(2) 今後の少子高学歴社会に対処するため、準学士課程の削減と専攻科の充実を図りたい。

(3) 数年後の社会ニーズ・状況と本校が保有する現在の教育資源より、新しい学科構成のキーワード（系）として最も望ましいのは、現在の時点では次の5つと考えられる。

機能創成（メカトロニクスなど）、情報（知識情報など）、エネルギー（エネルギー工学など）、環境（ライフサイエンスなど）、安全・アメニティ（安全工学など）

2. その後の検討

平成19年5月21日に高専機構における各高専対象ヒアリングが行われた。その結果、

(1) 大学科制度、コース制などの検討

(2) 入学定員の減少の是非

(3) 専攻科在籍者の現状

などについて高専機構から質問があった。入学定員の減少は急務ではないと考えられるが、確実な少子化の進行と社会ニーズの変化への対応などにより、今後、本科定員の減少とそれに伴う専攻科の増員などが今後検討されなければならない。

3. 新しい学科構想

(1) 二つの大きい系

企画室においては本校の新しい学科再編を、平成19年8月31日に国立高等専門学校機構より出された「国立高等専門学校の再編整備について」と、平成19年8月24日に中教審より出された「高等専門学校教育の充実（議論の整理）」を踏まえて、次のように提案する。

現在の5つの学科は、現在の専攻科制度や現在の本校の教育理念から、「ものづくり」、「環境づくり」の二つが大きな系にまとめられる。

つまり、(1) 機能創成 (2) 情報 (3) エネルギー、及び (4) 環境（材料、生命）、
(5) 安全工学

の二つの大きい系に分けられる。今後、第3次中期計画においては、現在の5学科は今後の社会のニーズの変化に合わせて、大きい系での連携を考慮すべきであろう。

連携の内容としては次のことが考えられる。

- ① 共通授業の実施
- ② 学際的教育研究の実施
- ③ 卒業研究・特別研究の相互乗り入れ実施
- ④ その他

また、今後の本校における工学教育において、「情報とデザイン」はすべての系にとって関係が深い基礎工学となるものであろう。特に、情報はすべての学科において共通の基礎工学である。また、デザインは機能創成と建築系において特に関係する。

(2) 新しい学科名とコンセプト

これらのことを念頭において、5つの学科を次のように構想する。

① （現・機械工学科）

機械システム工学科

1. システム、創造性について学ぶ機能創成・デザイン
2. 工作・材料について学ぶ機能材料
3. エネルギーについて学ぶ機械物理
4. 機構・制御について学ぶロボティクス

機械システム工学科の再編コンセプト

従来の機械工学の分野を機能創成・デザイン、機能材料、機械物理、ロボティクスの4分野に再構成する。特に機能創成・デザインの分野が他の分野を繋ぎ、システム化する役割を負い、他学科の科目との連携も視野に入れる。

② （現・電気電子工学科）

電気電子システム工学科

1. エレクトロニクス分野 : 電子工学 電子回路 計測工学
2. 情報通信 (IT) 分野 : 情報処理 情報通信工学 デジタル信号処理
3. 電子デバイス分野 : 電子物性 半導体デバイス 新機能材料
4. エネルギー分野 : 電気エネルギー 電力工学 パワーエレクトロニクス

電気電子システム工学科の再編コンセプト

電気電子システム工学科では、「エレクトロニクス」「情報通信」「電子デバイス」「エネルギー」を4本柱として掲げ、各専門分野とそれらと互いに連携して構成するシステムについて幅広い分野に対応できる電気電子技術者の育成を図る。

③ （現・電子情報工学科）

情報システム工学科

1. ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークがわかる技術者
2. コンピュータを社会や生活に活用できる技術者
3. 論理的思考能力を有した技術者

情報システム工学科の再編コンセプト

従来、電子情報工学科では、電子材料・デバイスまでを含むエレクトロニクス分野を基礎とし、情報・通信・制御分野を教育することを目標としてきた。情報システム工学科に向けた再編の中では、電子材料やデバイスの詳細を教えるのではなく、情報システムを構築する際の核となる「コンピュータ」・「ネットワーク」・「制御」技術を教えるとともに、安全で快適なシステムを実現するために、「数理」・「知能」分野の基礎的な理論を教育することをめざす。

④ （現・物質工学科）

物質・生命工学科

1. 先端素材（金属材料、無機材料、有機材料、生体材料、複合材料）
2. ナノテクノロジー（メッキ、マイクロカプセル、リソグラフィ、分子制御）
3. 環境化学（地球環境、環境保全・浄化、バイオマス、新エネルギー）
4. 生命科学（バイオテクノロジー、遺伝子工学、微生物工学、インフォマティクス）

物質・生命工学科の再編コンセプト

産業界すべての礎となる素材「物質（もの）」を化学の視点で学び、物質から作りだされる超伝導や複合材料、半導体、有機色素などの先端機能材料の分野に加え、生命活動を物質循環の連鎖ととらえ、遺伝子工学や微生物など新エネルギーを含めたバイオテクノロジー技術、ならびにこれに立脚した環境化学を含む生命工学（ライフサイエンス）など、化学を活かす技術者を育成する。この広範な分野をカバーするため現在のコース制を堅持すると共に、これらを効果的に融合させ複合領域を育成するために、基礎技術としての情報科学を積極的に教授する。

⑤ （現・環境都市工学科）

環境都市工学科

1. 社会資本づくり（土木・社会系）
2. 生活環境づくり（建築系）
3. 地域環境づくり（生態系）

環境都市工学科の再編コンセプト

従来の土木系科目群の見直しとともに、建築系科目群の整備（カリキュラムの整備は対応済み）、生態系科目群の整備を進め、『環境』をキーワードとしたまちづくり（環境都市づくり）に特徴のある学科を構成する。

4. 専攻科制度の充実

現在、本校における専攻科進学希望者は多く、そのレベルもかなり高くなっており、毎年、定員以上の入学者となっている。このため、現在の専攻科制度を維持しつつも、制度の充実を図り、学生定員、教員定員の増加を図って行きたい。

具体的には、現在の2つの専攻、あるいはいずれかの専攻をコース制として学生定員の増加を図りたい。

5. その他の検討課題

（1）工学基礎コースの充実と制度の進展

工学基礎コースを設置以来、2年数ヶ月が経過した。全国的にも同様なコースが宮城高専などに設置されると同時に、東京高専のような全校的な括り入試を行う高専も昨年より見受けられる。今後、本校も工学基礎コースの長所や問題点を調べて、コースの改善を図

りたい。

コースの改善にあたっては、今の時点において、コース定員の増加などを検討することも重要であるが、先ず、現在の制度における学生へのサービス内容の充実を早急に実現したい。卒業後の専攻科進学、編入学のための補講の充実などを行いたい。また、このコース志望者にも多様な入試制度による入学方法を与える検討をしたい。

(2) アントレプレナーサポートセンターを使った全学的な実践的キャリア教育

平成19年度採択の現代GPによって、今後、3年間にわたり、アントレプレナーサポートセンターを使った全学的な実践的キャリア教育を進めることとなった。これまでのインターンシップ制度によるキャリア教育のみならず、この補助事業を最大限に利用して、本校のキャリア教育を具体的に進めたい。たとえば、定期的なセミナーの開催、アドバイザーによる学生支援、コーディネーターによるキャリア教育の取組、OJT教育の導入などを進める。

(3) 一般科目教育の充実

今後、学科の再編の進行に合わせて、主に低学年教育である一般教育科目の充実も重要な課題となってくる。今後の工学の中心となる情報工学において、人文社会科学の知識・素養は重要であるとされている。さらに、学生の卒業研究・特別研究論文やプレゼンテーションにおいて工学英語の基礎力が必要となっている。また、JABEE 認定における英語力認定試験 TOEIC 対策としても英語教育は重要である。

Ⅱ. 各学科・教室の教育理念

Ⅱ-1 一般科目教室

1. 教育理念・教育目標

現在、教育方針として新入生等に公表しているものおよび中期計画での目標は以下の通りである。

(1) 要覧その他での紹介

本校の教育は一般科目教育と専門科目教育とから成り立っている。技術者が一市民としてよりよく生きるためには、専門的な知識や技能だけでなく、広く豊かな教養も必要である。一般科目教育は、教養を身につけさせることを通じて、立派な技術者の育成を目指す。一般科目教育においては、高等学校の教育課程に加え、大学の教養課程に匹敵するレベルの教育内容となるよう、カリキュラムが組まれている。国語・歴史・地理・倫理社会・物理・化学・生物・数学・保健体育・英語などの科目や情操を育むための美術・音楽、さらに哲学・政治経済学・法学などの多彩な科目を開講している。国際化時代に即応するため、外国語教育には特に重点をおいている。英語のほか、ドイツ語・中国語といった科目もあり、設備の整った語学教室で、外国人講師を含めたスタッフが指導している。なお、専門科目の応用数学・工学基礎物理も一般科目教室で担当している。

(2) 中期計画目標

人文・社会系科目（国語・社会・外国語）では、実践的な技術者として優れた言語感覚や総合的な国語力をつけさせ、社会的な知識の習得はもとより自立した洞察力・判断力を養成する。また、国際文化の理解を深めながら、外国語によるコミュニケーション能力の養成を目指し、各種検定試験の受験も視野に入れた教育をする。

理数系科目（理科・数学）では、各教科の特性を踏まえ、自然現象の基本的法則や概念を理解させ、思考力・表現力・創造力の育成を図るとともに、問題解決能力の向上を目指した教育をする。そして、専門教育への展開を考慮した自然科学系の基礎学力習得を目指した教育をする。体育では、調和のとれた全人的発達を遂げた社会人として、豊かで活力あふれる生活が営めるよう身体・健康に関する知識の修得や、身体運動実践能力の獲得を目指した教育をする。

2. 将来計画

一般科目教室としては、新入生の受け入れから専門学科への移行がスムーズに行われるように低学年教育において、①学習上の問題点、②学校生活上の問題点などを学生とともに解決策を探っていく努力をしていきたいと考えている。現在、各教科担当者、担任、クラブ活動顧問など、様々な立場で教員室・セミナー室等を利用した学習活動の支援や相談活動を行ってきた（これらの活動はオフィスアワーでの活動として報告）が、セミナー室での学習支援は校舎改修工事による教員室への代替で活動が中断されている。

昨年、「オフィスアワーを中心とした学生支援体制の構築（仮称）」として、

- 1) 現状の把握（実態調査：支援時間・支援環境・内容）
- 2) 現状の改善策の検討（学生の問題→関係教員（担任・教科担当・部活顧問等）への連絡体制などの組織作り＝学内組織での位置づけ？）、支援環境整備

などを将来計画としてあげたが、現在の状況は以下の通りである。

1) 現状の把握

○成績不振者への対応：各教科で必要な対策（小テスト・追試・補習・課題等）を実施。

○学習意欲の高い学生への対応：学外コンテストへの参加促進。

（例、英語スピーチコンテスト、第1回数学選手権）

2) 現状改善策の検討

○学生の問題点についての情報交換会「スタッフミーティング(仮称)」の開催を検討中

①学習到達度の低い学生の把握と教科指導の方向付けや②授業への取り組み状況（生活面も含む）の把握と改善策の検討により、学習意欲の低下・留年・進路変更等の問題に対処するとともに、担任や担当教員が指導上の問題を一人で抱え込むことを防止する。

3. 重点課題

中期計画との関連で当面の課題としてあげているものは以下の諸点である。

(1) 新入生に対して数学・英語の一斉学力試験を実施し、その動向を把握するとともに、この結果を以後の教育指導や教育課程の改善に役立てる。また、英語のコミュニケーション能力を測る方策として、本科の4年・5年次においては TOEIC 模擬試験を実施する。

(

2) 中学・高校よりの教育支援要請（SPP、SSH 講師依頼等）に応える。各教育機関、教育委員会からの教員研修事業での協力要請に応じる。

II-2 機械工学科

1. 教育理念・教育目標

機械工学は、「ものづくり」のための工学であり、産業の基盤として不可欠な学問分野である。従って、今後も豊かな社会を作り出すための中心的役割を担うと考えられる。本校機械工学科では、「ものづくり」のための基礎的知識技術を習得させると同時に、機械技術の高度化、多様化にも十分対応できる広い視野と実践的で総合的な設計・開発能力を持った技術者の養成を教育理念とし、次の3つの教育目標を掲げている。

- ・ 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- ・ 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- ・ 創造性・実践的能力の育成と、社会の期待に応えるための人間の育成

また、学科カリキュラムの特徴として、次の3つが挙げられる。

(1) 実験実習等の体験型科目や、一つのものを作り上げる創成科目が充実したカリキュラム
教室の椅子に座って教員の話聞くだけではなく、実際に手を動かして頭で考える実験実習などの体験型授業や、アイデアを出して一つのものを作り上げその性能を競技により評価する創成型授業が充実している。その科目例として、3年生の「創造工学演習」「C言語応用」、4年生の「知能機械演習」、5年生の「アイデア設計工学」がある。

(2) 機械工学の基礎学力を身に付けるカリキュラム

機械工学の根幹となる材料力学、熱力学、流れ学、振動工学などの科目においては、課題や演習を多く取り入れ、機械工作法、材料学、機械設計法、機構学などの科目においては、機械製図や機械工作実習などで学んだ例を用いるなどして、分かりやすい説明

を心がけ、学生の理解を深めている。また、機械工学科の教員全員で資格取得のための補習なども実施している。その成果の一つとして、日本機械設計工業会機械設計技術者3級資格試験では、極めて高い合格率（H19 本校実績 74%、全国平均 37.5%）を誇っている。

(3) コンピュータや情報制御技術を用いて創造力・総合力を養うカリキュラム

先端ロボットに代表されるように、最近の機械は智能化・自動化の技術が目覚しく進歩しており、コンピュータやIT技術を多く取り入れた授業カリキュラムとなっている。

2. 将来計画

(1) システムとしてデザインできる技術者の養成

機械工学には、材料力学・材料学・工作法などのメカの機能を生み出す「機能材料」と、熱力学・流体力学など力学やエネルギーに基礎をおいた「機械物理」を生かした技術すなわちハード面のメカと、近年のコンピュータ、センサ・計測工学、制御工学およびエレクトロニクスの発達によって、自動化・知能化など機械を高度に使う技術すなわちソフト面のメカである「ロボティクス」が求められるようになってきている。一方、機械工学に対するニーズも複合・融合化してきており、ものづくりにおいて一つの領域のみで解決できる問題は少なく、材料、環境（エネルギー）、電子工学など複数の領域にまたがった問題が多くなってきている。したがって、個々の技術を「デザイン」して一つのテクノロジーを作り上げ「機能創成」できる技術者、さらにものづくりに関わる企画・設計・生産をトータルで考え、「システム」として実践できる技術者の育成を目指す。また将来は、環境問題や高齢化社会に対応した環境や人と調和したものづくり技術が強く要請されてきており、ハード面のメカ・ソフト面のメカに加えて「ヒューマン面のメカ」（感性工学、知的センシング）を視野に入れることが必要である。

(2) 創成型授業と製図や工作実習をリンクさせた融合的なものづくり教育の実践

体験・創成型授業の導入による創造性・実践的能力の育成が実施されており、例えば平成18年度に開講した「アイデア設計工学」では、アイデアを提案させ、それを具現化する立体的な品物を3D-CADを用いて設計製図させ、マシニングセンタを用いて実際に加工された製品について、評価し改善点・問題点を設計にフィードバックさせて、PDCAサイクルによるデザイン能力を養成している。このような創成型授業は教員の負担も多く、今後、学科内の体験・創成型授業科目を見直すと同時に、創成型授業と製図や工作実習をリンクさせた融合的なものづくり教育の実践を検討する。

(3) 実習工場の設備更新、先端設備の導入

ものづくりを実践する実習工場の設備については、本校が設立された際に整備されて以降、約40年にわたって一度も更新されていないものが多く、その老朽化は教育の質の確保において大きな問題になっている。平成19年度特別教育研究経費「実習工場再生支援設備経費」を申請したが、今後も加工精度や安全確保の点で支障となっている工作機械の設備更新経費の要求を継続して行っていく。また、ナノテクに代表されるように近年の加工技術の進歩は目覚しく、高度なものづくり教育を行うには先端加工技術の導入が必要であり、このような先端設備の導入を検討する。

3. 重点課題

(1) 入学志願者の確保

重点課題のひとつめとして「入学志願者の確保に学科独自」でも取り組みたい。平成20年度入試の機械工学科の入試倍率は1.7倍と、前年度の1.4倍に比べて回復傾向にある。女子生徒の志願者も3名であった。また、福井県の15歳人口は今後5、6年は8,500人前後で推移する。これを受けて本学科では中学生および小学生を対象にしたパンフレットの作成などを中心に、以下のことを実施および検討している。

- ①小学生向けの学科パンフレットの作成（出前授業、おもしろフェスタなどで配布）
- ②入試説明会での発表スライドの充実
- ③職業に関するパンフレットの作成（卒業生に現在の仕事について話してもらったものをパンフレットとする。中学生の職業調べの資料として配布予定）
- ④女子生徒向けの学科パンフレット（卒業生や現役学生の話に掲載する。オープンキャンパス、入試説明会、おもしろフェスタなどで配布予定）
- ⑤オープンキャンパス、出前授業、公開講座、サイエンスフェア、おもしろフェスタ等での積極的活動

(2) 基礎学力の養成

高専卒業生の魅力は、大卒と比べて基礎学力が定着が良いことがひとつの理由である。したがって、基礎学力の養成はいつの時代も本学科の重要課題のひとつである。現在、第3学年における原級留置者が他学年に比べて多いことが問題である。第3学年原級留置者は、H19：14%、H18：12%、一方、第4学年原級留置者は、H19：5%、H18：2.5%、第2学年はいずれも原級留置者はゼロであった。本学科ではこのことが大きな問題点であると意識しており、学生に基礎学力を養成させることに授業の重心を置いている。その対策として、機械工学と関連の深い数学の担当者と平成20年2月26日に「情報交換会（教員間ネットワーク会議）」を開き、授業内容の確認、教材の提供などを申し合わせた。また、数学の課題演習を毎週の力学系専門科目の授業の中に取り入れて、数学力の向上を図っている。さらに、機械設計技術者3級資格試験対策の補講を、本科3～5年の学生を対象に10月から11月にかけて木曜日放課後（1.7h×2回）および土曜日（3h×10回）に実施している。この補講には数学の演習課題も含んでいる。この演習問題は数学科教員から提供されたものである。以上のように、本学科では一般科目の教員と協力して基礎学力を向上させるために鋭意努力中である。今後もこの方針を継続させていきたい。

4. 進学・就職指導状況

平成20年度卒業予定者36名のうち、就職希望者は18名（卒業予定者の50%）、進学希望者は17名（卒業予定者の47%）、その他1名（卒業予定者の3%）である。就職希望者は8月の時点で全員就職先が決定しており、県内10名（就職希望者の56%）、県外8名（就職希望者の44%）となった。当学科卒業予定者に対する企業求人数は695人にのぼり、求人倍率は38.6倍であった。機械工学科の就職先の特徴は、機械関連分野はもちろん、電気電子・情報・化学・材料・医療など極めて幅広い産業分野に及んでいることである。一方、進学希望者17名の内訳は、大学12名、福井高専専攻科4名、他高専専攻科1名である。

II-3 電気電子工学科

1. 教育理念・教育目標

電気・電子、情報・通信は、社会の基盤技術であり、今後も拡大、発展が予想される。電気電子工学科は、情報・通信から制御、エレクトロニクス、光・電子デバイス、材料、エネルギーまで幅広い知識を学び、独創力を身につけ、社会に対する責任を自覚し、「地球にやさしく、人にやさしい21世紀」をつくる技術者の育成を目指す。

(1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成

電気電子技術者のベースとなる電磁気学、電気回路、電子回路、コンピュータ技術の基礎を学んだ後、光・電子デバイス、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション、新エネルギーといった電気電子、情報通信に関連する幅広い分野の専門科目を修得し、新たな夢の実現に向けた新しい技術を開発する際に必要とされる基礎力を育成する。

(2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成

情報家電や光通信用電子機器を作り出すエレクトロニクス技術、電気自動車やロボット、システムをコントロールする電子制御およびプログラミング技術、インターネットやモバイル通信を実現して情報技術革命を先導する情報通信・情報処理技術、環境に優しいクリーンエネルギー技術などを幅広く学ぶことで、新しい技術開発に適応でき、国際的に通用する電気電子技術者を育成する。

(3) 独創力およびコミュニケーション能力の育成

情報技術革命・ナノテクノロジー、新エネルギー技術に象徴される地球規模での科学技術の急速な発展に対応するため、論理的思考能力、表現力、グローバルな視野、さらに諸現象に対する洞察力や知的探求心を培うものづくり教育、実験・実習を中心とした自己獲得型技術教育を通して独創力の育成を図る。さらに、様々な社会体験教育を推進することでコミュニケーション能力を育成する。

(4) 下記に示すアドミッションポリシーを提示し、これに対応する電気電子技術者に必要な基礎力を育成する。

- ・ ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- ・ 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
- ・ 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

2. 将来計画

電気電子工学科は、社会の中長期的な要請に基づき、教育内容の充実を行っていく。具体的には、

- ・ 授業科目の見直しと充実
- ・ 電気電子工学実験の見直しと充実
- ・ 卒業研究、特別研究の充実
- ・ ものづくり・創造性育成教育のさらなる充実
- ・ 工業英語力の向上

3. 重点課題

(1) 入試倍率の増大

小中学校での出前授業・公開講座・地域連携事業参画・地域企業との共同研究などの活動を通じて地道に小中学生と父兄への電気電子工学科への認識作りを行い、入試倍率の増大へつなげる。また、現在の電気電子工学科において女子学生が少ないことを考え、女子学生を増やす施策を進める。

(2) 専門科目の充実

電気電子工学を学習するには、じっくりと時間をかけて電気電子に関する抽象的な概念を理解する必要がある。また、専門科目の特質から数学的素養を強く求められる。従来、それらの習得のために1学年に電気基礎工学や電気数学などの専門導入科目を4単位分、割り当ててきたが、2年前のカリキュラム改定で、それができなくなった。この状況に対応するため専門科目の内容、カリキュラムの見直しを進める。

(3) 地域連携、地域貢献の充実

電気電子工学科では、鯖江市への路上を走るソーラーカーの寄贈、地域イベントへの参画、小中学生の理科好きを増やすための出前授業などを精力的に行い、地域に貢献している。今後も、地域連携、地域貢献を進めていく。

4. 進学・就職指導状況

平成20年度卒業予定者36名のうち、就職希望者は23名、進学希望者は13名となった。就職希望者は全員就職先が内定しており、県内7名、県外16名となった。当学科卒業予定者に対する企業求人数は702人にのぼった。電気電子工学科の就職先の特徴は高い求人数に加えて、電気・情報・化学・材料、機械、エネルギーなど幅広い産業分野に及んでいることである。

進学希望者13名の内訳については、大学7名、福井高専専攻科6名となった。

II-4 電子情報工学科

1. 教育理念・教育目標

「情報」とは人間の知的活動を支える根源でありあらゆる問題解決に必須のものである。電子情報工学科では、インターネットやモバイル機器の基盤技術であるコンピュータ技術、コミュニケーション技術、ロボットに代表されるコントロール技術の分野で、コンピュータを自由に駆使して種々の問題を解決するエンジニアの養成を教育目標にしている。

電子情報工学科のアドミッションポリシーは、以下のとおりである。

- ・コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- ・ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- ・未来のIT機器の開発をやってみたい人

2. 将来計画

電子情報工学科は、昭和63年に設置されてから工学の共通基盤となる「工学基礎科目」の上に、電子機器やIT機器及び情報通信技術の基盤となる「電子系科目」、2進数から始まるコンピュータシステムの構造や構成等に関する「ハードウェア系科目」と情報その

ものの定義から始まりプログラムの作成やソフトウェア開発などコンピュータの活用に必須な「ソフトウェア系科目」について教育してきた。

平成16年度に策定した電子情報工学科中期5ヶ年計画に従い、社会の趨勢にあわせ、電子系科目の統合、ソフトウェア系科目の新設や充実を行なってきた。平成20年度早々には、情報システム関連のものづくり、制御技術及びメディア情報処理の実験演習を充実させること及びPBL型授業に供するために創成教育ラボ、メディア情報演習室、情報システム実験室などを新たに設けた。平成21年度から5年生の必修科目と選択科目の1科目ずつを入れ替え、さらに情報系科目の充実を図る。

平成19年10月にもものづくり教育の経験を持つ教員を採用でき、他の若手教員とともにPBL型授業やメディア関連の実験演習での活躍が期待できる。その一環として、平成20年度の校長裁量経費の補助を受けて購入した自走型ロボットLEGO Mindstorm NXTを用いてアイデアの独創性を育て、問題解決を体験する演習を1年生のものづくり科学の授業に取り入れた。同じく校長裁量経費で購入したメディア情報実験設備を使い2年生の後期にデジタル画像の作成を行う実験を始めた。このように、新しい観点からPBL型授業やメディア情報処理についての実験などが展開できるようになった。

社会系情報科目は平成21年度より専攻科に「経営工学」として取り入れられることになった。今後、さらに情報系科目の充実と増加を図るべくカリキュラム改訂を検討したい。

3. 重点課題

昨年同様4年生のPBL型授業である「創造工学演習」の実践を通して高専プログラミングコンテストに2チーム、福井ソフトウェアコンペティションに1チームが参加した。プログラミング能力を競うパソコン甲子園には3年生1チーム、1年生1チームが参加し、3年生のチームはEPOC@松山2008にも参加して、両大会で好成績を修めた。また、学生発ふくいビジネスプランコンテスト2008には3件の応募があった。このように多くの学生が各種コンテストへ参加することにより学校外から高い評価を得ている。

一方、若手教員を顧問として本科1年生から専攻科生までを含んで結成された「IT研究会」はプログラミング及びメディアコンテンツ制作の鍛錬の場として活性化しており、平成20年度は同好会メンバーがプロコン全国大会競技部門に出場したり、情報オリンピックへ参加するなど活躍が目覚しい。また、「IT研究会」が運営の中心となって、昨年度に続き毎週日曜日11時から1時間、地域FM局「丹南ゆめレディオ」で福井高専のPR番組を放送し、本高専の広報活動への貢献だけでなく地域との連携を図っている。

小中学生の理科離れを防ぐために、自走型ロボットLEGO Mindstorm NXTを使った出前授業を行なって地域に貢献している。また、プログラミングに興味をもつ中学生を対象に寺子屋方式のプログラミング講座を開催した。

その他、平成20年度も引き続き福井県歯科医師会の要請を受けて「歯みがきロボコン」を共催し、小学生を対象とした「ファミリーロボット部門」の参加者のために歯みがきロボット製作教室を開催し、地域に貢献している。同コンテストの「自律ロボット部門」に「創造工学演習」で取り組んだ4年生1チームが参加した。さらに、福井県機械工業共同組合との間で行われた平成20年度福井高専連携推進支援事業「ロボット制御講座」では3名の教員が講師を担当し、地域貢献に寄与している。

4. 進学・就職指導状況

本年度は、リクルートのために来校したOB/OG諸氏と学生との意見交換会を頻繁に開催した。

高専機構発行の「社会で活躍している高専卒業生百傑」に選ばれた株式会社 jig.jp 取締役社長CEO福野泰介氏(平成11年度卒)の影響は大きく、アントレプレナーサポートセンターには電子情報工学科のOB・現役学生が多数入居し、起業をめざして活動している。中でも、本学科OBを中心とするメンバーの企画・立案した事業が情報処理推進機構主催の「2008年度上期末踏IT人材発掘・育成事業」に採択された。

平成20年度の卒業予定者34名のうち就職希望者、進学希望者はそれぞれ16名、18名である。進学希望者のうち本校専攻科に4名、国立大学に12名が内定している。電子情報工学科の平成20年度の求人数は、前年度を上回り、学校推薦を受けた学生全員が内定を受けた。就職内定先は、県内就職が4名、県外就職は11名である。県外では関西が5名であった。

本年度は、卒業生数が少なく県内企業からの求人に応えられなかったことは残念であるが進学者が県内に就職してくれることを願う。県外就職が増えた理由に、製造業だけでなくIT関連企業などの大企業からの求人活動が盛んであったことがあげられる。

II-5 物質工学科

1. 教育理念・教育目標

産業基盤である素材を化学の視点で学ぶ技術者を養成する。科学技術の発展(社会のニーズ)に適応したバイオ・材料技術に関する基礎能力(工学的素養)と、問題点を提起し解決できる能力(創造的デザイン力・総合力)を有する技術者を養成する。持続可能な永続型社会を築くために、材料および生物資源を有効にかつ環境と調和をはかりながら活用することができる技術者を育成する。

本科の5年一貫の実践的技術者教育の中で、3年までは基礎教育(分析化学、無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、化学工学)を、4、5学年では、2つのコース制(材料工学コース、生物工学コース)に分かれ、専門分野に特化した知識と技能を修得させる。

情報ソフト技術を備えた化学技術者を育成するために、基本的な情報技術者試験を受験する程度の資質と情報ネットワークに関する基礎知識を有する化学技術者を養成する。

2. 将来計画

上記のような教育理念・教育目標を中期計画の中で立て、実現すべく実行している。

本学科の特徴である、2つのコース(材料工学、生物工学)はこれからも堅持し、両分野での基礎となる教科の充実を図る。

化学技術者といえどもコンピュータに精通していることが求められており、各学年においてコンピュータ関連科目を配置し、情報教育を実施する。これまで、本学科では公害防止管理者や危険物取扱等の化学系の国家資格を取得するように推進してきたが、これに加えて、情報処理技術関連の国家資格の取得指導も行う。

福井県は原子力発電立地の重要拠点であり、物質工学科の卒業生に対しても「原子力・

放射線」への化学的視野が求められている。したがって、この分野のニーズに対応するために関連科目を強化する。

3. 重点課題

公開講座や出前講座の回数を増やすだけでなく内容を充実させる。これらを通して、地域社会に対して貢献するとともに、中学生が本学科に対して入学希望を抱かせるために、本学科の良さを伝える。学科独自の広報委員を定め、学科パンフレットの刷新、ホームページの充実を行う。

本学科の全教職員が、1年生の段階から直接に教育（「ものづくり科学」）を行い、その少人数教育の中で、物質工学の面白さを伝えるだけでなく、学生の人間形成に関与し、休学・退学する学生をできるだけ少なくする努力を行う。

進学（大学編入学および専攻科進学）する学生に対して、勉学の手助けを行う。

就職先の拡充を図るため、インターンシップ先や共同研究先を利用する。

4. 進学・就職指導状況

平成20年度卒業予定者36名のうち、就職希望者は21名、進学希望者は15名であった。景気動向が悪くなる中でも、就職希望者の全員が就職先を決めることができた。男子学生は、全て第一希望の企業に合格し内定した。女子学生も比較的順調であり、殆どの学生が第一希望の企業から内定を受けた。就職内定先を規模別にみると、大手、準大手企業が大半を占めている。地域別では、県外6割、県内4割となっている。本年度の就職状況を総括すると、学生が環境の厳しさを認識しつつも、企業側の求人活動に乗り、また、社会での卒業生の活躍や企業の本校学生に対する高い評価に支えられて、極めて堅調な就職状況であった。

進学希望者については、第一希望の学校に合格できなかった学生もいたが、推薦希望者8名をはじめ、全員がほぼ志望校に合格できた。

II-6 環境都市工学科

1. 教育理念・教育目標

平成17（2005）年、全国総合開発計画が国土形成計画に変換され、同年発足した独立行政法人国立高等専門学校機構は、全国土木工学系21学科の代表として環境都市工学科を、次のように定義づけた。

世界的な都市化に対応し、ヒトに優しく自然と調和した街を創造すると共に、生活がより安全、快適、便利に営まれるような社会基盤の整備などの環境保全型の技術者の育成を目標としている。そのため豊かな教養を身につけて、確かな基礎学力に裏づけされた感性を持ち、国際化、高度情報化社会に対応できる技術者の養成を目指している。

これを受けて、本校の環境都市工学科は、次のことを教育理念として掲げている。

共に、持続可能な地域や環境都市、人間像を追求し、そのことを社会資本として具現化する構想へと導いて、適格な地域、環境都市、多様な社会基盤施設の計画・設計・整備・維持・更新の在り方も、方法論や手続きなどを学び、研究し、実践する研究実践型技術者の創発に寄与し、地域との連携に努める。

この前提となるアドミッションポリシー（入学者受入方針）は次の通りである。

- (1) 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- (2) 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- (3) 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

また、本学科の教育の目的としては次の3つを掲げている。

- (1) 環境都市工学の技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成

“地球環境に配慮した持続可能な環境都市”を構想し、多様な“社会資本”、“建築”や“人工の環境”、などを創造できる建設技術者を養成する。そのため、環境都市工学科では構造力学・水理学・地盤工学などの力学系基礎科目を体系的に教育することに加え、環境都市計画論・計画数理学・建築計画などの計画系科目、環境衛生工学・建築環境などの環境系科目を重視して、理論に関する学習と演習をとおして理解を深め、応用力を養うことに努めている。さらに、情報化社会に積極的に対応するための情報処理能力の修得にも力を入れている。

- (2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成

専門基礎科目を応用し、さらに一步深く踏み込んで、環境都市工学に必要な幅広い専門分野についても学習し、将来“環境都市”の構築に関するいかなる分野に進んでも、十分に活躍できる技術者の養成を目指している。さらに選択科目（専門科目）を幅広く開講し、学生が将来の進路に応じて選択・修得でき、学習意欲が高まるように配慮している。

- (3) 実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成

各専門科目の学習速度にあわせ実験実習と設計製図を実施して、身をもって体験しながら理論を理解させ、あわせて実践能力・洞察力の育成にも努めている。さらに、第5学年の卒業研究では学生自身にテーマを選択させ、自発的な調査・研究を促し援助することにより、研究に対する工学的なアプローチ手法を修得させると共に、成果発表の機会を設けることにより、構成・編集・発表（プレゼンテーション）などの能力の養成に努めている。

2. 将来計画

平成21年度入学生から改正建築士法に対応したカリキュラムとした。それによって平成21年度入学生から、指定された選択科目の単位を修得して卒業すると、卒業後4年の実務で一級建築士試験の受験資格が与えられることになる。

本学科は、昭和45年に土木工学科として福井高専に開設された。平成5年に環境問題にも対応できる学科を目指して環境都市工学科に改組し、現在に至っている。開設以来、福井県内をはじめとした日本全国の建設系の企業や、国土交通省・福井県・福井市・越前市・鯖江市などの官公庁に多くの卒業生を輩出している。従来は土木系技術者の育成に重点をおいてきた。しかし、近年、入学生の要望や建設業界の動向を踏まえて建築系科目も充実した科目構成とした。なお、現在の1、2年生（平成19年度、20年度入学生）は改正前の建築士法に対応している。

卒業後の一級建築士試験受験資格取得を目指した今回のカリキュラム改正の成果が問われるのは、来年度入学生が卒業し一級建築士試験を受験する平成30年である。改正前

の一級建築士試験受験資格のある現2年生を対象とすれば平成28年である。しかし、対象学生が卒業するのは3年後、5年後である。したがって今後3～5年で次のことをする必要はある。

(1) キャリアパス教育の充実

本学科は前述のようにこれまで土木系技術者を世の中に輩出してきた。しかしながら、現2年生からは建築系技術者として社会に出て行く卒業生が出てくる。また、来年度入学生からは5学年の選択科目の履修内容によって卒業後の建築士試験受験資格が異なってくる。したがって、在学中に卒業後のキャリアパスを示す必要がある。さらにはキャリアパスを提示することによって、学生の学習意欲の向上を図らなければならない。

(2) キャリアパスに見合った教育内容の精査

卒業後のキャリアパスを示すと同時に、そのキャリアパスに見合った教育内容を提示し、実践していかなければならない。土木系技術者教育にはこれまでに培ってきた教育内容や教授方法があるが、建築系技術者教育にはそれがない。建築系カリキュラムをすでに実践している大学、高専との連携を密にしていく必要がある。土木系技術者教育、建築系技術者教育あるいは場合によっては土木建築複合型技術者教育のどれをとってもその分野のエンジニアリングデザイン能力の育成に関する教育が重要となる。

(3) 卒業生のキャリアを把握するシステムの構築

環境都市工学科卒業後に卒業生がどのような進路をたどりどのような職に就いているかを知り、卒業生が求めているものを、学科の教育内容および教授方法に反映させることが、キャリアパスに見合った教育の一番の近道である。社会のニーズはカリキュラムを経験している卒業生から得ることを第一とする。本学科には同窓会組織として「翔土会」がある。翔土会との連携を深めて、卒業生の意見の集約に努めていく。

3. 重点課題

(1) 環境都市工学科からの情報発信

環境都市工学科で行っていることを広く社会に発信していく。具体的には、①HPの充実、②学科紹介ビデオの作成、③出前授業の充実、④オープンカレッジ、サイエンスフェアの充実などがあげられる。社会への情報発信をすることによって環境都市工学科への入学志願者の増加も見込まれる。また、学科に在籍する学生への情報発信も重要である。具体的には、①キャリアパス、②科目の流れおよび科目内容、③取得資格の案内などである。学生への情報発信を充実させることにより、学生の学習への目的意識が高まり、学習意欲の向上に結びつけられる。基礎学力、専門学力の必要性を説明し、それら学力の向上を目指す。平成20年度にはその手始めとして、環境都市工学科棟エントランスにマガジンラックを設置し、学生に対する情報提供の場を分かりやすく設けて学科に送られてくる土木、建築関連の雑誌を学生が閲覧できるようにした。

(2) 同窓会組織「翔土会」との連携強化

卒業後3年から10年の卒業生の意見を聞くことが重要である。本学科で学習した知識と能力が卒業生の進むキャリアにとってのoutcomesとなっているかを把握しながら、授業内容を変更していかなければならない。そのためにも卒業生との定期的かつ密な連携をさらに強化する必要がある。

4. 進学・就職指導状況

進路指導は、進路指導委員会が主宰した、進路指導セミナー、SPI 模擬試験、内定者セミナーなどを通じて就業意識の啓発をはかり、学科としてさらに先輩講座、インターンシップ、土木学会映画会などを実施して土木建設関連の職種の説明を行った。近年、就職活動時期が早まり入社後のミスマッチ等の問題が生じているため、本年度の進路指導方針としては、進路希望先を決定する前に企業訪問や学校訪問を十分に行うよう指導し、早期離職者の発生を未然に防ぐ対応を行った。

これらの進路指導の結果、本年度卒業予定の環境都市工学科 1 2 期生 4 2 名の進路の内訳は、進学が 1 4 名（本校専攻科 1 0 名、広島大学 1 名、金沢大学 1 名、岐阜大学 2 名）、就職が 2 5 名で就職先は、公務員では福井県（土木職）、福井県（警察官）、福井市（一般事務）に各 1 名、民間企業では J R 東海、J R 西日本、中部電力、日水コン、三菱地所藤和コミュニティ、フジテック、富士通などの県外企業へ 1 3 名、構造設計研究所、サンワコン、クォード・コーポレーション、酒井設備、福井市農業協同組合などの県内企業へ 9 名、その他（進学希望者、公務員希望者）が 3 名である。年度当初の売り手市場の影響で就職希望者が例年よりも増加し、職種では今までにない建設設備会社への希望者が増加したこと、また、進学では本校専攻科への志願者が増加した点が本年度の特徴である。

Ⅲ. 専攻科

1. 教育理念・教育目標

(1) 概要

専攻科は、高等専門学校5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する人材を育成するために設けられた2年制の教育課程の組織である。本校の専攻科は、生産システム工学専攻（1学年定員：12人）および環境システム工学専攻（1学年定員：8人）の2専攻から構成されている。専攻科では、本科の全学科の4、5年次と専攻科の教育課程を融合して1つにした教育プログラム（日本技術者教育認定機構：JABEEの認定プログラム）を実施している。

(2) 教育目標

専攻科の教育目標は、下記の5つの大項目とそれらを細分化した32項目から構成される。

- ・ 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- ・ 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- ・ 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- ・ 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- ・ 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

ものをつくり出すことあるいはつくり出す過程が自然や社会などの地球環境に与える影響を常に考えられる能力（環境を意識したものづくり）だけにとどまらず、「人間が住みよい環境とは何か」、「人間だけが住みよくてよいのか」をも考慮できる能力（環境づくりができる）の育成を目指して、学習・教育目標に「ものづくり」に加え、「環境づくり」も掲げている。さらに、「もの」「人」「環境」の連携を図り、それらを有機的に結びつけるシステムのデザイン能力を育成している。

(3) 目指すエンジニア像

地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり・環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者の育成を目指している。

(4) カリキュラムの特色

本科5学科各々の専門知識の基礎を習得した後、専攻科では得意とする専門知識を深化させるとともに幅広い工学的素養を学ぶようになっている。また、他学科出身の学生と共同して、新しい課題・分野に挑戦する能力育成のための講義として「先端材料工学」および「ものづくり情報工学」、体験型学習として「創造デザイン演習」が用意されており、融合・複合した科目の充実を図っている。また、夏季休業期間を利用しコーオペ教育の一環として学生には約一ヶ月間のインターンシップを体験させている。さらに、アメリカのF E (Fundamental Engineering) 試験には経営工学の試験科目もあるように、会社を経営する際は ONLY ONE の技術とともに経営工学の知識が必要不可欠であるので、教育課程表を改定して「経営工学」の科目を来年度の2年生から開講する。

2. 将来計画

(1) 専攻科の拡充

将来、少子化による本科の学生定員の削減が予想されるため、専攻科所属の教員を配し、専攻科学生の定員増を図る。現在専攻科では、複合・融合領域で JABEE に認定された環境生産システム工学プログラムを実施しているので、専攻科の2専攻（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）のあり方などを検討し、コース制の導入も視野に入れ、学生定員増を図る予定である。例えば、福井県はエネルギー供給県であることを考慮してエネルギーコース等を設けることなどが考えられる。

(2) 学位授与権への対応

専攻科生の学士号取得は、2年生の10月上旬に大学評価・学位授与機構に学修成果報告書を提出後、12月中旬に行われる報告書に対する小論文試験を大阪で受験し、翌年2月中旬にその結果が郵送され、合格の場合は所定の手続きを行うことにより3月中旬に学位記が送付されてくる。学修成果報告書は、8月ぐらいから書き始め、下書き・修正を重ね9月末に完成させなければならず、このため特別研究の進展に支障をきたしているのが現状である。また、学修成果報告書に基づいた小論文試験が12月に大阪で実施されることに伴い、専攻科生は前泊しなければならず、経済的負担増となっている。そのためにも、学位授与権の取得、防衛大学校のような包括認定方式および学位審査権の一部割譲等を高等専門学校機構本部および全国の高専と協力して要望する。

3. 重点課題

(1) 技術者教育の充実

専攻科では、11の開講科目において実務経験豊かな技術士、弁理士、NPO 法人の理事長および起業家等の方々を非常勤講師として採用している。また、夏期休暇を利用して約1ヶ月のインターンシップ、北陸技術交流テクノフェアの参加、丹南産業フェアでの研究発表など技術者教育に力を傾注している。また、エンジニアリングデザイン能力（コミュニケーション能力、チームワーク力、構想力、問題設定能力）の向上を図るため、講義のほか出前授業、オープンキャンパス、サイエンスフェア等において活躍の場を専攻科生に提供している。

(2) 英語能力の向上・国際活動

専攻科修了要件の一つに TOEIC で 400 点以上の取得を義務づけている。英語能力の向上を図るために授業では現代英語（100分×30回）および専門英語を工学演習（100分×22回）で教授している。また、TOEIC-IP 試験を本校で年5回実施し、高得点者は修了時に表彰することを通して、英語に対するモチベーションを高めるようにしている。さらに、専攻科生の海外での学術活動およびボランティア活動を支援するため、海外活動支援制度を設けて経済的支援をしている。

(3) 本科との連携

専攻科生を対象に実施している総合試験（基礎学力確認試験：数学、物理、情報等）や TOEIC-IP 試験を本科生にも開放している。その受験者は年々増えており、これらの試験を就職試験、専攻科入学試験・大学編入学試験のための模擬試験や英語に対するモチベーションを高めるための機会というような積極的な位置付けを行っている。このため、今年度の専攻科入学志願者数は過去最大を記録しており、より一層の本科との連携の強化を図る。

IV. 教務関係

1. 基本方針

教務活動は、本校の教育理念と、養成すべき人材像に沿った教育を行うための業務運営が主たる活動である。このため、教育目標を達成するための、最も効果的なカリキュラム編成、授業方法、評価方法の研究と実施が重要な職務と考えられる。また、これらの目標を達成するための人材の確保手段としての入試に対する取り組みも重要な業務に上げられる。現在、これらの業務を達成すべく目標に向かって努力を続けている。ここでは現在の本校の教務活動に関し、教務関連の課題と今年度の対応を概説し、校舎改修に関する対応および特に問題となっている入学者確保に関する対策を詳細に記載する。

2. 教務関連の課題と今年度の対応

本校の教育理念である、「創造性豊かな人材の育成、幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育、高度に情報化した国際社会に対応する教育、環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」を行うため、各学科が教育目標を掲げ、そのためのカリキュラムを編成している。以前の機関別認証評価において最も重要視された事項が「教育理念があり、それに沿ったカリキュラムが編成されているか」であり、今後とも、このことに留意したカリキュラム編成研究が重要であると思われる。

平成18年度に高等専門学校設置基準が改訂され、高等専門学校にこれまでの履修単位ばかりでなく、学修単位が60単位まで導入することが認められた。これによって、さまざまな授業形態が考えられるようになったが、同時に各学校独自の個性ある教育方法が問われることとなった。本校では各学科の高学年に講義演習タイプの約20単位の学修単位を導入したが、実質的に講義の時間数は変化していない。一方、4、5年に専攻科と同様な単位換算の講義タイプの学習単位を導入する高専が出始めている。本校では、他高専の導入状況と問題点を検討しながら、慎重に導入時期を決定したい。

本校では平成17年度より、中学生・保護者の要望と低学年の創造教育進展のために、低学年のクラス編成と入試制度、カリキュラムを改訂した。具体的には、学力入試で各科8名の工学基礎コースを設け、2年進級時に本人の志望と成績により転科が可能になる制度である。これは高専への入学の意思はあるものの、希望学科が特定できないという生徒・保護者や中学校教諭からの意見により本校が独自に始めた制度であり、現在学力受検者の約7割が希望し人気が高い。実際の転科の状況としては、平成17年度には14名、18年度には5名が希望し全員転科が実現した。19年度には11名が希望し、1名転科できない学生が出たが、本人へ将来の進路を説明し納得が得られている。また、この制度を設けるに当たり、1年の1クラスを工学基礎コース、他のクラスを混合学級とした。さらに、ものづくり科学という創成型の授業を開始するなどのカリキュラムの改訂を行った。この制度の入学者が現在4年生にまでなっており、現状の検証を詳細に行っている。京都の堀川高校など創成型授業が普通高校でも注目を集めているが、本校では基礎学力の向上を重視し、工学基礎コースの精神を生かしながらさらに魅力ある高専教育を実現するために、制度の改正に着手したい。

一昨年度より導入した1コマ100分の授業の問題点を改善するため、今年度より一部試行していた50分授業の割合を増やし、できるだけ3.5コマ（50分授業では7限）で終了で

きるように時間割を改正した。現状では４コマ（８限）終了の日が週１回火曜日に特定の学年で生じるが、将来は全ての曜日が３．５コマ（７限）で午後４時頃に終了できるようにカリキュラムの改訂を継続して検討したい。

３． 校舎改修工事に伴う教務関連の今年度の対応

高専機構に要望していた校舎の改修が認められ、平成２０年度にそのⅠ期工事として、本館（主に２～４年の教室がある南北向きの校舎）の改修が７月から翌年１月までの日程で開始された。さらにⅢ期工事として予定されていた機械工学科棟の改修工事を今年度の１～３月に前倒しで実施することになり、行事予定や代替教室等教務関連の対応を行った。

Ⅰ期工事では８～９月の２ヶ月間を連続した工事期間として確保する必要があるため、行事予定を通常と異なる形式（７月下旬に期末試験、８～９月が夏季休業、４～７月は月１回土曜日または祭日が登校日）で実施することとした。また、実験室や会議室等を教室用に改修し、代替教室を全部で１３教室学内に設けて対応した。来年度にはⅡ期工事として電気電子工学科棟と物質工学科棟の改修工事が５月以降に予定されており、学生に少しでも良い教育環境を提供するように継続して努力したい。

４． 入学者確保とその状況

本校の教育理念に沿った教育を行うため、また、本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。過去３年間の入試倍率の推移を以下の表に示すが、入試倍率が１７年度の１．８倍から１．７倍、１．５倍へと少しずつ低下し、低下傾向に歯止めがかからない状況かと心配された。ただ、昨年度に今までの結果を検証し、①入試に関する１年生へのアンケート調査、②推薦基準の改正、③入試会場の増設、④全中学生配布用入試リーフレットの作成、⑤入試関連行事の見直しと改善などを行い、１．７倍に倍率が回復した。今年度は昨年度の方針を継続し、さらに福井市に入試合場を増設するなどの対策を行っており、以下にその内容を記す。

<過去３年間の入試倍率の推移> () 内は女子で内数。

年度	学 科 [募集人員]	機 械 [４０]	電気電子 [４０]	電子情報 [４０]	物 質 [４０]	環境都市 [４０]	計 [２００]
H20	志願者数	67(3)	59(3)	86(11)	80(25)	50(8)	342(50)
	合格者数	40(1)	41(2)	41(6)	40(14)	41(10)	203(33)
	倍 率	1.7	1.5	2.2	2.0	1.3	1.7
H19	志願者数	55	55(3)	59(6)	68(23)	63(12)	300(44)
	合格者数	41	40(3)	40(5)	41(17)	40(8)	202(33)
	倍 率	1.4	1.4	1.5	1.7	1.6	1.5
H18	志願者数	78	60(5)	70(9)	70(25)	53 (11)	331 (50)
	合格者数	40	40(4)	40(5)	41(20)	41 (10)	202 (39)
	倍 率	2	1.5	1.8	1.8	1.3	1.7

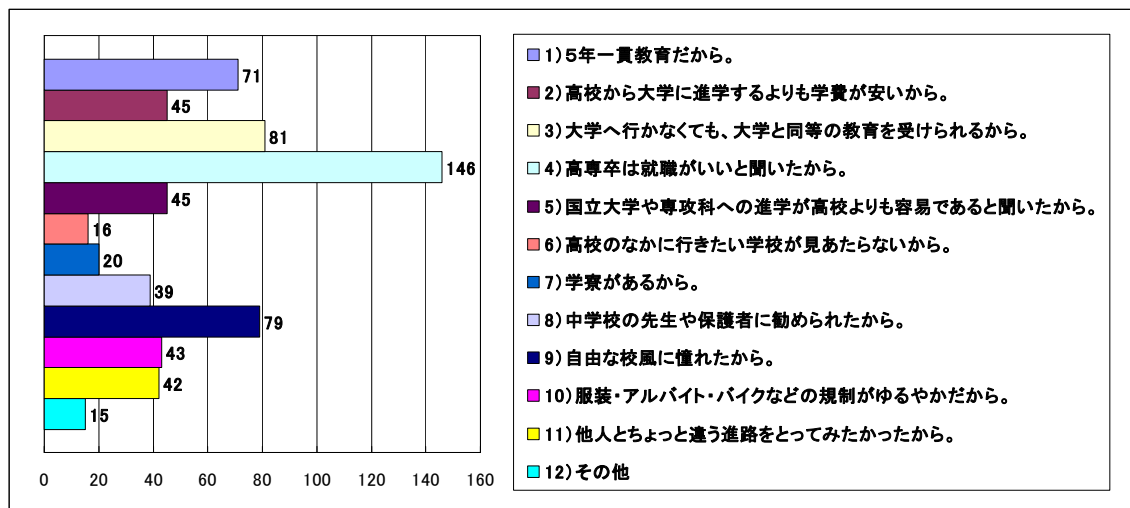
(注)平成２０年度の入学者選抜試験中学校別合格者数をこの項目最後に添付する。

(1) 入試に関する1年生へのアンケート調査

4月に新1年生に対し、入試に関するアンケート調査を実施し、今年度の入試に関する方針を決定するための基礎資料とした。以下に例として、本校を志望した理由とアドミッションポリシーに関するデータを示す。

① 本校を志望した理由

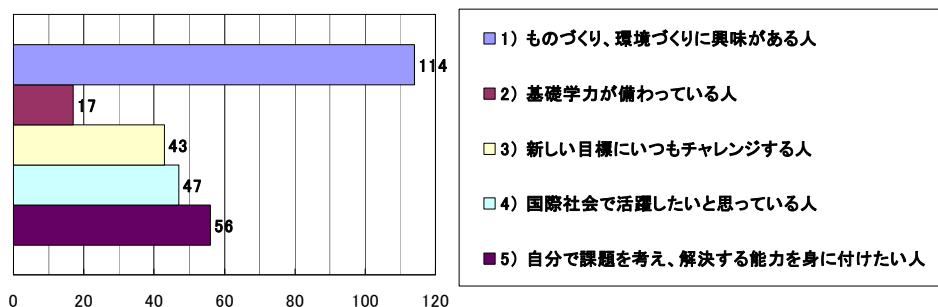
本校を志望した理由を複数回答可で集計したところ、以下のグラフのように、「高専卒は就職がいいと聞いたから」が一番多くなり、2番目が「大学へ行かなくても、大学と同等の教育を受けられるから」で、3番目が「自由な校風に憧れたから」であった。このことにより就職という観点が中学校の生徒へは非常に重要であることが分かる。また、「国立大学や専攻科への進学が高校よりも容易であると聞いたから」という将来の進学を挙げた学生は予想ほどはいなかったが、ある程度の割合はあり、保護者や中学教員へのアピールとしては重要な項目と考えられる。



<福井高専を志望した理由（複数回答可）>

② アドミッションポリシー

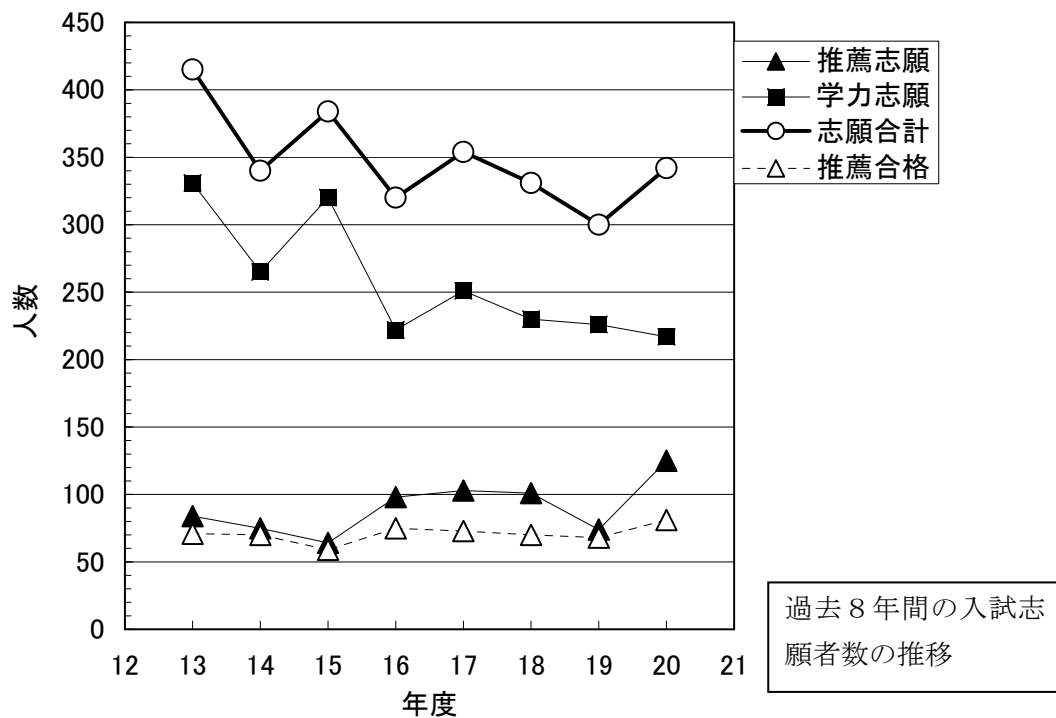
福井高専のアドミッションポリシーの中で、魅力を感じ、福井高専志望の理由となったものは何かを複数回答可で質問したところ、以下のように「ものづくり、環境づくりに興味がある人」が一番多くなった。本校で一番重視している項目であり、現状のアドミッションポリシーに沿った学生が入学しており、適切な状況と考えられる。なお、環境都市学科のアドミッションポリシーを、建築の内容を含み分かりやすい文章に修正した。



<アドミッションポリシーの中で福井高専志望の理由となったもの（複数回答可）>

(2) 推薦基準の検討

本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。中学生の生徒数の減少と共に、本校の入試倍率は平成17年度1.8倍、18年度1.7倍、19年度1.5倍と低下傾向が続いていたが、昨年度推薦基準の改訂（緩和）を行い、1.7倍にまで増加した。下図に過去8年間の入試の志願者数の推移を示す。



昨年度改訂した内容は以下の通りである。

- (a) 推薦要件の緩和（対象学年を2、3年とし基準点数を68点以上に低減）
- (b) 募集人員を30％程度から35％程度に5％（各科2名）増加

この改定案は、過去の入試データおよび入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出した内容である。今年度入学した1年生の入学後の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績はなんら問題がなく、この基準を今年度の入試にも継続して採用することにした。

(3) 入試会場の増設

一昨年度は嶺北北部のあわら市、昨年度は嶺南の敦賀市に入試会場を新設した。今年は人口の多い福井市にも入試会場を設けることを検討し、JR福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ7階の放送大学福井学習センターで実施することに決定した。これで福井高専会場を含めると、滋賀県彦根市会場、あわら市会場、敦賀市会場に続く5つ目の会場になる。入試会場が近くなる奥越地区や受検者が減少傾向の福井地区に歯止めがかかり受検者が増加することが期待されるが、本校の寮の定員増加策を同時に検討すべきである。

(4) 全中学生配布用入試リーフレットの作成、学校紹介CDの改訂

入試関連の中学生に対する本校紹介用資料としては、冊子体のカレッジガイドを用いており、中学校訪問時や郵送で県内全中学校および滋賀県・石川県の中学校に指定部数を配布し、オー

ブンキャンパスや入試説明会等の参加者に渡している。一方、県立高校では各高校を紹介する資料を中学生全員に配布しており、その中に本校の情報が含まれていないことが指摘されていた。この問題を入試委員会で検討し、昨年度新たに「福井高専Q & A」というA4版のリーフレットを作成し福井県内の中学生全員に配布することにした。今年は6～7月の福井県および滋賀県の中学訪問時に持参し3年生全員への配布をお願いした。また、2年時に将来の進路指導を考えさせている中学校が多いとの指摘があり、県内の中学校2年生全員に配布して頂くようお願いし、滋賀、石川県内中学校の2年生対象には指定部数を9月に郵送した。

また、本校紹介用のCD（ビデオ映像）を新たに作成し、名称を「高専という選択」と改め、オープンキャンパス等で配布したり、中学校訪問時に持参した。

(5) 入試関連行事の見直しと改善

① 校長・副校長による県内の中学訪問と挨拶（4、5月）

年度の当初に校長・副校長が丹南および福井市南部地区の主要中学校を訪問し、各中学校校長に対して前年度の志願者派遣に対する謝礼を述べている。また、副校長が残りの県内のほぼ全中学校を訪問し、前年度の御礼と今年度の入試関連行事の予定、特にあじさいオープンキャンパスへの参加をお願いした。

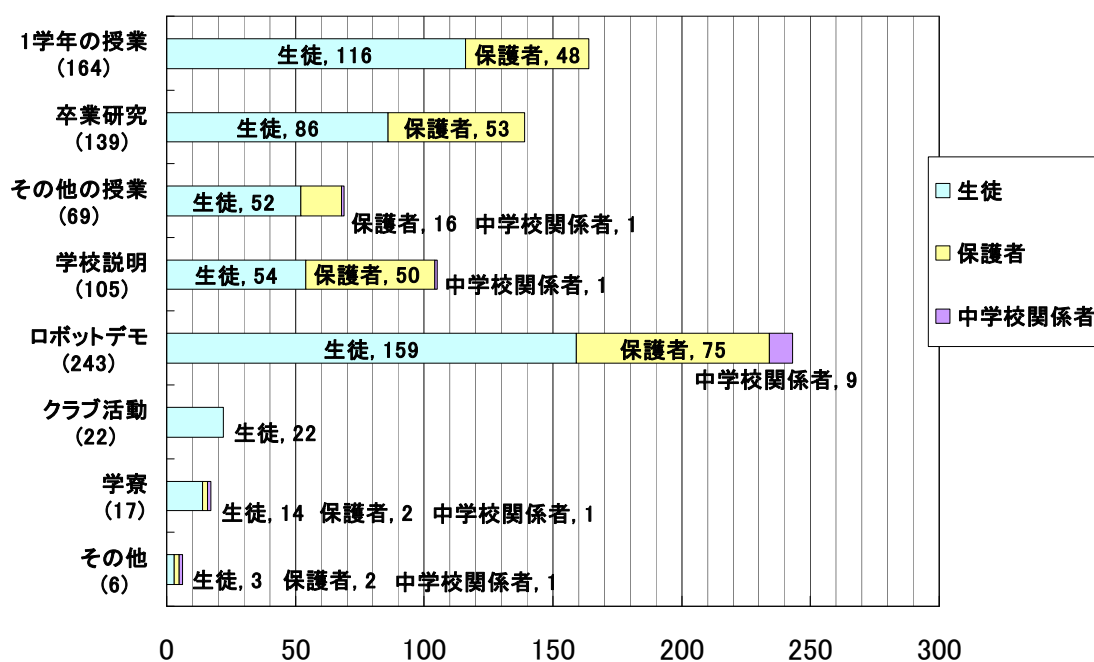
② あじさいオープンキャンパス（6月）

福井県内の高校が5、6月にオープンスクールを実施するようになったことに対処するため、本校でも平成18年度より6月にアーリーサマーオープンカレッジを開催することとした。今年度は季節感が出て中学生が覚えやすくなるように、あじさいオープンキャンパスという名称に変更した。夏の従来のオープンキャンパスと区別するため、このオープンキャンパスでは文字通りに実際の授業を中学生・保護者・中学関係者に参観してもらうこととしている。

昨年度より保護者が参加しやすいように開催日を土曜日とし、声が聞こえにくく見えにくいなどの意見があったため、学校説明会の会場を2～3ヶ所に分散させた。またスライドの内容を吟味して作成し、生徒や保護者に本校の状況を分かりやすく説明するようにした。さらに、本校のものづくりコンテストの紹介として、ロボコンの実演を行った。公開授業としては、昨年度と同様の「ものづくり教育」関連授業として1年のものづくり科学や5年の卒業研究・実験を行った。

6月21日（土）に開催したが、生徒が263名、保護者が153名、教諭が30名で合計446名の参加であった。昨年度より51名減少したが、参加中学校としては7校増加している。また一昨年度と比較すると112名増加しており、十分な宣伝効果があったと考えられる。

オープンキャンパスで興味を持ったのは何かという質問をしたところ、次頁の図のように一番多かったのは、ロボットのデモ（ロボコン参加ロボット等の実演）であり、その次は1年のものづくり科学、5年の卒研、学校の説明と続く。この結果は昨年度の結果とほぼ同じであり、ロボットのデモやものづくり関連の体験型授業に興味が多くなっており、今後もこの方針は継続すべきと判断される。



③ 中学校訪問（6月中旬～7月上旬）

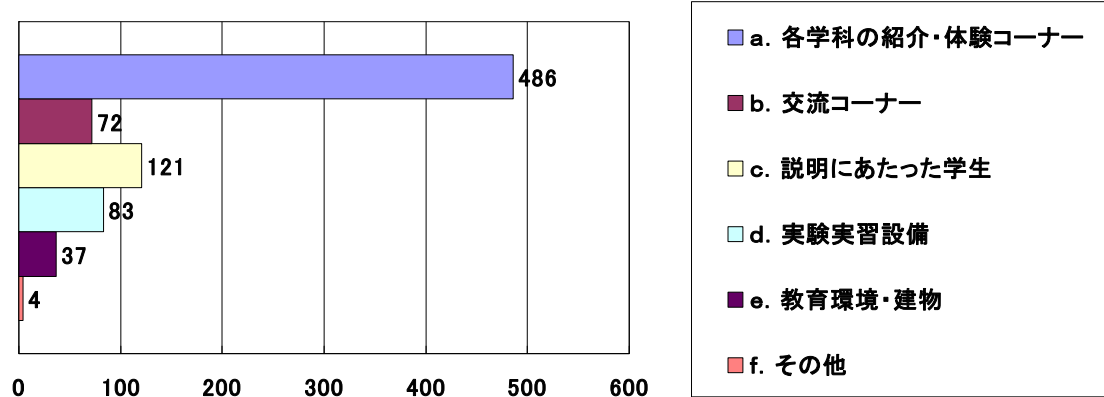
6月中旬から7月上旬にかけて、県内のほぼ全中学校と滋賀県の中学校を副校長、学科主任、教務委員が分担して訪問した。昨年度から、教員ができるだけ2人体制で訪問することとし、詳細な訪問マニュアルも作成した。さらに今年の入試の変更点の印刷物を作成し、中学校に早めに案内することにした。応募者が減少傾向の滋賀県は教務主事団が2人体制で訪問した。また、昨年度入試会場として敦賀会場を新設したため、若狭地区の中学校もほぼ全校を訪問した。さらに今年度は新たに石川県の中学校の中で、昨年応募者のあった福井県側の加賀市、小松市の中学校を訪問した。

④ オープンキャンパス（8月初旬）

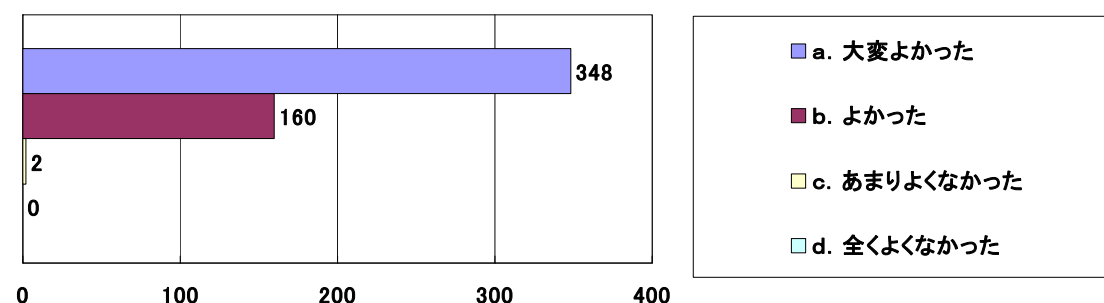
毎年夏に、本校の各学科の内容を中学3年生・保護者・中学校関係者に紹介するために開催している。以前は体験入学と呼ばれていたが、各学科の5年生が準備して実際にデモ実験等を体験できるように中学生に人気がある。例年多くの参加者があるがここ数年減少傾向で、特に一昨年は6月にアーリーサマーオープンカレッジを事前に開催したため、参加者は約200名弱減少した。昨年はアーリーサマーオープンカレッジの参加者が増加したため、さらに減少することが懸念されたが、アーリーサマーとの違いを説明して中学校を訪問したところ、一昨年より120名増加した。今年度は名称をオープンキャンパスと改めて8月5日（火）に開催を計画した。北信越中学体育大会に日程が重なったため参加者減が心配されたが、最終的な参加者は、生徒数395名、保護者139名、教員35名（総数569名）となった。参加総数は昨年より12名の減少であるが、一昨年と比べると106名増加している。非常にありがたいことであるが、オープンキャンパスを両方ともに参加した生徒は161名もいた。

実施後のアンケート結果は次のようである。昨年度と同様であるが、各学科が工夫を凝らし体験コーナーが充実していたため、学科のコーナーの評価が高かった。また、全体の満足度も非常に高くなった。なお、開催日に関してもアンケートを採ったが、現在の日程（8月初めの平日）が最も賛同者が多く、来年度も今年のような日程で良いと判断される。

(a) 一番印象に残ったこと (一つ回答)



(b) 満足度



最後にオープンキャンパスの参加者を過去5年間で比較した(下表)。この表からも分かるように、今年度の参加者は6月と8月の合計で1,015名あり、昨年より63名減少してはいるが、それ以前と比較するとかなり増加している。参加中学校は延べ136校で最高の数字である。実際、今年度の生徒の参加者658名から重複参加者161名を引いた数は497名であり、過去5年間で昨年度の次に多い数字となっている。

<過去5年間のオープンキャンパス参加者・参加校数の推移>

区 分		参加校	参 加 者			
			生徒	保護者	教諭	計
20年度	6月	56	263	153	30	446
	8月	80	395	139	35	569
	計	136	658	292	65	1015
19年度	6月	49	301	170	26	497
	8月	78	435	116	30	581
	計	127	736	286	56	1078
18年度	6月	38	235	84	15	334
	8月	76	317	117	29	463
	計	114	552	201	44	797
17年度		82	474	148	37	659
16年度		83	489	138	39	666

⑤ 入試相談コーナー（８月、１０月）

８月９日（土）、１０日（日）に開催された「誘・遊・愉おもしろフェスタ in サンドーム福井」の高専コーナーおよび１０月１８日（土）、１９日（日）開催の高専祭のサイエンスフェア（学科催し）において、入試相談コーナーを設け本校の紹介と入試の案内を行った。特におもしろフェスタの方は、夏のオープンキャンパスが北信越中学体育大会と日程が重なったため、オープンキャンパスに参加できない生徒はおもしろフェスタへ参加するように中学校にお願いした。その結果中学３年生が１０名、２年生が４名、１年生が１名参加し、保護者や中学教員も相談に訪れ、昨年度初めて実施した時と比べて大幅に増加した。高専祭の方は、中学３年生よりも中学１、２年や小学生が保護者と訪れることが多く、長い目で見た入試対策として今後も継続すべきと考えている。

⑥ 中学校訪問（９月）

福井市のアオッサに入試会場を新設することに決定したため、その宣伝と入試会場応募時の注意点を説明するために、福井市から奥越地区のアオッサに関係する全中学校（３５校）を訪問した。特に、奥越地区や福井駅周辺の中学からはアオッサ会場新設に好意的で、入試時の送迎が楽になったと感謝の言葉を頂いた。

⑦ 入試説明会（１０～１１月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科主任・教務委員によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県１０会場（１１回）、滋賀県６会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（２回）と高専会場（２回）以外は副校長と教務委員がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容を昨年より多くし分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去３年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で６１名、合計で１４８名減少していた。オープンキャンパスの時の参加者数や福井新聞に９月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して減少していたが、入試説明会の減少数が多い。説明会参加者数の減少割合が高い中学校は、昨年度入試時の不合格者数が多かった中学が大体対応しており、昨年の倍率が高かったことが影響していると考えられる。なお、越前市および近隣の中学校は参加者が増加していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年と同数の１０校から参加依頼があり、副校長が５回、教務委員が５回出席し入試に関する話を行った。なお、ブース形式で複数回少人数に話をする形式の中学校が３校あった。

＜過去３年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（９月集計）の推移＞

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
20 年度	268	223	65	556	254
19 年度	329	297	78	704	278
18 年度	257	237	69	563	226

⑧ 中学校訪問（１２月）、環境都市一級建築士受験資格認可のパンフ配布

入試説明会の参加者数が減少したため、参加者数が減少した中学と丹南地区及び福井市中心部の中学校を訪問した。また、環境都市工学科が一級建築士受験資格に対応したカリキュラムの審査が認可されたため、県内の全中学校にパンフレットを作成し配布した。

５． 留学生受け入れ状況

本校では、諸外国との相互理解と友好の増進に寄与するため、外国人留学生を受け入れている。今後も国際協力のため積極的に受け入れを続けたい。また、他の学生にとっても学校・クラス内に留学生と日常的に接することができるのは、国際社会の一員であることを理解するためにも有益と考えられる。平成２０年度の留学生の在籍状況は下表のとおりである。

国 名 学年・学科		マレーシア	ラオス	カンボジア	バングラディッシュ	インドネシア	合計
３年	機械工学科	1					1
	電気電子工学科					1	1
	電子情報工学科			1			1
	小計	1		1		1	3
４年	機械工学科	1					1
	電気電子工学科	1	1				2
	電子情報工学科				1		1
	小計	2	1		1		4
５年	機械工学科	1					1
	小計	1					1
合 計		4	1	1	1	1	8

６． 在校生の状況

平成２０年度の在籍状況は以下のとおりである。（平成２０年１０月１日現在）

<本科>

学 科	定 員		現 員					
	学 級	学科	１年	２年	３年	４年	５年	合 計
機械工学科	40	200	40 (1)	41 (0)	43 (0)	37 (3)	36 (1)	197 (5)
電気電子工学科	40	80	41 (2)	45 (3)	40 (3)	—	—	126 (8)
電気工学科	—	120	—	—	—	41 (4)	36 (1)	77 (5)
電子情報工学科	40	200	41 (6)	42 (4)	40 (6)	34 (6)	34 (10)	191 (32)
物質工学科	40	200	40 (14)	44 (17)	36 (20)	37 (12)	36 (11)	193 (74)
環境都市工学科	40	200	41 (10)	35 (8)	39 (10)	34 (8)	43 (5)	192 (41)
合 計	200	1000	203 (33)	207 (32)	198 (39)	183 (33)	185 (28)	976 (165)

（ ）内は女子で内数

<専攻科>

専 攻	1 年	2 年	総 計
生産システム工学専攻	16 (1)	18 (0)	34 (1)
環境システム工学専攻	16 (1)	12 (5)	28 (6)
計	32 (2)	30 (5)	62 (7)

() 内は女子で内数

平成20年度入学者選抜中学校別合格者数等一覧

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
東和中学校	1			1		2							1			1		2
石川県小計	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
福井大学教育地域科学部附属中学校									1			1			1			1
明倫中学校			1			1			3		2	5			4		2	6
光陽中学校					1	1		1				1		1			1	2
明道中学校							1					1	1					1
進明中学校										1	1	2				1	1	2
成和中学校	1					1			1	1	1	3	1		1	1	1	4
安居中学校								2	1			3		2	1			3
大安寺中学校								1				1		1				1
至民中学校								1				1		1				1
藤島中学校			1	1		2	1				1	2	1		1	1	1	4
大東中学校											3	3					3	3
殿下中学校								1				1		1				1
足羽中学校		2		1		3	2		2		1	5	2	2	2	1	1	8
鷹巣中学校	1					1							1					1
森田中学校				1		1			1		2	3			1	1	2	4
社中学校		1			1	2		1	2			3		2	2		1	5
足羽第一中学校		1	1			2			1	1		2		1	2	1		4
越廼中学校	1					1							1					1
清水中学校							1					1	1					1
松岡中学校			1			1									1			1
永平寺中学校		1				1		1	1			2		2	1			3
開成中学校		2				2	1				1	2	1	2			1	4
陽明中学校	1				1	2	1					1	2				1	3
勝山中部中学校	1					1	1					1	2					2
勝山北部中学校				1	1	2				2		2				3	1	4
かつやま子どもの村中学校							1					1	1					1
芦原中学校								1				1		1				1
金津中学校	1		2			3							1		2			3
三国中学校					2	2											2	2
丸岡中学校	1	1			1	3			1	1	2	4	1	1	1	1	3	7
丸岡南中学校			1			1				1		1			1	1		2
春江中学校	1	1			1	3	2			1		3	3	1		1	1	6
坂井中学校											1	1					1	1
鯖江中学校		2		1	1	4			1		1	2		2	1	1	2	6
中央中学校	1	1	2	3		7	2			1	2	5	3	1	2	4	2	12
東陽中学校		1	1		1	3	1		1	2		4	1	1	2	2	1	7
武生第一中学校		1	2	1		4	2	3	1	2	2	10	2	4	3	3	2	14
武生第二中学校		2				2			1	1	1	3		2	1	1	1	5
武生第三中学校										1	1	2				1	1	2
武生第六中学校			1	1		2		1				1		1	1	1		3
万葉中学校	2					2	2		1		1	4	4		1		1	6
武生第五中学校			1			1									1			1
南越中学校					1	1		4		4	2	10		4		4	3	11
池田中学校				1		1				1	1	2				2	1	3
南条中学校			1			1	1	1	1			3	1	1	2			4
今庄中学校				1		1			1			1			1	1		2
朝日中学校			1			1		1	1		1	3		1	2		1	4
宮崎中学校				1		1										1		1
越前中学校								1				1		1				1
織田中学校								1				1		1				1
気比中学校			1	1		2		1		1		2		1	1	2		4
松陵中学校										1		1				1		1
栗野中学校	1	1				2				1	1	2	1	1		1	1	4
美浜中学校									1			1			1			1
福井県 小計	12	17	17	14	11	71	19	22	23	23	28	115	31	39	40	37	39	186

平成20年度入学者選抜中学校別合格者数等一覧

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
日吉中学校	1					1							1					1
彦根南中学校					1	1											1	1
長浜東中学校								1				1		1				1
八幡中学校				1		1										1		1
聖徳中学校							1					1	1					1
志賀中学校									1			1			1			1
信楽中学校							1					1	1					1
日野中学校	1					1							1					1
多賀中学校							1	1				2	1	1				2
高月中学校				1		1										1		1
今津中学校							1					1	1					1
高島中学校	1					1							1					1
湖西中学校					1	1											1	1
滋賀県小計	3	0	0	2	2	7	4	2	1	0	0	7	7	2	1	2	2	14
男山中学校	1					1							1					1
京都府小計	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合 計	17	17	17	17	13	81	23	24	24	23	28	122	40	41	41	40	41	203
男	17	15	13	6	10	61	22	24	22	20	21	109	39	39	35	26	31	170
女	0	2	4	11	3	20	1	0	2	3	7	13	1	2	6	14	10	33

V. 進路指導関係

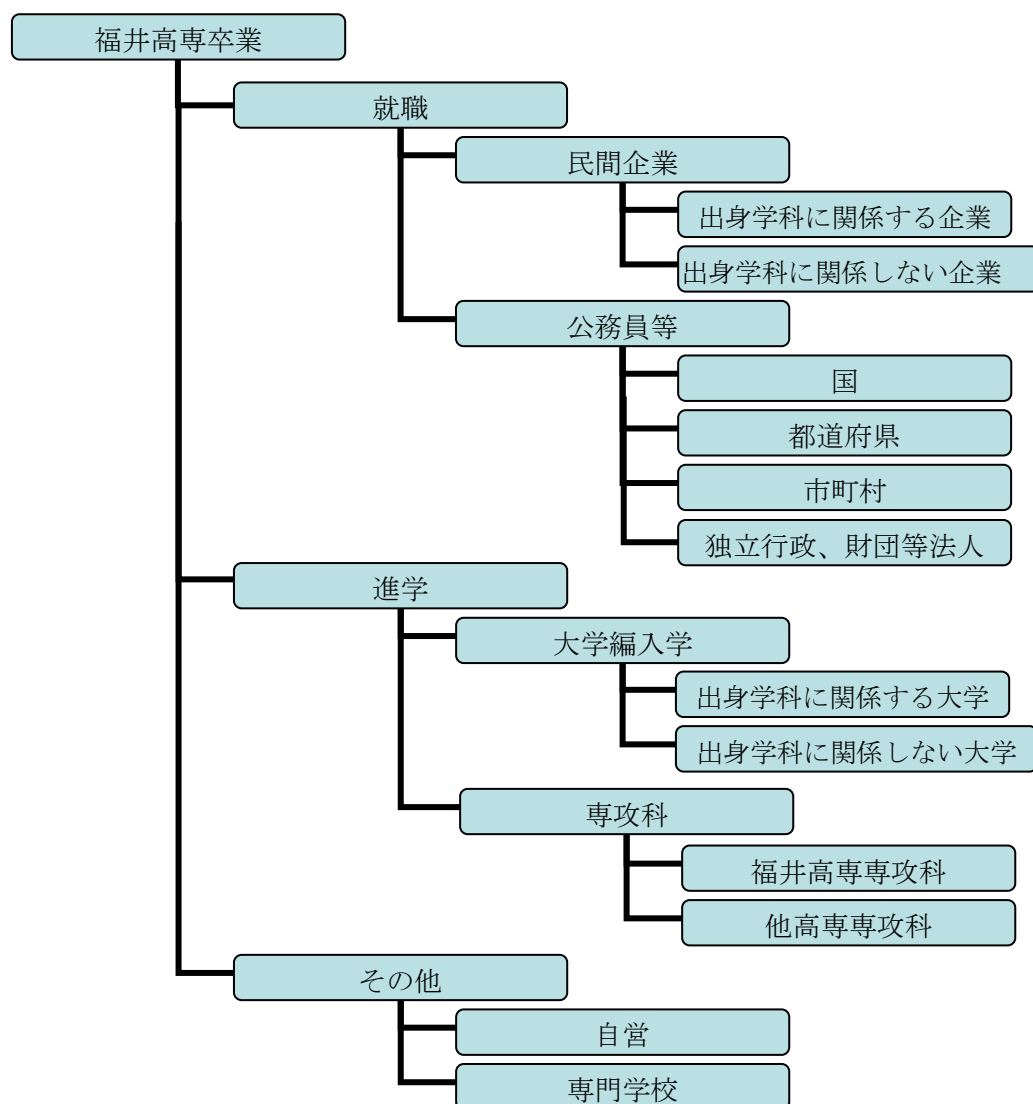
1. 基本方針

高等専門学校は設置以来、卒業生の産業界での活躍もあり、求人倍率が高倍率を続けてきた。また、高学歴社会を望む社会の風潮から大学編入を求める時期もあったが、近年は価値観の多様化によって学生は就職、大学編入、専門学校などへと幅広い選択をするようになって来た。本校では、将来技術者として活躍を期待される学生の重要な決定事項である進路について、進路指導委員会と各学科が綿密な連絡をとりながら学生の指導に当たっている。

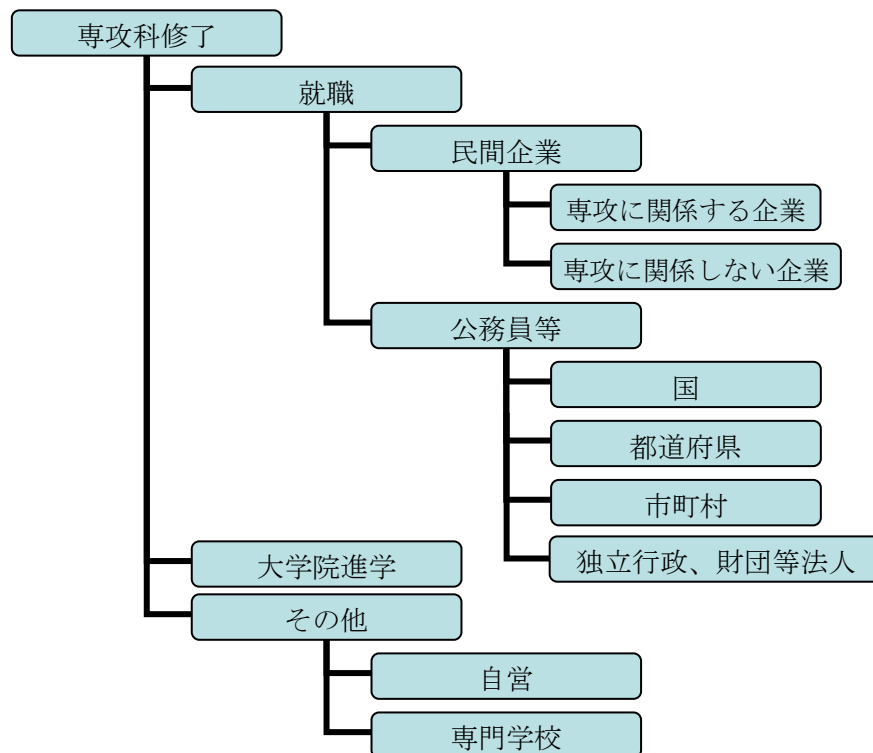
2. 本校卒業後・修了後の進路

本科生および専攻科生の進路を下図に示す。

(本科生の場合)



(専攻科生の場合)



最近では専攻科の設置や大学の編入生受け入れ数の増加などによって、進学を希望する学生数が増える傾向にある。平成20年度卒業予定の本科生の場合、就職者と進学者の比率はおおよそ55:45である。また就職を希望する学生に対する求人倍率は本科については約2.4倍、専攻科については約3.2倍であり、平成20年12月末現在、進学予定者を含めた進路内定率は約98%となっている。なお価値観の多様化によって、出身学科にそれほど関係しない企業や大学へ進むことを希望する学生もいる。

3. 進路決定の流れ

就職に関しては、本科4年、専攻科1年の3月には全国規模の大手企業の就職活動が始まる。環境系では、公務員試験を受ける学生も多いが、専攻科2年で受検できる公務員試験は、国家Ⅰ種、国家Ⅱ種、福井県Ⅰ種、市町村などである。本科5年で受検できるものは、国家Ⅱ種、国家Ⅲ種、福井県Ⅱ種、市町村などである。また消防官、警察官や防衛省、気象庁、海上保安庁などの職員採用試験がある他、独立行政法人や財団法人と呼ばれる公務員に準じた進路もある。

進学に関しては、本科では5月下旬頃から推薦選抜による編入学試験が、また6月からは学力選抜による編入学試験が始まる。専攻科生に対する大学院の入試は、6月頃から始まる。

以上のような就職・進学について、学生に対してタイムテーブルで示したものが下表である。

			3年												4年												5年											
															専攻科1年												専攻科2年											
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
卒業までの流れ	工場見学旅行			インターンシップ 実習先決定 校外実習 校外実習報告会 進路の決定時期 個人面談 個人面談 進路希望調査 保護者面談																														卒業式・修了式				
修了までの流れ				インターンシップ インターンシップ報告会																																		

4. 進学・就職先一覽 (平成19年度)

機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	専攻科	生産 システム	環境 システム
進 学 (16名)	進 学 (18名)	進 学 (17名)	進 学 (20名)	進 学 (17名)	進 学 (6名)	(2)	(4)
福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	福井工業高等専門学校専攻科	長岡技術科学大学大学院		2
電気通信大学	長岡技術科学大学	新潟大学	東京工業大学	長岡技術科学大学	長岡技術科学大学		1
長岡技術科学大学	筑波大学	金沢大学	筑波大学	福井大学	2 福井大学大学院	2	1
金沢大学	1 名古屋大学	1 福井大学	6 長岡技術科学大学	2 豊橋技術科学大学	1		
福井大学	1 豊橋技術科学大学	2 豊橋技術科学大学	3 金沢大学	1 岐阜大学	2		
豊橋技術科学大学	2 三重大学	1 大阪大学	1 豊橋技術科学大学	3			
岐阜大学	1 立命館大学	2 神戸大学	1 神戸大学	1			
神戸大学	1	1 和歌山大学	1 広島大学	1			
九州工業大学	1		1 羽衣国際大学	1			
就 職 (22名)	就 職 (21名)	就 職 (14名)	就 職 (20名)	就 職 (23名)	就 職 (20名)	(9)	(11)
●県 内<9名>	●県 内<5名>	●県 内<5名>	●県 内<8名>	●県 内<9名>	●県 内<12名>		
㈱鯖江村田製作所	1 信越化学工業㈱武生工場	1 ㈱システム研究所	1 清川メッキ工業㈱	1 サカイオーベックス㈱	1 アイテック㈱		
信越化学工業㈱武生工場	2 ㈱jig.jp	1 ㈱ジークス	1 酒井化学工業㈱	1 坂川建設㈱	1 越前市役所		
東工シャッター㈱	1 福井石油㈱蓄蓄	1 ㈱ビジュアルソフト	1 ㈱鯖江村田製作所	1 ㈱水研	1 大野市役所		
パナソニックエレクトロニクスデバイス販売㈱	1 ポリマー化成㈱	1 ㈱TV8チャンネル	1 ㈱セソコ	1 ㈱青木コンサルタント	1 清川メッキ工業㈱		1
パナソニックエレクトロニクスデバイス若狭㈱	1 ㈱リコー 福井事業所	1 ㈱松浦機械製作所	1 ㈱テクノカフイ	1 ㈱ダイエイ	1 ㈱jig.jp	1	1
㈱ビジュアルソフト	1		パナソニック エレクトロニクスデバイス販売㈱	1 西田建設㈱	1 ㈱システム・ワン	1	1
松下モーターエクスパート㈱	1		1 レンゴ一㈱武生工場	1 福井県庁	1 セーレン㈱		1
㈱リコー 福井事業所			1 自営	1 ㈱ホクコン	1 福井石油㈱蓄蓄		1
				1 ㈱ミルコン	1 レンゴ一㈱金津事業所	1	
					1 福井県職員 (総合土木職)		1
●県 外<13名>	●県 外<16名>	●県 外<9名>	●県 外<12名>	●県 外<14名>	●県 外<8名>		
オムロン㈱	1 キヤノンファインテック㈱	1 アドソル日進㈱	1 出光興産㈱	1 大林道路㈱	1 自営	1	1
㈱テクノワシノ	1 独立行政法人 国立印刷局	1 エーアイテクノロジー㈱	1 大阪シーリング印刷㈱	1 オリエンタル建設㈱	1 ㈱ホス・ティ・ティ ネオメイト	1	1
東西化学産業㈱	1 ㈱セイコーエプソン	1 中部電力㈱	1 ㈱カハラジャパン	1 国土交通省近畿地方整備局	1 関西電力㈱		
トヨタテクニカルデベロップメント㈱	1 ゼンイー・エム・シー・エス㈱一宮テック	1 西日本電信電話㈱	1 京セラ㈱滋賀産生工場	1 国土交通省中部地方整備局	1 ケイエムエンジニアリング㈱		
㈱豊橋造船	1 ゼンイー・エム・シー・エス㈱美加度テック	1 日新電機㈱	1 三共ジョーシシ㈱	1 ㈱CT I ウイング	1 神戸天然物化学㈱		
西日本旅客鉄道㈱	1 ㈱ダイキン	1 ㈱半導体エニギ一研究所	2 ダイキン工業㈱	1 大鉄工業㈱	1 サワワ技研㈱		1
日本鉱山㈱	1 ㈱中央エンジニアリング	1 富士通㈱	1 ㈱豊田工業㈱	1 中部電力㈱	1 フォニーイー・エム・シー・エス㈱関西テック	1	
日本飛行機㈱	1 中部電力㈱	1 ㈱豊田中央研究所	1 ㈱豊田中央研究所	1 東海旅客鉄道㈱	1 ㈱竹中工務店		1
富士重工工業㈱群馬製作所	1 東芝エレクトロニクスプレテクノロジ一㈱	1 西日本旅客鉄道㈱	1 西日本旅客鉄道㈱	1 ㈱豊田中央研究所	1 日本精工㈱		
マルホ㈱	1 東レエンジニアリング㈱	(BP) 日本繊維製品品質技術センター	(BP) 日本繊維製品品質技術センター	1 西日本旅客鉄道㈱			
三菱重工業㈱名古屋鉄道㈱システム製作所	1 トヨタテクニカルデベロップメント㈱	1 日本たばこ産業㈱	1 日本たばこ産業㈱	1 日本貨物鉄道㈱ (JR貨物)			
村田機械㈱	1 西日本旅客鉄道㈱	1 森永乳業㈱中京工場	1 森永乳業㈱中京工場	1 日本ビッソー㈱			
㈱村田製作所野洲事業所	1 日本特殊陶業㈱			1 北陸ミサワホーム㈱			
	1 ㈱富士通アドバンストソリューションズ			1 前田道路㈱			
	1 三菱電機ビルテクノサービス㈱						
	1 ㈱森精機製作所		その他 (1名)	1 その他 (1名)			
			1 大阪ビジネスカレッジ専門学校	1 福井工業高等専門学校専攻科			

(平成20年度)

平成20年12月末日現在

機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	専攻科	生産 システム	環境 システム
進 学 (17名)	進 学 (13名)	進 学 (17名)	進 学 (15名)	進 学 (14名)	進 学 (7名)	(4)	(3)
福井工業高等専門学校専攻科	6 福井工業高等専門学校専攻科	6 福井工業高等専門学校専攻科	4 福井工業高等専門学校専攻科	6 福井工業高等専門学校専攻科	10 京大大学院		
東京工業高等専門学校専攻科	1 長岡技術科学大学	1 筑波大学	1 東京工業大学	1 金沢大学	1 金沢大学大学院	2	
秋田大学	1 金沢大学	2 金沢大学	2 長岡技術科学大学	4 岐阜大学	2 北陸先端科学技術大学院大学		
長岡技術科学大学	1 福井大学	1 福井大学	2 福井大学	2 広島大学	1 名古屋大学大学院	1	
金沢大学	2 豊橋技術科学大学	2 名古屋大学	1 豊橋技術科学大学		奈良先端科学技術大学院大学	1	
福井大学	2 大阪工業大学	1 豊橋技術科学大学	2				
岐阜大学	1	京都大学	1				
豊橋技術科学大学	4	京都芸術繊維大学	1				
立命館大学	1	和歌山大学					
		日本大学	1				
		神戸芸術工科大学	1				
就 職 (18名)	就 職 (23名)	就 職 (15名)	就 職 (21名)	就 職 (25名)	就 職 (18名)	(11)	(7)
●県内	●県内	●県内	●県内	●県内	●県内		
㈱エイアンドエフ	1 ㈱福井村田製作所	1 パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン ㈱田路部品ディビジョン	2 大野市消防本部	1 ㈱コード・コーポレーション	1 株式会社化学研究所	1	
㈱江精機	1 パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン ㈱田路部品ディビジョン	1 ㈱金津村田製作所	1 ㈱構造設計研究所	1 ㈱格コノフイ	1 ㈱テクノフイ	1	
㈱鯖江村田製作所	1 ㈱瑞穂栄商事	1 共同コンピュータ㈱福井営業所	1 酒井設備㈱	1 日華化学㈱	1 日華化学㈱		
セーレン㈱	1 ㈱リコー 福井事業所	1 ㈱リコー 福井事業所	1 清川メッキ工業㈱	2 ㈱サワコン	1 パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン ㈱田路部品ディビジョン	1	
東シヤッター㈱	1 自営	1 信越化学工業㈱武生工場	1 信越化学工業㈱武生工場	1 ㈱青武コンサルタント			
㈱福井村田製作所	1	新道繊維工業㈱	1 新光産業㈱	1 ㈱光栄産業	1 福井市役所		
パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン ㈱田路部品ディビジョン	2	KBセーレン㈱	1 中央測量設計㈱	1 フクビ化学工業㈱	1 フクビ化学工業㈱		
㈱松浦機械製作所	1	㈱鯖江村田製作所	1 福井市農業協同組合	1 ㈱ミツマ	1 ㈱ミツマ	1	
盟友技研㈱	1		パナソニック エレクトロニクスデバイス ジャパン ㈱田路部品ディビジョン	1 福井市役所	1 ㈱メルコン		
				1 福井県庁	1 福井県庁	1	
				1 福井県警察	1 ㈱メディカルジャパン	1	
				1 ボリマー化成㈱			
●県外	●県外	●県外	●県外	●県外	●県外		
小島プレス工業㈱	1 関西電力㈱	1 エーアitek ノロジー㈱	1 花王㈱	1 ㈱エステック	1 ㈱オプティム	1	
京セラ㈱滋賀産生工場	1 ㈱ナカハタケンダ「特」一㈱	1 NEC マルウェアソリューションズ㈱	1 京セラ㈱滋賀産生工場	1 社団法人システム科学研究会	1 ㈱管理工学研究所	1	
㈱JAL航空整備成田	1 京セラ㈱滋賀産生工場	1 ㈱N T T ネットオモイト	1 京セラSLSCTテクノロジー㈱	1 ㈱CTI ウイング	1 ㈱建設技術研究所		
日本ビーロー	1 独立行政法人 国立印刷局	1 大阪ガス㈱	1 中大型薬工業㈱	1 大阪工業㈱	1 サイバーステップ㈱		
本田技研工業㈱	1 ソニー・イメージング・センター 愛知製作所	1 大阪シーリング印刷㈱	1 日東電工㈱滋賀事業所	1 中部電力㈱	1 ㈱デンティックプラスチック	1	
三菱重工業㈱名古屋航空宇宙システム製作所	1 住友電設㈱	1 京セラ㈱滋賀産生工場	1 日東電工㈱豊橋事業所	1 ㈱アケモ	1 ユニバーシアムサービス㈱ 調西テク	1	
三菱レイヨン㈱	1 中部電力㈱	2 向洋電機㈱	1 (有) 日本繊維製品品質技術センター	2 東海旅客鉄道㈱	1 北陸電気工事㈱	1	
㈱吉野工業所	1 ㈱豊田中央研究所	1 ソニー・エンジニアリング㈱	1 日本ユニカー㈱	1 西日本旅客鉄道㈱			
	㈱日新システムズ	1 ㈱日新システムズ	1 三菱化学㈱四日市事業所	1 ㈱日本コロン			
	日新電機㈱	1 フジテック㈱	1 ユニテカ㈱	1 ㈱NIPPON コーポレーション	1 その他 (1名)		
	西日本旅客鉄道㈱	1 三菱電機インフォメーションテクノロジー㈱	1	富士通㈱	1 EDC 東京リーガルマインド 東京都駅南本校		
	日本原子力発電㈱	1		フジテック㈱	1		
	財団法人北陸電気保安協会	1 その他 (1名)		三菱地所藤和コミュニケーション㈱	1		
	北陸電力㈱	2 大阪コミュニケーションアート専門学校	1				
	三菱電機㈱神戸製作所						
	三菱電機ビルテクノサービス㈱	1					
	㈱村田製作所野洲事業所	1					

VI. 学生指導関係

1. 基本方針

学生指導に関した高専の教育システムで最も重要なのは、信頼関係の中で学生の個性を尊重しつつ実社会に適した知育および徳育を教授することであり、その重要な柱として担任制度が設けられている。本科の5年間は高校1年から大学2年までの幅広い年齢に相当するが、高い目標を持った、一貫した教育・指導という観点で、入学時から学生と呼び、早期から自立した責任ある行動をとるよう指導している。そのため入学当初の学齢では通常の高校と比較するとやや緩やかな学則ではあるが、同時に20才の卒業時点まで担任制度によるきめ細やかなサポートを行い、社会的責任を自覚した卒業生を育てる努力をしている。この高専独自の5年一貫の担任制度による指導体制は、高専卒業生が社会から高い評価を受けている大きな理由の一つであり、今後も継続して実施していくことが重要であると考えている。

担任の業務は多岐にわたっており、例えば、学生生活全般の指導（友人関係、生活行動の把握（欠課、欠席の点検）、各種届け出指導等）、学業成績・悩み等についての個別相談・指導、さらに学年に応じた学校行事の指導・企画・引率等あげられる。行事としての具体例は、遠足・体育祭・高専祭・弁論大会（1～5年）、特別活動（1～3年）、オリエンテーション（1年）、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、インターンシップ（4年）、卒業研究発表会（5年）などが挙げられる。

また、全学年で保護者懇談会を実施して過程との意思疎通をはかり、特に高学年では進路（就職と進学）指導を進路指導室と連携しながら丁寧に行っている。

クラス担任は、本校では、1、2年を一般科目教室教員、3～5年を各専門学科の教員が担当し、担任補佐（3年のみ一般科目教室教員）が支援する形式をとっている。しかし、従前はシステム上学科単位で運営されることが多く、各学年の横の連携が弱いことが指摘されていた。そこで平成16年度に、進路指導を強化する目的で高学年に、続く平成17年度に1年で開始された混合学級への対応として全学年に学年主任制度導入を検討している。

次に、多感な青年期にあたる学生の人格形成に大きな影響を与えるのが課外活動である。本校の教育方針の中に、「健康の増進につとめ、肉体的・精神的に強じんな耐久力を育成する」とうたっており、技術者として健康的に活動し、また、協調性やコミュニケーション能力を育成するためにも課外活動は重要な位置を占めるものと考えられ、その活性化策を検討していく必要がある。そもそも高専制度には、高校から大学への受験戦争がなく、5年間のびのびと課外活動に打ち込めるといった利点があり、これを生かした体験型の学習体制づくりが肝要であるが、本校では体育系・文化系において多数のクラブが活発に活動している。

また、本校には学生全員によって構成される学生会があり、学生会役員が中心となり、体育祭、高専祭、弁論大会、壮行会、クラブ紹介等の学校行事やクリーン大作戦、献血等のボランティア活動などを自主的に企画・運営している。ここでは学生会役員会およびクラブ予算の決定を行う学生総会等が運営機関として設けられ、広報活動としての学生会誌の発行も行っている。学生会の活動に参加することにより、協調性、自主性、リーダーシップや企画力などが育成されることから、クラブ活動と同様に学生会活動も継続して支援していく必要がある。

さらに、本校では、実際に体を動かして経験の中で知識を習得する「体験型ものづくり教育」を推進していることから、これらに関連するコンテストへの参加を積極的に奨励している。全高専が参加し、全国大会が開催されるロボットコンテスト（ロボコン）、プログラミングコンテスト（プロコン）、デザインコンペティション（デザコン）の他に、Robo-ONE、パソコン甲子園、ふくいソフトコンペ等の大会に参加している。特に、ロボコンは過去2回ロボコン大賞を受賞、本年も地区大会で活躍し、9年連続で全国大会に出場するなど成果を上げている。これを支援するために、平成18年4月に夢づくり工房（ドリームラボ）という名称のものづくり多目的スペースを実習工場内に新設し、ロボット製作に適した作業環境を整備している。

また、平成16年度から独立行政法人化されたことにより開始された中期計画において、以下の項目にも力点を置いた取り組みを開始している。

(1) 課外活動の安全管理の強化

- ・ クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの作成
- ・ 危険箇所調査と安全面を重視した施設環境の整備
- ・ クラブ活動の安全管理に関する講習会実施

(2) メンタルヘルス関連への対応強化

- ・ 全学生対象のメンタルヘルス関連アンケートの実施
- ・ 全教職員対象のメンタルヘルス・関連FDの実施および報告書作成

(3) ボランティア活動の奨励

- ・ 学生会が主体となったクリーン大作戦の実施
- ・ 福井県ボランティア体験事業への参加（サイエンス夢ボランティア）
- ・ 福井豪雨ボランティア等

加えて、平成19年度から本校地域連携テクノセンター内に設置されたアントレプレナーサポートセンターを活用し、本校で習得した知識や技術、アイデアを経済社会の中で生かすための教育（起業家育成教育）を始めた。この取り組みは、平成19年度の文部科学省現代GPにも選ばれ注目されているところであるが、これからの学生にとって、前述の「ものづくり教育」と一体となり貴重な経験をすることが出来るように努力を行っている。

最後に、学生達の健康を護り、学習機会を保証するために、平成20年度は麻疹の対策を徹底して実施し、組織としての麻疹耐性率(十分量の抗体を持つか、あるいはワクチンを接種したもの)が学生・教職員を含めた学校組織として95%を越え、疫学的に麻疹の連鎖感染リスクを払拭できたことは大きいと考えられる。

以上のように、担任制度の充実を図り、クラブ活動・学生会活動・ものづくり関連コンテスト等の課外活動を奨励し、健康管理・安全管理およびメンタルヘルス関連の強化やボランティア活動への新たな取り組みを開始することにより、5年一貫教育の利点を生かした人格形成の人間教育を実践している。

2. 学生の活動状況

- (1) 新入生歓迎会・クラブ紹介
平成20年4月15日(火)
- (2) 新入生オリエンテーション合宿
平成20年4月17日(木)、18日(金) 能登青少年交流の家で実施
- (3) 学生総会
平成20年4月30日(水)
- (4) 第43回体育祭
平成20年5月9日(金)
- (5) 舞鶴高専交歓試合
平成20年5月17日(土) 福井高専・舞鶴高専で開催
- (6) 平成20年度福井県高等学校春季総合体育大会
平成20年5月31日(土)～6月22日(日) 県内各地で開催
バスケットボール、卓球、サッカー、テニス、剣道、柔道、ハンドボール、
水泳、バレーボール、陸上、軟式野球に参加
- (7) 壮行会
平成20年6月25日(水)
- (8) 第43回北陸地区高等専門学校体育大会 金沢高専が担当で開催
平成20年6月28日(土)、6月29日(日) サッカー
平成20年7月5日(土)、7月6日(日) 本大会
成績 本校総合第4位
団体 女子バレーボール、男子テニス、野球が優勝
男子卓球、男子ソフトテニス、女子ソフトテニスが準優勝
個人 陸上(男子走高跳)、テニス(男子個人シングルス、男子個人ダブルス)、
卓球(男子個人ダブルス、女子個人シングルス、女子個人ダブルス)、
柔道(男子個人60kg級、男子個人73kg級)が優勝
- (9) 第41回全国高等専門学校サッカー選手権北信越大会
平成20年7月19日(土)、20日(日) 本校が担当で開催
成績 準優勝
- (10) 救急救命法の講習会
平成20年7月31日(木) 日赤病院の看護師3名による講演及び実習
体育系クラブ学生27名、教職員16名参加
- (11) 第43回全国高等専門学校体育大会
陸上競技 平成20年8月17日(日) 函館高専が担当で開催
成績 走高跳 準優勝
野 球 平成20年8月26日(火)～28日(木) 旭川高専が担当で開催
成績 準優勝
テニス 平成20年8月22日(金)～24日(日) 旭川高専が担当で開催
成績 男子団体 3位 男子シングルス 準優勝
サッカー 平成20年8月23日(土)～26日(火) 苫小牧高専が担当で開催

- 水 泳 平成20年8月24日(日) 苫小牧高専が担当で開催
- ソフトテニス 平成20年8月23日(土)～24日(日) 釧路高専が担当で開催
- 柔 道 平成20年8月24日(日) 函館高専が担当で開催
- 卓 球 平成20年8月23日(土)～24日(日) 釧路高専が担当で開催
- (12) 第15回全国高等専門学校将棋大会
平成20年8月18日(月)～20日(水) 阿南高専が担当で開催
- (13) 第19回プログラミングコンテスト全国大会
平成20年10月11日(土)、12日(日) 福島高専が担当で開催
- (14) アイデア対決ロボットコンテスト 2008東海・北陸地区大会
平成20年10月12日(日) 鳥羽商船が主管校で開催
競技課題「ROBO-EVOLUTION 生命大進化」
本校Aチーム「タマゴン」技術賞(全国大会出場決定)
本校Bチーム「ジュエリー・フィッシュ」
- (15) 第5回クリーン大作戦
平成20年10月15日(水) JR鯖江駅～高専までの通学路の清掃奉仕活動
- (16) 平成20年度 弁論大会
平成20年10月16日(木) 5テーマで実施
- (17) 第44回高専祭開催
平成20年10月17日(金)～19日(日)
テーマ「D y n a m i t e ～熱くなりすぎてごめんな祭～」
サイエンスフェア、球技大会、ライブ、吹奏楽部演奏会、少林寺拳法演武会、
合気道演武会、クラス対抗企画、カラオケ大会、水かけ祭、アマバンライブ、
ビンゴ大会、献血 外
- (18) WRO2008福井エキシビジョン大会
平成20年11月 3日(月) 福井県立恐竜博物館で開催
- (19) アイデア対決ロボットコンテスト 2008全国大会
平成20年11月23日(日) 東京両国国技館で開催
- (20) 全国高等専門学校デザインコンペティション2008
平成20年12月13日(土)・14日(日) 高松高専が担当で開催
構造デザイン部門 優秀賞及び審査員特別賞(構造賞)
- (21) 学生総会
平成21年1月28日(水) 開催予定
- (22) 学生会誌「青塔」
平成21年3月発行予定

3. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成20年度）

日本学生支援機構奨学生

（平成20年5月1日現在）

区 分		貸与月額	本 科					専攻科		合 計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
第一種奨学生		21,000 円	3	3	2					8
(本科)	自宅通学									
1・2・3年	自宅外通学	22,500 円	1	3	3					7
4年	自宅通学	45,000 円				2				2
	自宅外通学	51,000 円				3				3
5年	自宅通学	44,000 円					6			6
	自宅外通学	50,000 円					6			6
(専攻科)	自宅通学	45,000 円							1	1
1年・2年	自宅外通学	51,000 円							1	1
合 計			4	6	5	5	12	0	2	34

その他奨学生

（平成20年5月1日現在）

種 類		貸与月額	本 科					専攻科		合 計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
福井県 奨学生	自宅通学	18,000 円		3	2	1				6
	自宅外通学	23,000 円	1		1	1				3
鯖江市 奨学生	自宅通学	17,000 円					1			1
	自宅外通学	20,000 円								
あしなが育 英奨学金	自宅通学	25,000 円		1	1	1				3
	自宅外通学									
合 計			1	4	4	3	1	0	0	13

入学料免除実施状況

区 分	免除対象額	申請者数
免除対象者	84,600 円	0

入学料徴収猶予実施状況

区 分	猶予対象額	可否(人)
徴収猶予対象者	84,600 円	1
失格者	0	0

授業料免除実施状況

区 分	免除対象額	前期(人)	後期(人)
全額免除対象者	117,300 円	48	37
半額免除対象者	58,650 円	14	19
失格者		27	20

VII. 学寮関係

1. 基本方針

学寮は遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目標で設置されている。そのために、施設、設備の充実には特に力を入れており、生活指導の面では全教員が交替で寮監として泊まり、寮生と直に触れ合うことにより教育目標を果たすよう努めている。

2. 寮生の受け入れ状況

学寮は「青武寮」と称し、収容定員は240名である。南寮・北寮・東寮の3棟に分かれており、東寮には女子寮が併設されている。

平成20年度在籍寮生数

平成20年12月1日現在

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年	合 計
機 械 工 学 科	17	16	11	11	8 (1)	63 (1)
電気電子工学科	8	13 (3)	11 (3)	10 (1)	—	42 (7)
電 気 工 学 科	—	—	—	—	8	8
電子情報工学科	4 (1)	8 (2)	11 (1)	7 (1)	10 (5)	40 (10)
物 質 工 学 科	9 (2)	11 (4)	9 (6)	8 (4)	8 (3)	45 (19)
環境都市工学科	9 (2)	5 (1)	10 (5)	5 (2)	2	31 (10)
合 計	47 (5)	53 (10)	52 (15)	41 (8)	36 (9)	229 (47)

()は女子で内数

VIII. 学生相談室関係

1. 基本方針

学生相談は一部の特別な学生に対するものでなく、すべての学生を対象として、学生のいろいろな悩みに応えることにより、その人間的な成長を図ることを目的とし、学校教育の一環として位置づける重要なものである。

2. 学生相談室・保健室利用状況と相談分野

学生相談室は、8名の教員と非常勤のカウンセラーの9人体制で運営されている。今年度の各相談員の担当を表1に示す（実際は、指定日だけに限定はしていない）。相談員は各学科よりの構成で、学習面での相談、障害学生の支援まで含めて対応できるように工夫した。また、カウンセラーによる相談員の研修会を行い、スキルアップに努めた。

表1 相談員の担当日時（上段前期、下段後期、()は研究室）

曜日	月	火	水	木	金
昼休み 12:40～ 13:20	森 芳周 (平井恵子) 廣部英一 (平井恵子)	廣部英一 (高久有一) 森 芳周 (高久有一)	平井恵子 (廣部英一) 米田知晃 (廣部英一)	岡本拓夫 (村中貴幸)	米田知晃 (柳原祐治) 平井恵子 (柳原祐治)
放課後 16:20～ 17:15	高久有一 (岡本拓夫)	柳原祐治 (米田知晃)	14:00-18:00 清水 照代 カウンセラー	14:00-18:00 清水 照代 カウンセラー	村中貴幸 (森 芳周)

表2、表3に平成19年度の月別および学年別相談室利用者の利用者数と相談分野別の件数を示す。

表2 平成19年度学生相談室、学年別と月別利用者数

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	19年度
1年		11	4	2		1	4	2	2	2	1		31
2年		1		1		9	3	15	3	9	8		49
3年				1		1	6	3		2	2		15
4年		1				3	1	2	2				9
5年	3	5		1		4	4	1	2			2	22
専攻科1年													0
専攻科2年													0
保護者	4	4	1	3		1		3	1	2			19
その他(教員など)	1	5	5	2		4	4	4	5	2			32
合計	8	27	10	12	0	23	22	30	15	17	11	2	177

表3 平成19年度学生相談室、月別相談内容と相談件数													
学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	19年度
いじめ				1				5					6
不登校	4	8	2	5		3	4	3	5	10	5	1	50
人間関係	4	3	2	1		5	5	2		2			24
学習		1	1	2		4	3	2	5				18
進路		1		2		1				3	2		9
暴力								1					1
その他		2	2			3	3	3	2		1		16
合計	8	15	7	11	0	16	15	16	12	15	8	1	124

次に、保健室の19年度利用状況について表4、5に示す。看護師（1名）にはフィジカルな対応以外にメンタル面における対応もお願いしている。表4は保健室の学年別、5は相談分野別の利用者数を示す。

表4 平成19年度 保健室の学年別・月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	19年度
1年	3	40	20	21	6	19	21	20	5	14	11	1	181
2年	19	62	33	33	11	53	49	44	36	36	32	13	421
3年	37	52	36	30	7	20	40	19	22	26	19	16	324
4年	10	27	10	10	0	6	15	9	14	3	2	4	110
5年	10	15	11	22	1	19	27	33	23	16	6	1	184
専攻科1年	0	0	3	1	0	0	2	1	0	1	0	0	8
専攻科2年	0	4	0	3	1	3	2	3	0	2	0	0	18
保護者	2	3	1	0	0	1	0	2	0	1	0	2	12
その他	11	26	18	12	14	22	16	16	14	17	24	19	209
	92	229	132	132	40	143	172	147	114	116	94	0	1,467

その他・・・オープンカレッジ・職員・卒業生の利用等

表5 平成19年度保健室月別利用者数とその内容

内容/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	19年度
フィジカル	85	212	126	124	39	127	157	124	105	94	78	42	1,313
いじめ													0
不登校		1					1						2
人間関係	5	8	4	5	1	3	9	15	7	22	6	9	94
学習		5	2	3		11	4	8	1		7	2	43
進路	1	3				2	1		1		3	3	14
暴力	1												1
メンタル(合計)	7	17	6	8	1	16	15	23	9	22	16	14	154
合計	92	229	132	132	40	143	172	147	114	116	94		1,467
フィジカル・・・病気、怪我等での保健室利用者													

IX. 図書館関係

1. 基本方針

本校の図書館は、低学年の学生の教育を始めとして、高学年の学生や専攻科生及び教職員の研究補助、更には、地域住民への貢献等を目的として運営されている。図書館は閲覧室と事務室及び1、2階の書庫とから成り、約400m²の閲覧室には、100席の閲覧室と約3万冊の開架書架が設置されている。閲覧室と同フロアの2階書庫は常時開扉されていて、開架書架同様の利用が可能になっている。インターネットを利用した学外からの蔵書検索も可能で、学外者の借り出しもできるようになっている。

2. 活動状況

(1) 教育支援

学生の教育面では、専門分野の蔵書の充実を図るとともに、図鑑や美術文庫、或いは高校校長会の推薦図書等といった、一般的な教養書の購入にも努めている。また、「教科書コーナー」や、もの作りや実験のノウハウを簡単に解説した「もの作りコーナー」、「定期試験の過去問題コーナー」、「資格試験コーナー」等を設けて、学生の学習の便宜に資している。或いはまた、簡単な英語で書かれた科学技術の入門書を備えて、英語に対する学生の関心を高めるとともに、英語力の向上を目指している。

購入する図書に関しては、各学科の教員の推薦によって決めるとともに、図書委員による年何回かのブックハンティングによって300冊前後の本を購入する等、学生の意見や嗜好を取り込む工夫をしている。また、国語科の協力を得て、学生と教職員からなる「校友会誌編集委員会」による校友会誌「青樹」を毎年発行しており、現在までに40号を発行している。

(2) 研究支援

研究面では、長岡技術科学大学と高専によるコンソーシアムに参加することで、SD、ACS、AIP/APSの約1,800タイトルの電子ジャーナル及び長岡技術科学大学と高専での共同利用によるMatSciNet、JDreamIIの文献データベースを利用できるようにして研究者への研究支援体制を整えている。

(3) 地域貢献

地域貢献については、平時は午前9時から午後8時まで、土曜日は午前9時から4時30分まで開館して、地域住民の利用に資するとともに、必要文献の貸し出しにも応じている等の貢献をしている。また、福井県内図書館横断検索システムに参入して、県内主要図書館の蔵書の一括検索と物流システムの活用による蔵書の貸借を可能にした。

以下、平成19年度末の蔵書構成を表1に、利用状況を表2に示す。

表 1 平成 19 年度末の蔵書構成

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	6,731	2,786	5,029	5,240	15,684	18,141	795	3,074	3,652	10,088	71,220
洋書	468	357	201	242	3,861	1,546	11	55	1,290	919	8,950
合計	7,199	3,143	5,230	5,482	19,545	19,687	806	3,129	4,942	11,007	80,170
比率(%)	9.0	3.9	6.5	6.8	24.4	24.6	1.0	3.9	6.2	13.7	100.0

この他に、教育後援会文庫が 9,561 冊あるので、蔵書の総計は 89,731 冊になる。

表 2 平成 19 年度の月別利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	貸出冊数/日	貸出冊数/日	貸出者数/日
4	22	4,325	727	394	196.6	33.0	17.9
5	24	6,178	972	521	257.4	40.5	21.7
6	24	6,536	662	368	272.3	27.6	15.3
7	23	4,508	1,011	471	196.0	44.0	20.5
8	16	1,220	169	79	76.3	10.6	4.9
9	22	5,465	631	309	248.4	28.7	14.0
10	23	5,045	1,110	531	219.3	48.3	23.1
11	24	5,659	981	506	235.8	40.9	21.1
12	20	4,103	811	396	205.2	40.6	19.8
1	21	4,461	675	343	212.4	32.1	16.3
2	23	5,896	728	351	256.3	31.7	15.3
3	19	1,888	221	96	99.4	11.6	5.1
計	261	55,284	8,698	4,365	(平均)211.8	(平均) 33.3	16.7

この他に、CD や DVD などの視聴覚資料の利用者が年間 427 人

X. 総合情報処理センター

1. 基本方針

総合情報処理センターは、1年生の情報処理教育から高学年の実験・演習及び卒業研究、教員の研究まで情報処理教育並びに研究活動の支援を行っている。

プログラミングの演習のみならず情報リテラシー教育などにも幅広く利用されており、多様な利用形態に対応したハードウェア、ソフトウェア環境が充実している。

一方、高等教育機関としての高度情報化社会にふさわしい情報通信のインフラである校内LANの運用、維持・管理を担っている。このネットワーク環境の整備により教職員、学生のインターネットを使った教育・研究や学習、情報の伝達・収集・発信などが可能となっている。

2. 活動状況

総合情報処理センターの4つの演習室（第1演習室パソコン46台、第2演習室パソコン7台、第3演習室パソコン50台、第4演習室パソコン46台）での授業の利用状況（平成19年度前期・後期）を表1（前期）、表2（後期）に示す。また、平成19年度の平日17時以降（休日を含む）の時間外利用の状況を延べ利用者数および延べ利用時間で表3に示す。

総合情報処理センター利用状況（平成19年度前期）

曜日		第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室 ものづくりアトリエ
月	1	1F2 コンピュータ 科学入門	2M 機械工作実習	4M 創造工学演習	
	2				1AD 現代英語
	3	1F3 コンピュータ 科学入門		5EI 電子情報工学実験Ⅴ	
	4	1F1 コンピュータ 科学入門			
火	1	4EI 電子情報工学実験Ⅳ		3EI 電子回路Ⅰ	5B 都市工学 設計製図Ⅱ
	2			2C プログラミング基礎	2B C A D
	3	3EI 電子情報工学実験Ⅲ		1F5 コンピュータ 科学入門	4B 環境都市工学 実験実習Ⅳ
	4			4C 情報科学	
水	1				2B コンピュータ図学
	2	4M 機械計算力学		3EI プログラミング応用	4B コンクリート 構造学Ⅰ
	3	3EI 数値計算	2AD 画像情報工学	2EI プログラミング 基礎Ⅱ	3C 英語Ⅲ
	4	5C 情報ネットワーク			
木	1	2EI 電子情報工学実験Ⅱ	2EI 電子情報工学実 験Ⅱ	4EI 情報構造論	5B 都市工学設計製図Ⅲ
	2			4EI 電子回路Ⅱ	4B 都市工学設計製図Ⅰ
	3	2M C言語基礎			
		1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学
	4				
金	1	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学
	2	3E 情報処理Ⅱ		1F4 コンピュータ 科学入門	
	3	2E 情報処理Ⅰ			3B 環境都市工学 実験実習Ⅲ
	4			5B 空間情報工学	

総合情報処理センター利用状況（平成19年度後期）

曜日		第1演習室	第2演習室	第3演習室		第4演習室 ものづくりアトリエ
月	1	1F2 コンピュータ 科学入門	2M 機械工作実習			3C 英語Ⅲ
	2	1F3 コンピュータ 科学入門		2EI 情報工 学演習	3EI オペレーティング システム	5B 都市工学設計製図Ⅱ 5C 設計製図
	3	3C 情報処理演習		4B 環境都市工学 実験実習Ⅳ		
	4	1F1 コンピュータ 科学入門		2M C言語基礎		
火	1	5B 英語Ⅴ		3EI 電子情報工学実験Ⅲ		3B 環境都市工学 実験実習Ⅲ
	2	1F5 コンピュータ 科学入門				
	3	4EI 情報構造論		3E 電子創造工学		5C 英語Ⅴ
	4	2EI プログラミング 基礎	3EI 電子 回路Ⅰ			5M アイデア設計工学
水	1	4C 情報化学		4EI 電子情報工学実験Ⅳ		1AD 現代英語
	2	2C プログラミング基礎				2B C A D
	3	4EI ソフトウェア工学		3EI プログラミング応用		4B コンクリート構造学Ⅰ
	4		1PS 生産システム工学 実験Ⅱ			
木	1					3M 機械設計製図Ⅰ
	2	4EI 電子回路Ⅱ		2E 情報処理Ⅰ		
	3	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学		1ALL ものづくり科学
	4					
金	1	1F4 コンピュータ 科学入門		2EI 電子情報工学実験Ⅰ		4B 都市工学設計製図Ⅰ 5B 都市工学設計製図Ⅲ
	2	5C 品質管理				
	3	3E 情報処理Ⅱ	1PS 生産システム 工学実験Ⅱ			
	4					3B コンピュータ図学

時間外利用状況（平成19年度）

月	人数（人）	利用時間（各演習室の合計）
4	26	26時間
5	247	94時間45分
6	149	79時間15分
7	182	123時間
8	0	0分
9	170	92時間50分
10	125	52時間10分
11	201	118時間20分
12	181	77時間20分
1	241	89時間15分
2	132	189時間20分
3	2	26時間
合 計	1656	968時間15分

月平均（小数点以下、四捨五入）

138（人）	80時間42分
--------	---------

5/25 CAD 講習会 7/6 CAD 講習会 8/23 S P P

10/26 e-learning 講習会 11/18 CAD 試験

X I． 地域連携テクノセンター

1． 基本方針

本校の位置する丹南地域は、眼鏡枠をはじめとし、繊維・染色産業、セラミックスや自動車関連、化学工業などの生産地であり、また、越前和紙、越前漆器、越前打ち刃物、越前焼きの4つの伝統産業を抱え、福井県の経済を支える大きな位置を占めている。当センターは、本校の使命である「教育・研究・地域貢献」の対外的窓口として地域社会によりよいサービスを提供するために、次の4つの施策を実施している。

(1) 共同研究、受託研究、技術相談の推進

当センターでは、「地域・文化」、「環境・生態」、「エネルギー・原子力」、「安全・防災」、「情報・通信」、「素材・加工」、「計測・制御」の7つの技術相談部門を持ち、平成19年度は22件の共同研究・受託研究を受け入れ、また759件の技術相談を受けるなど、技術や製品の開発、様々な問題解決を通し地元産業界の発展に寄与してきた。これらの実績は全国の高専の中でもトップクラスであり、外部より高い評価を受けている。また、さらにこの体制を拡充させ地元産業界に貢献するべく、平成16年度に「伝統産業支援室」を、平成17年度に「地場産業支援室」を各々設置し活動を充実させてきた。地域の皆様に本校の資源（教員の研究成果や設備など）を幅広く活用していただくために、より親しみやすく相談しやすい体制の構築に努めている。

さらに、研究支援体制を支えるために、TEM、蛍光X線、ESCA、SEM-EDX、ICP、そのほか多くの分析・評価装置等を備えて、地元企業の皆様方の依頼分析等に応えるべく共同で運用している。

(2) 企業技術者、本校学生、地域住民へのひとづくり支援

当センターの支援組織である「福井高専地域連携アカデミア」を中心として地域と高専が交流をより深め、地域における産官学共同研究の推進を基礎とした「地域振興を図る行事」を開催して、地域の振興と発展に積極的に寄与している。

例えば、本校の技術を広く知っていただくための公開講座、分析・評価機器を使用していただくための講習会である高度技術者研修などがそれに当たり、また、地元と連携した教育活動（地域連携教育）の中に産業界を通じた教育・研究活動をインターンシップや共同研究として取り入れ、「地元根付く」人材育成にも積極的に取り組んでいる。これらの活動が認められて平成17年度の文部科学省現代GPに「越の国ひとづくり・まちづくりコミュニティ」として採択され、さらに平成18年度の経済産業省の「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に採択された。

また、平成19年度の文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに「高専ものづくり設計塾」が採択され、技術者のスキルアップを担う地域の中核として国からも高く評価されている。

(3) 起業家支援による地域活性化支援

既存の産業支援だけでなく、これからの可能性を秘めた新しい企業を創成することも地域貢献の一つだと考えられる。当センターではこのような起業精神にあふれる方を支援するために「アントレプレナーサポートセンター」を平成19年4月に開設した。

この施設は、地域の産業活性化プランと連携しながら、起業のための基礎的知識や活動方

針を研鑽する施設であり、修了後は行政などが用意する育成プランの中で実際の企業活動を行ってゆく。また、これらの活動に本校学生を参加させ、起業精神の涵養を図ってゆき、インターンシップ等とあわせて力強い企業人の育成に寄与するものであり、平成19年度の文部科学省現代GPに「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」として採択されるとともに、全国の高専の中でも初めての取り組みとして注目されている。

(4) 研究シーズ、地場産業の紹介による広報活動

各種展示会・商談会やテクノフェアなどに積極的に参加するとともに、専攻科生による技術シーズ発表会、マグネットコンテスト、めがねワク waku コンテストなどを通じて本校の研究活動や地場産業の紹介を行い、本校のポテンシャルを積極的に発信している。

2. 活動状況（平成20年度）

月	行 事 名
5月	第一回高専ものづくり設計塾（3D-CAD講習会）
6月	JOINT2008（活動紹介誌）発刊 第7回産学官連携推進会議 福井高専地域連携アカデミア総会 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット講座）
7月	第14回マグネットコンテスト作品募集（～9月30日） 第5回めがねワク waku コンテスト作品募集（～9月30日） 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット講座） 第二回高専ものづくり設計塾（3D-CAD講習会）
8月	第3回現代GPパネルディスカッション 第6回全国高専テクノフォーラム 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット講座）
9月	丹南産業フェア（専攻科生による技術シーズ発表会） 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット講座）
10月	北陸技術交流テクノフェア2008 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット講座）
11月	FITネットビジネス商談会 JOINTフォーラム2008 武生商工会議所異業種交流研究会交流事業 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（ロボット競技会）
12月	現代GPフォーラム2008
2月	第5回めがねワク waku コンテスト表彰式 第14回マグネットコンテスト表彰式 第三回高専ものづくり設計塾（3D-CAD講習会） 福井県機械工業青年会交流プロジェクト（活動報告会）

XⅡ． 教育研究支援センター

1． 基本方針

本センターは、本校において教育研究支援に携わる技術職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を確保し、その職務の遂行に必要な能力および資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目標にして運営されている。

2． 活動状況

(1) 教育支援

各学科および一般物理・一般化学の実験・演習・卒業研究への支援を行なった。平成20年度は、新たに工学基礎物理の実験に対する支援を行なった。

(2) 研究への支援

本校の共同研究・科研費研究に参画し、本校の研究活動の活性化に寄与している。平成19年度は3名、平成20年度は2名のセンター職員が科学研究費補助金(奨励研究)に応募し、平成19年度に1件採択された。

(3) 地域貢献への支援

各学科の依頼を受けて公開講座、出前授業に対して支援を行なった。(資料中の出前授業一覧、公開講座実施一覧参照)

丹南地域の活性化のために行なわれた「誘・遊・愉おもしろフェスタ in サンドーム福井2008」の準備及び当日の支援にセンター職員が参加した。

平成19年度に引き続き、今立和紙共同組合水質測定受託業務を行った。

(4) 本校運営への支援

総合情報処理センター業務に対して第二班から二人のセンター員が支援に当たった。全国高専ロボットコンテスト、全国高専デザインコンテストなどへの支援を行ない、ロボットコンテストの全国大会出場、デザインコンテストでの「静的戴荷」部門での全国一位に貢献した。6月と8月に行なわれたオープンキャンパスに協力した。

(5) 見えるセンター活動

アニュアルレポートの作成、発表会の開催、ホームページの充実を行い、センター活動の状況と推移が見えるようにする。

(6) ポテンシャルアップ

研修事業への参加促進、技術発表会の開催、本校運営に必要な資格取得などによるセンター職員のポテンシャルアップを図った。平成20年度は新たに、金沢大学理工学域教授岩原正吉氏による講演会「インターネットの誕生に行き合わせて、そして今」を開催した。

XⅢ. 評価体制

1. 本校の評価体制

本校では学校内部の自己点検・評価委員会規則に則り、教育活動の評価及び評価結果を改善策に結びつけるシステムがある。教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために、本校では2つの体制を軸に整備している。一つは学生による教育（授業）評価、もう一つは教員本人による教育（授業）自己評価である。前者は教育活動、特に授業の改善は早くから個々の教員レベルで実施されてきたが、平成14年度から全ての授業を対象に校内に設置した「創造教育開発センター」がアンケートを実施し、その結果を各教員に提示し、コメントを求め、今後の課題を記述した報告書を作成し、公表している。後者は各教員に他教員の教育、研究などの状況を記入、提示させ、得点化、校内ランキングを作成して公表し、フィードバックしている。

授業評価アンケートの結果の冊子及び教員の教育活動自己評価の結果をもとに、経年的な推移から教育レベルの向上を図っている。主な企画として、公開授業を実施し、同僚教員を中心とした専門家による評価を受け、質の向上を図っている。システムに参加する教員は、専門及び教科教育法の立場から多面的な評価ができるよう配置され、教員のFD活動としても重要である。半期に7名の教員が公開授業を実施し、それぞれ5名の教員が評価及び討論をしている。その結果は報告書の形で評価教員及び委員会へ提出し、最終的に次時期授業アンケートの結果を受け改善の程度を検討している。このシステムにおいて1年間にほぼ全ての教員が参加する。以上の創造的教育研究センターを中心としたシステムの在り方、さらに全校的な観点から教育システム評価委員会においても検討される。これらの結果は、各教員のその後の教育に確実に反映することが必要であり、それ以後の評価で再び結果が問われることとなる。これらのことにより、本校の授業は格段に学生にとって理解されやすいものとなった。

2. 外部評価の受審

平成17年5月には本校本科4、5年と専攻科の教育プログラムが日本工学者教育機構(JABEE)により認定された。また、大学評価・学位授与機構による平成17年度高等専門学校機関別認証評価を受審し、改善事項がない認定を受けた。

3. 評議員会による外部評価

本校の外部評価は評議員会、JABEEの受審、機関別認証評価の受審などがあるが、評議員会には福井県内、技術科学大学の大学関係者、地元の中学校関係者、福井県、地元の産業界、報道関係、商工会議所関係者を招聘し、毎年1回の外部評価を行っている。第1回は平成16年度に外部評価委員会として始まったが、昨年度の評議員会における総評を記す。

(平成19年度実施、第4回評議員会総評 平成20年1月10日開催)

① 長岡技術科学大学 小島 陽 学長

どこの高専も教育という立場から、業務の話もさることながら、課外活動等々に大変お忙しく大変だと思う。大学と違ってクラス担任制度もあるので、15歳～20歳という大変難しい年齢の学生を見られ御苦労されていると感じる。

その中で、さらに最近は教育だけではなくて高専にも研究を強く進める傾向があり、そういう意味でも先生方の負担も増えて大変だと思う。

今回、参加して、他の高専と違って地元鯖江市との連携も非常に強く、また、現代GPを初めとしていろいろな方面にチャレンジをされて、それなりの評価を受けているという印象を受けている。

専攻科の話だが、全体的に専攻科の充実は時代の流れの中でどんどん行われていくとも思われる。ただせっかく J A B E E や認証評価、外部評価などのいろんな評価をするようにと国から言われるのだが、残念ながら専攻科を修了後の学士の学位授与は高専には任せられていなく、学位授与機構という少し違う機関で行っている。 J A B E E であれば行っているのも、学位授与も高専に任せるということも必要ではないかと思う。いずれにせよ、大変がんばっておられるなという印象を受けた。

② 鯖江市小中学校校長会 山本 正一 副会長

こちらの資料を見せていただき、全てレベルが違うし非常に素晴らしいという感想だ。これだけの業務につく先生方も非常に大変だと思うし、専門的な内容を研究しているという事で、非常に凄いなということを感じた。

中学校でもメンタルヘルス面で問題のある生徒が全国的にかなり増えている。メンタル面でケアしないといけない生徒が全国的に増えていて、発達障害の小学生が全体の6.数パーセントいるのに、学習面・生活面で特別支援をする先生をなかなか増やしてもらえなく、先生方も多忙で手がまわらないという状態だ。高専の先生方も多忙であることから、メンタル面で大変だと思う。

研究では非常に素晴らしく、非常に大変だということを感じた。中学生から見た福井高専の魅力というのはおよそ分るし、少子化ということで子供が減っていることから1.何倍にしかないが、この魅力をわれわれ中学校側の子供たちに伝えて「福井高専に是非行きたい」という気持ちにしていきたいと思う。

③ 福井県工業技術センター 友田 茂 所長

高専は社会の変化の中で懸命に生きてこられたことは本当に敬服するばかりである。ビジネス起業家といったことに関しても、応援団的要素から、経済の興味のあることを少し刺激してほしいということを申し上げたが、本当に極力会社を起こしてやってみようという時に、必要なことを加味したらと思う。

私が一番希望するのは、私の所にも70人から80人の職員がおりまして、最近、かなりの能力を持った社員が入ってきていますが、活力がない。滅茶苦茶でもいいから頑張ってやってみれば、会社は必ずそういう人をきっちり使っていくし、いろんな学力よりも熱といいますか、活力と言うものが非常に重要だと思う。生きて行こうというような何か。学生さんにそれが一

番大事だと思っている。

④ 鯖江商工会議所 野村 一榮 会頭

いつも、感心するが、素晴らしい学校経営をされており、心から敬意を評する。鯖江市としては高専はもう、なくてはならない存在だ。本当に今後とも宜しく申し上げたいと思う。鯖江はものづくりの町なので、起業家、企業を起こす、いわゆる起業の精神というものを伝授していただいて、高専をでた方はものづくりの起業家になるという流れが確立するようになれば、非常にありがたいと思いますので、宜しく願いいたしたい。

⑤ 信越化学工業(株)磁性材料研究所 本島 正勝 所長

私が思った以上に熱心に行われており、先生の負荷が非常に大きいと思う。 寮に二人ずつ泊まるというのは、かなり負担になっていると思う。大変だった。

ひとつの要望として、起業家というのが言われていましたが、実用性というのが非常に大事なわけです。ある意味では原価計算やコストがないと実用化にならないわけですから、そういう考え方を出来れば専攻科で、福井高専の特徴として教育してみてもどうか。

⑥ (株)福井新聞社 山下 裕己 論説副委員長

小中学校にしても、民間の会社にしても、非常に働かされるといういろいろな事をやらなくてはならない。みんな、どこも同じだと思うのですが、これだけたくさんをやっているという事で、まず、今回初めて出席して感心しました。 それでも、たぶん国の財政的な事からみると厳しくなるのは当然というか通常ですから、中期計画にのっとって、あと10年ですか、頑張ってもらいたいという エールを送って感想に変えさせていただきます。

⑦ 福井大学 中川 英之 副学長

皆さんからいろいろな講評を頂いたが、全体としては非常によく頑張ってやっているということだったと思う。私も福井大学にずっとおりましたので福井高専のことは昔からよく知っていたが、今回、委員をやってカリキュラムなどが結構きっちりと綿密に組まれているという風に思いました。

先ほどから出ているところで、起業家というか起業前教育についてですが、アントレプレナーは高専でも大学の工学部系でも結局同じことなので、そこに力を入れて行ったらと思います。大学の場合でもこういうものに対してあまり賛成しない先生がいるが、やはり教育課程できっちりと盛り込んでいくことは必要だと思う。我々の所は地域共同教育センター、現在では産学官の連携本部になっているが、そこで工学部の学生が経営学や経済学というタイプの授業をとって、卒業単位にする事が出来る。工学部本体でのカリキュラムとしては、別コースという形になっているが、一応卒業単位に組み込まれている。ただ、全員ではなく、選択性なのですが、是非続けてやって行って頂きたいと思う。実用性をちゃんと考えたものも専攻科にあるから、たぶん高専も大学も、こういう地域・地方に立地している大学にとっては基本的に重要な問題だと思う。

今、鯖江市にとって「高専はなくてはならない」というお言葉を頂いたが、やはりそういう声がなくなってしまうと存在価値もなくなってしまうので、是非地域とは密着しながら、鯖江市が中心なのだろうが、周辺の越前市とか、福井市も含め福井県の地域に密着した研究などを

進めてほしいと思う。

大学も高専も、もともと教育機関だから学生教育が一番基本なのだが、特に工学系の学生教育は、教員が自ら何らかの問題点を持ってそれを研究していかないと工学教育はうまくやれないと思っている。そういう研究の種を地域連携の中で見出して行く、そういう姿勢が非常に重要だと思う。もちろん福井高専の場合はそういう事をこれまでやって来ているし、自己点検評価報告書をみても高く評価する結果を得られているので、是非これは続けて行ってほしいと思う。

最近では教員の負担が非常に大変だということだが、これも、実は大学の方でもいろんな事をやるのをやめようという話が出ている。民間の資金とかG Pとか取りに行けば行くほど大変になる。やめようではないかという事になるのですが、多忙という問題のとらえ方だと思う。精神的に多忙になってはだめだ。肉体的な多忙はある程度耐えられるが、精神的な多忙は追い詰められ何も出来なくなる。ということで、逃げないで是非続けてG Pをはじめ、民間からの奨学寄付金・共同研究などにもこれまで同様積極的に取り組んで頂きたいと思う。

評価に関しましては、J A B E E の中間評価、それから学位授与機構の機関別認証評価もとっておられるということですが、福井大学はまだ両方とも未だ受審していない。J A B E E は4年前から準備を始めて、今年度で卒業生が出せる状況になっている。

認証評価も改善点なしと非常に高い評価を受けているが、福井大学は来年、再来年の受審の準備をスタートさせたので、今後、参考にさせて頂きたいと思う。このような、外部評価を毎年行うのは、結構大変なのだが、しかし自己点検評価書を毎年まとめるということは、学校にとっては非常いい事だと思うので、続けてやって頂きたいと思います。

先ほど、友田さんから活力があって熱がある学生がほしいということだったが、大学でもそういう学生を育成して行こうと頑張っている。

(総 括)

自己点検評価書をびっくりしながら読ませて頂いたが、非常にきちっとしたものを作っている。高専というのはこういう事までやっているのだ、という事で非常に驚いた。教育だけではなくて地域の連携という点でも、それぞれの先生方が活発に活躍され、非常に高く評価されている。財政的には、徐々に運営資金を削られ、来時期、資金の中期計画のところで先行きが見えない部分があり、皆さん非常に悩んでられるわけだが、日本の産業界を支える人材育成をやっているのだということで、大いに自信を持って、今後も頑張って頂きたいと思う。

4. J A B E E への取り組み

2006年11月12日、13日に行われた中間実地審査の結果を受けて、福井高専「環境生産システム工学」教育プログラムは2007年5月14日付けでJABEE（日本技術者教育認定機構）より3年間の継続が認定された。認定分野は、工学（融合複合・新領域）である。この結果、2006年度、2007年度および2008年度専攻科修了生が、JABEE 認定教育プログラム修了者として認められることとなった。技術者教育の質的同等性を、国境を越えて相互に承認し合う国際的な協定「ワシントンアコード」に、JABEE が正式加盟を果たしているため、JABEE 認定教育プログラムの修了生である本校専攻科の修了生は国際的にも認められるこ

となる。また、国内では技術士一次試験が免除され修習技術者となり、最短で専攻科終了後4年で技術士二次試験を受験でき、合格すれば技術士となることができる。

本プログラムでは当初、学習・教育目標を35項目に細分化してあり、そのため、学習・教育目標の達成度評価方法における継続性が初回審査において指摘されていた。中間審査では、それら指摘事項の改善に努め審査をクリアした。その後、学習・教育目標の大項目Aの細項目を6つに調整して、32項目に変更し、平成20年4月より実施する傍ら、JABEEへ報告し11月6日付けで変更内容を認められた。

JABEE 認定期間は5年であり、次の受審は平成21年度であるため、平成21年3月頃に認定継続の申請書を提出し、7月末までに自己点検書を作成・提出し秋に実地審査を受ける予定である。

JABEE の主旨は継続的な教育改善にある。このことは教育機関であれば当然のことであり、常にプログラムの改善というPDCAサイクルにしたがってスパイラルアップを図り、プログラム修了生の知識と能力のレベルアップを図っていかなければならない。これまで実施してきた、専攻科生の達成度評価シートの記入、特別研究および卒業研究の評価シートの記入、公開授業、教員間ネットワーク会議、各アンケートの実施・集計・分析、学生にわかりやすいシラバス記入などを継続的に行い、さらに、社会のニーズおよび学生の要望からの学習・教育目標および達成度評価の変更の必要性、エンジニアリングデザイン能力に関する項目の導入、成績資料の電子媒体化などが検討課題である。審査があるから考える、あるいは実施するというのではなく、学生のレベルアップ方法を常に検討・実施していかなければならない。

どんなに素晴らしい教育システムであっても継続できなければ意味を成さない。継続し、スパイラルアップすることを念頭に、今後も、継続できる教育改善システムの構築を目指していく所存である。

XIV. 資 料 一 覽

科学研究費補助金採択一覧

【 上段：件数, 下段：金額(千円) 】

区 分	17年度	18年度	19年度		20年度	
			直接費	間接費	直接費	間接費
重点領域研究						
試験研究 (B)						
一般研究 (C)						
奨励研究 (A)						
特定領域研究	1	1				
	6,600	5,800				
特別研究促進費			1			
			5,200	0		
基盤研究 (B)	3	3	1		1	
	11,000	5,100	1,700	510	6,300	1,890
基盤研究 (C)	6	5	5		7	
	5,100	2,600	7,000	2,100	7,400	2,220
萌芽研究	3	3	2			
	3,800	3,100	1,200	0		
若手研究 (B)	2	6	6		1	
	3,600	8,600	4,600	0	500	150
計	15	18	15		9	
	30,100	25,200	19,700	2,610	14,200	4,260
			22,310		18,460	

科学研究費補助金採択一覧

研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額	研 究 課 題
平成17年度	特定領域	教授	荻野繁春	6,600	中世考古資料の電子化による分析とデーターベース化に関する研究
	基盤研究 (B)	校長	駒井謙治郎	3,800	環境質制御ドライボテスターの試作とフェルト秒レーザ加工硬質膜のドライボ特性評価
		助教授	加藤寛敬	700	ナノ超微粒子の摩擦接結による創造的ドライボ膜の創製
		教授	安丸尚樹	6,500	フェルト秒レーザによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究
	基盤研究 (C)	助教授	長水壽寛	500	新たな数学教育の実践を目指したカリキュラムから評価方法までの総合的な研究
		助教授	山本裕之	600	ハゲリアセルロースを用いた疎水性セルロース膜および無機複合材料の開発
		教授	廣重準四郎	500	救貧法委員会・救貧法『年次報告書』付録統計資料のデーターベース化とその分析
		教授	山田幹雄	700	貝殻粉砕物の吸水性、中和促進性を利用した強酸性発生土の安定処理策
		助教授	山本幸男	800	高品質CIA薄膜をベース化した太陽電池の試作および放射光照射特性
平成18年度	萌芽研究	教授	太田泰雄	2,000	融雪期における地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
		教授	安丸尚樹	800	フェルト秒レーザによるダイヤモンド・炭素膜のナノ構造制御表面の創成
		教授	吉村忠興志	900	嗅覚・ミューズメント性を生かした科学教材システムの開発と科学教育への活用
		校長	駒井謙治郎	2,100	フェルト秒レーザによるダイヤモンド・炭素膜のナノ構造制御とゼロ磨耗面の実現
		助教授	小林秀紹	1,300	慢性疲労と抑うつとの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系パラメータの解析
平成18年度	若手研究 (B)	助教授	北浦守	2,300	電子状態解析に基づいたランカサイト系新規圧電結晶の量子材料設定
		助教授		30,100	
		合 計	15件		
	研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額
	特定領域	教授	荻野繁春	5,800	中世考古資料の電子化による分析とデーターベース化に関する研究
	基盤研究 (B)	校長	駒井謙治郎	1,100	環境質制御ドライボテスターの試作とフェルト秒レーザ加工硬質膜のドライボ特性評価
		教授	加藤寛敬	800	ナノ超微粒子の摩擦接結による創造的ドライボ膜の創製
		教授	安丸尚樹	3,200	フェルト秒レーザによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究
	基盤研究 (C)	助教授	長水壽寛	500	新たな数学教育の実践を目指したカリキュラムから評価方法までの総合的な研究
		教授	山本裕之	500	ハゲリアセルロースを用いた疎水性セルロース膜および無機複合材料の開発
		教授	廣重準四郎	600	救貧法委員会・救貧法『年次報告書』付録統計資料のデーターベース化とその分析
		教授	山田幹雄	500	貝殻粉砕物の吸水性、中和促進性を利用した強酸性発生土の安定処理策
		教授	太田泰雄	500	地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
平成18年度	萌芽研究	教授	吉村忠興志	600	嗅覚・ミューズメント性を生かした科学教材システムの開発と科学教育への活用
		校長	駒井謙治郎	700	フェルト秒レーザによるダイヤモンド・炭素膜のナノ構造制御とゼロ磨耗面の実現
		教授	前川公男	1,800	月からのエコを聞く出前授業の実現による科学教育の新規展開
		助教授	小林秀紹	900	慢性疲労と抑うつとの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系パラメータの解析
		助教授	北浦守	500	電子状態解析に基づいたランカサイト系新規圧電結晶の量子材料設定
		講師	辻野和彦	2,200	福井県丹南地域における土砂災害対策支援GSIの構築
		助教授	辻子裕二	2,600	災害による緑被・根系の時系列変化に対応可能な地盤の広域パースト評価法の構築
		助教授	瀬川直美	900	高専生の語彙学習における、学習方法の違いに起因する学習意欲とその効果の検証
		講師	松井栄樹	1,500	外部配位による新規 π -電子色素集積体の設計と機能制御
	合 計		18件	25,200	

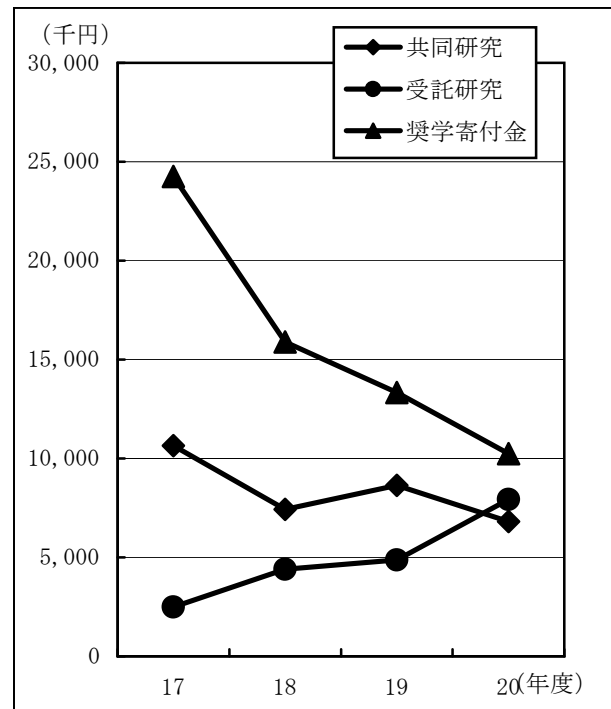
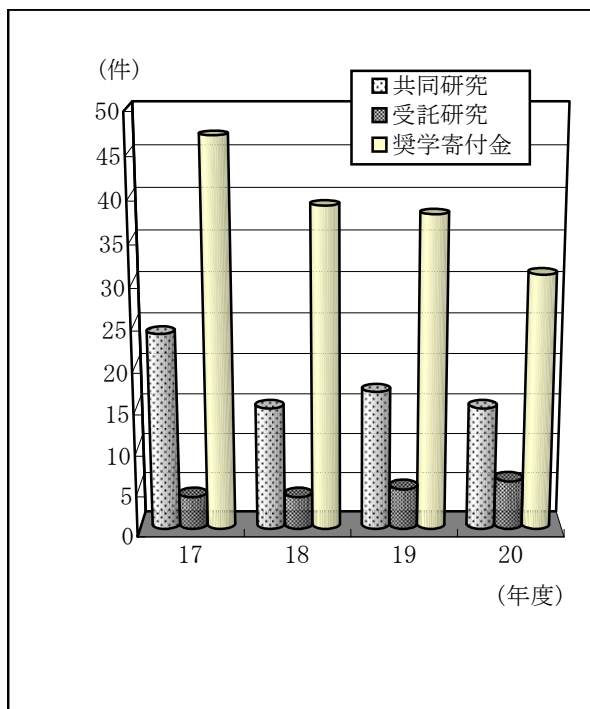
研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額 (直接費/間接費)	研 究 課 題
平成19年度	基礎研究(B)	教授	安丸尚樹	1,700	フェルト秒レーザによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究
	基礎研究(C)	教授	太田泰雄	600	地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
		准教授	長水壽寛	500	新たな数学教育を推進するためのカリキュラムおよび評価に関する実証的な研究
		教授	加藤寛敬	1,600	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー特性評価
	環境都市工学科	教授	山田幹雄	2,200	浸漬土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
	環境都市工学科	准教授	吉田雅徳	2,100	カーボンストロークを目的とした丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発
萌芽研究		校長	駒井謙治郎	600	フェルト秒レーザによるダイヤモンド状態炭素膜のナノ構造制御とゼロ磨耗面の実現
	電子情報工学科	教授	前川公男	600	月からのエコを聞く出前授業の実現による科学教育の新規展開
若手研究(B)	一般科目	准教授	小林秀紹	1,200	慢性疲労と抑うつ個人の差を規定する遺伝子と神経・内分泌系パラメータの解析
	環境都市工学科	講師	辻野和彦	1,000	福井県丹南地域における土砂災害対策支援GSIの構築
	環境都市工学科	准教授	辻子裕二	600	災害による緑被・根系の時系列変化に対応可能な地盤の広域ハザード評価法の構築
	一般科目	准教授	瀬川直美	400	高専生の語彙学習における、学習方法の違いに起因する学習意欲とその効果の検証
	物質工学科	准教授	松井栄樹	800	外部配位による新規π電子色素集積体の設計と機能制御
	一般科目	講師	森 芳周	600	胚、胎児に関する倫理的議論の再構築ー人格が否かという議論を超えてー
特別研究促進費	一般科目	教授	荻野繁春	5,200	中世考古資料の電子化による分析とデータベース化に関する研究
合 計		15件		19,700	2,610
				22,310	
平成20年度	基礎研究(B)	教授	安丸尚樹	6,300	フェルト秒レーザ援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究
	基礎研究(C)	教授	長水壽寛	600	新たな数学教育を推進するためのカリキュラムおよび評価に関する実証的な研究
	機械工学科	教授	加藤寛敬	900	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー特性評価
	環境都市工学科	教授	山田幹雄	700	浸漬土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
	環境都市工学科	准教授	吉田雅徳	1,100	カーボンストロークを目的とした丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発
	一般科目	教授	坪川武弘	1,300	気候変動の数値モデルを題材とした数学教材の調査と開発
	環境都市工学科	准教授	辻子裕二	2,500	豊かな保水性のもとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策
	一般科目	准教授	北浦 守	300	二価マンガニオンを用いた希土類蛍光体代替材料の量子材料設計
若手研究(B)	一般科目	講師	森 芳周	500	胚、胎児に関する倫理的議論の再構築ー人格が否かという議論を超えてー
合 計		9件		14,200	4,260
				18,460	

外部資金受入一覧

【単位：件, 千円】

区 分	17年度		18年度		19年度		20年度	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
共同研究	24	10,640	15	7,430	17	8,635	15	6,812
受託研究	4	2,497	4	4,405	5	4,873	6	7,934
奨学寄付金	47	24,260	39	15,890	38	13,331	31	10,246
計	75	37,397	58	27,725	60	26,839	52	24,992

※平成20年12月31日現在



民間等との共同研究受入一覧

年度	研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入額 (円)
17年度	食品中に存在する異質物の簡易的分析法の確立	(株)ふじや食品	物質工学科 教 授 小泉貞之	平成17.6.1～平成18.3.31	150,000
	重心動揺計・測制御ソフトの開発	インターリハ(株)	一般科目教室 助教授 小林秀紹	平成17.6.1～平成18.3.31	130,000
	リモートセンシングによる遺跡探査研究	(株)田中地質コンサルタント	環境都市工学科 助教授 辻子裕二	平成17.6.9～平成18.3.31	200,000
	レーザ応用表面改質装置および長寿命HIDランプの開発	(財)ふぐい産業支援センター	電子情報工学科 教 授 井上昭浩	平成17.6.15～平成17.12.18	500,000
	有機金属原料およびV族元素水素化合物原料の光化学反応過程に関する研究	(財)ふぐい産業支援センター	物質工学科 助教授 高山勝己	平成17.6.15～平成17.12.18	1,000,000
	食品用天然ナノカレンシウムの製法と分散に関する研究	カワイ(株)	物質工学科 講 師 加藤 敏	平成17.6.13～平成17.12.31	200,000
	光源用機能膜の開発	ハリソン東芝ライティング(株)	電子情報工学科 教 授 井上昭浩	平成17.7.1～平成17.9.30	1,000,000
	新潟・神戸・福井における水害および地震災害の実体と相互比較	長岡技術科学大学	環境都市工学科 助 手 田安正茂	平成17.7.1～平成18.3.31	300,000
	タッチパネルセンサの多機能化	東芝電子エンジニアリング(株)	電気電子工学科 教 授 原田 望	平成17.7.13～平成18.3.31	900,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮した眼鏡等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンターセンター長	平成17.7.27～平成18.3.31	1,000,000
	有用微生物群を用いた河川浄化の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科 教 授 上島晃智	平成17.8.5～平成18.3.31	250,000
	トロアオイ保存剤の劣化緩和並びに有用な処理法の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科 教 授 上島晃智	平成17.8.5～平成18.3.31	150,000
	バーミキュライトの化学膨潤による無機紙の開発	(有)岩六製紙所	物質工学科 教 授 松井修一	平成17.8.6～18.3.31	600,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発 *受託研究受入分(文部科学省の指導により共同研究契約を締結)	サカイオーパックス(株)	物質工学科 助 手 大嶋俊一	平成17.8.8～平成18.3.31	研究費は、(財)福井県産業支援センターが負担。(受託研究で受入)
		清川メッキ工業(株)		平成17.8.8～平成18.3.31	
		福井県工業技術センター		平成17.8.8～平成18.3.31	
	エレクトロケミカル反応を組み込んだバイオプロセスによる有色廃水処理技術に関する調査研究	セーレン(株)	物質工学科 助教授 高山勝己	平成17.9.7～18.2.28	1,000,000

年度	研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
17年度	カーボンナノチューブのポリマー分散技術の開発およびナノ構造有機複合膜の機能化・デバイス応用に関する研究	日東シンコー㈱	電気電子工学科 教授 川本 昂	平成17.8.26～平成18.3.31	600,000
	新型魚道の開発	丸一調査設計㈱	環境都市工学科 教授 廣部英一	平成17.9.27～平成18.3.31	150,000
	新型魚道の開発	岡野コンクリート㈱	環境都市工学科 教授 廣部英一	平成17.9.27～平成18.3.31	150,000
	大豆加工食品副産物高度利用研究開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 助教授 高山勝己	平成17.11.2～平成18.3.31	350,000
	マイクロ水力によるエネルギー利用	山田技研株式会社	機械工学科 助教授 藤田克志	平成17.11.16～平成18.3.31	200,000
	廃棄物を利用した凝集剤開発へ向けた研究	大洋潜水工事株式会社	物質工学科 教授 小泉貞之	平成17.11.17～平成18.3.31	500,000
	新規抗菌砂の開発	協和化学株式会社	物質工学科 助教授 高山勝己	平成18.1.17～平成18.3.31	10,000
	次世代光源の開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科 教授 井上昭浩	平成18.2.1～平成18.3.31	1,000,000
	散水循環による油分除去システムの開発	有限会社笠川銅産	物質工学科 教授 上島晃智	平成18.2.4～平成18.3.31	200,000
	「安全ベルト」の実用化・商品化に向けた研究	有限会社 北陸プロフト	機械工学科 教授 井上清一	平成18.2.7～平成18.3.31	100,000
	計	24件			10,640,000

年度	研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
18年度	土と石の抗菌強化保存剤の開発と試作研究	(株) 中地質コンサルタント	物質工学科 助教授 高山勝己	平成18.4.18～平成19.3.31	200,000
	「安全ベルト」の実用化・商品化に向けた研究	有限会社 北陸プロフト	機械工学科 教 授 井上清一	平成18.5.24～平成19.3.31	100,000
	重心動揺計測制御ソフトの開発	インターリハ(株)	一般科目教室 助教授 小林秀紹	平成18.6.15～平成19.3.31	130,000
	脱地球温暖化社会へ向けた建設工事への木材利用に関する調査・研究	(財) 福井県建設技術公社	環境都市工学科 助教授 吉田雅穂	平成18.5.23～平成19.3.31	1,000,000
	廃棄物を利用した凝集剤開発へ向けた研究	大洋潜水工事株式会社	物質工学科 教 授 小泉貞之	平成18.6.15～平成19.3.31	500,000
	新規抗菌砂の開発	協和化学株式会社	物質工学科 助教授 高山勝己	平成18.6.17～平成19.3.31	100,000
	交流電圧検出回路の研究	株式会社カワチュウ	電気電子工学科 教 授 原田 望	平成18.6.1～平成19.3.31	400,000
	次世代光源の開発	ハリソン東芝ライティング(株)	電子情報工学科 教 授 井上昭浩	平成18.8.18～平成19.3.31	1,000,000
	鉄系自動車用鍛造部品の高強度化の制御鍛造技術の開発	豊橋技術科学大学	機械工学科 教 授 加藤寛敬	平成18.9.1～平成19.3.31	500,000
	タッチパネルセンサの多機能化	東芝電子エンジニアリング(株)	電気電子工学科 教 授 原田 望	平成18.10.21～平成19.3.31	600,000
	環境水および廃水中微量アンチモンの共沈法による吸着分濃縮 および簡易測定法の開発	株式会社ミツヤ	物質工学科 教 授 小泉貞之	平成18.10.6～平成19.3.31	200,000
	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー(株)	電気電子工学科 教 授 川本 昂	平成18.11.28～平成19.3.31	1,200,000
	GPS携帯を用いた消防団情報支援システムの構築	合資会社エムディエス	電気電子工学科 教 授 大久保茂	平成18.12.22～平成19.2.28	200,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	物質工学科 教 授 上島晃智	平成19.1.25～平成19.3.31	1,000,000
	高精度極薄膜研磨・研削技術による耐放射線性デバイス開発	若狭技研工業株式会社	電子情報工学 助 手 西仁司	平成19.1.25～平成19.2.28	300,000
		15件			7,430,000

年度	研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
19年度	脱地球温暖化社会へ向けた建設工事への木材利用に関する調査・研究	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科 准教授 吉田雅穂	平成19.5.22～平成20.3.21	1,000,000
	次世代光源の開発	ハルソン東芝ライテイング㈱	電子情報工学科 教 授 井上昭浩	平成19.6.30～平成20.3.31	1,000,000
	無電源動作交流電圧検知器の開発	株式会社 カワチュウ	電気電子工学科 教 授 原田 望	平成19.7.11～平成20.3.31	400,000
	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー株式会社	電気電子工学科 教 授 川本 昂	平成19.7.26～平成20.9.30	1,200,000
	シリコン端材を利用した低コスト太陽電池パネルの試作研究	川崎産業株式会社	電気電子工学科 准教授 山本幸男	平成19.8.30～平成20.3.31	300,000
	森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	スマートマイクログリップデバイスを用いた微生物検査チップの研究	豊橋技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成19.8.1～平成20.3.31	450,000
	細胞損傷・細胞死の進行過程の多面的解析法の開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 講 師 川村敏之	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 講 師 辻野和彦	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	(Ba, Sr) Al ₂ O ₄ :Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発	長岡技術科学大学	一般科目教室 准教授 北浦 守	平成19.7.2～平成20.3.31	200,000
	信頼に裏付けられた高専との連携研究室構想の準備	長岡技術科学大学	物質工学科 准教授 西野純一	平成19.7.2～平成20.3.31	200,000
	技大・高専連携による地域自然災害危険度の調査と防災コンテントの整備	長岡技術科学大学	環境都市工学科 准教授 吉田雅穂	平成19.7.2～平成20.3.31	175,000
	圧電トランスを電極に用いたオゾン発生装置において、発生効率の向上方法と加圧(1MPa)オゾン作製方法を 探る	株式会社 エコ・プランナー	環境都市工学科 准教授 奥村充司	平成19.11.16～平成20.2.28	120,000
	有機リン加水分解酵素表層発現酵母を用いた有機リン 農薬検査法の開発	(財)若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科 准教授 高山勝己	平成19.11.22～平成20.2.29	1,390,050
	タッチパネルセンサーの高機能化	東芝電子エレクトロニクス(株)	電気電子工学科 教 授 原田 望	平成19.12.29～平成20.3.31	300,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長 加藤省三	平成20.1.23～平成20.3.1	700,000
	トコロアオイ保存剤の効率的な使用方法並びに代替品の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科 教 授 上嶋晃智	平成20.3.1～平成20.3.31	300,000
		17件			8,635,050

年度	研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入額 (円)
20年度	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー株式会社	電気電子工学科 教授 川本 昂	平成19.7.26～平成20.9.30	800,000
	木ターールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科 教授 武井幸久 物質工学科 教授 小泉 貞之	平成20.4.17～平成21.3.19	1,000,000
	タッチパネルセンサーの高機能化	東芝電子エンジニアリング(株)	電気電子工学科 教授 原田望	平成20.5.1～平成20.9.30	300,000
	交流電圧検出回路の研究	株式会社 カワチチュウ	電気電子工学科 教授 原田望	平成20.6.3～平成21.3.31	250,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター長 加藤省三	平成20.7.1～平成21.3.28	700,000
	有機リン加水分解酵素表面発現酵母を用いた有機リン農薬検査法の開発	(財)若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科 准教授 高山勝己	平成20.7.4～平成21.2.28	1,387,850
	(Ba, Sr) Al ₂ O ₄ :Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発	長岡技術科学大学	一般科目教室 准教授 北浦守	平成20.7.25～平成21.3.31	250,000
	最先端ICT活用PBL型教育による高専・大学統合教育の質向上に関する研究	長岡技術科学大学	電子情報工学科 助教 奥田篤士	平成20.7.25～平成21.3.31	100,000
	加工を利用した構造用金属材料の組織と力学特性の制御	豊橋技術科学大学	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製	豊橋技術科学大学	物質工学科 教授 小泉貞之	平成20.8.1～平成21.2.28	360,000
	スマートマイクロチップデバイスを用いた医療・生物・農業 検査チップの研究	豊橋技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	分子動力学計算による生体高分子の機能解析	豊橋技術科学大学	物質工学科 助教 佐々和洋	平成20.8.1～平成21.2.28	450,000
	森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 講師 辻野和彦	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と教育メソッドの開発	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 助教 江本晃美	平成20.8.1～平成21.2.28	135,000
計		15件			6,812,850

受託研究受入一覧

年度	研 究 題 目	委 託 者	研究担当教員	研究期間	受入額 (円)
17年度	近赤外線・近紫外線による筋疲労軽減効果	NECライティング株式会社	一般科目教室 助教授 小林秀紹	平成17.4.12 ～ 平成18.3.31	100,000
	携帯電話におけるe-Learning System. の研究開発	株式会社jig. jp	電子情報工学科 教 授 蘆田 昇	平成17.5.27 ～ 平成18.3.31	260,000
	ナノめっき技術による機能性微粒子の創製と新型燃料電池システムの開発	財団法人ふくい産業支援センター	物質工学科 助 手 大嶋俊一	平成17.8.8 ～ 平成18.3.31	1,470,000
	ガードレールの機械的特性に関する研究	財団法人道路保全技術センター	機械工学科 助教授 加藤寛敬	平成18.3.15 ～ 平成18.3.31	667,000
	合 計	4 件			2,497,000
18年度	長残光蛍光体の基礎的物性研究	NECライティング株式会社	一般科目教室 助教授 北浦 守	平成18.9.30 ～ 平成19.3.31	300,000
	ナノカーボンを用いた水素センサの開発	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果活用プラザ石川	電気電子工学科 教 授 川本 昂	平成18.9.1 ～ 平成19.2.28	2,000,000
	機能性色素によるオンサイト放射線検出技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果活用プラザ石川	物質工学科 講 師 松井栄樹	平成18.9.1 ～ 平成19.2.28	2,000,000
	ガードレールの機械的特性に関する研究	財団法人道路保全技術センター	機械工学科 教 授 加藤寛敬	平成18.10.2 ～ 平成18.10.20	105,000
	合 計	4 件			4,405,000

年度	研 究 題 目	委 託 者	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
19年度	長残光蛍光体の基礎的物性研究	NECライティング株式会社	一般科目教室 准教授 北浦 守	平成19.8.11 ～ 平成20.3.31	300,000
	緑被の生長を阻害しない薬剤散布による表層地盤の安定 化工法	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーション・サテライト滋賀	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成19.7.20 ～ 平成20.3.31	1,962,000
	獣害対策支援のための地理情報システムの開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーション・サテライト滋賀	環境都市工学科 講 師 辻野和彦	平成19.7.20 ～ 平成20.3.31	1,944,800
	越前和紙の技法とセルロースゲル等を活用した低収縮性 紙の開発	財団法人若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科 教 授 上島晃智	平成19.9.21 ～ 平成20.2.29	506,656
	シリコンウェハの高精度研磨・研削技術の開発	若狭研工業株式会社	電子情報工学科 助 教 西 仁司	平成19.12.15 ～ 平成20.2.28	160,000
	合 計	5 件			4,873,456
20年度	子供向けプログラミング教材の評価と検証	株式会社 Jig. j p	電子情報工学科 教 授 蘆田 昇	平成20.4.1 ～ 平成21.3.31	260,000
	オンラインプログラミングコンテストの評価と検証	株式会社 Jig. j p	電子情報工学科 講 師 西 仁司	平成20.4.1 ～ 平成21.3.31	260,000
	和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究	越前市	環境都市工学科 准教授 奥村充司	平成20.5.1 ～ 平成21.3.31	200,000
	越前和紙の技法とセルロースゲル等を活用した低収縮性 和紙の開発	財団法人若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科 教 授 上島晃智	平成20.4.2 ～ 平成21.2.28	332,850
	持続可能な地域総合防除のための鳥獣害対策支援GISの開 発	独立行政法人科学技術振興機構 産学連携事業本部	環境都市工学科 講 師 辻野和彦	平成20.7.10 ～ 平成21.3.31	4,882,000
	工場排水中の微量重金属検出－回収ハイブリッド技術の開 発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーション・サテライト滋賀	物質工学科 准教授 松井栄樹	平成20.8.8 ～ 平成21.3.31	2,000,000
	合 計	6 件			7,934,850

奨学寄附金受入一覧

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
17年度	教育研究奨励金	環境都市工学科阿部教員の教育研究助成	300,000	株式会社イワタ	福井県福井市江端町18-51-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	大和建設株式会社	福井県武生市村国2-13-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社ミルコン	福井県福井市長本町202
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井郡丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	新道繊維工業株式会社	福井県あわら市伊井第60-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	株式会社大虫電工	福井県武生市上太田町45-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県武生市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	テラオライテック株式会社	福井県武生市本保町8-5-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県武生市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	物質工学科加藤教員の教育研究助成	300,000	カワイ株式会社	福井県武生市上太田町29-15-1
	教育研究奨励金	物質工学科大嶋教員の教育研究助成	500,000	大嶋 俊一	鯖江市北野町2-15-16
	教育研究奨励金	物質工学科吉村忠教員の教育研究助成	300,000	エヌ・ジェイ・化成株式会社	福井県坂井郡三国町米納津2-5-2

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
17年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	株式会社ホクコン	福井県武生市北府1-2-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	旭日繊維株式会社	福井県今立郡今立町栗田部5-44
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	増永眼鏡株式会社	福井県福井市今市町4-15
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32-2-1
	教育研究奨励金	環境都市工学科山田教員の教育研究助成	600,000	前田工織株式会社	福井県坂井市春江町沖布目38-3
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	揚原織物工業株式会社	福井県鯖江市有定町1-3-26
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校 学校の教育研究奨励	11,288,150	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社松浦機械製作所	福井県福井市漆原町老字沼巻番地
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校 学校の教育研究奨励	99,880	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	株式会社ホリカフ	福井県鯖江市川去町6-8
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校 学校の教育研究奨励	44,810	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	電気電子工学科川本教員の教育研究助成	100,000	株式会社柿本商会	石川県金沢市藤江南2-28
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	40,000	福井がね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校 学校の教育研究奨励	9,930	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
17年度	教育研究奨励金	電気電子工学科川本教員の教育研究助成	300,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井郡丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	山田技研株式会社	福井県福井市花堂南2-5-12
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教員の教育研究助成	400,000	ハリン東芝ライティング株式会社	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	327,740	記念事業準備委員会委員長	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	物質工学科川村敏之教員の教育研究助成	600,000	財団法人住友財団	東京都港区芝大門1-12-16
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	49,880	記念事業準備委員会委員長	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	高齢者向け科学実験ゲーム開発のための研究 (電気電子工学科川本教員)	900,000	財団法人中山隼雄科学技術文化財団	東京都港区白金台3-4-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	500,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励 (物質工学科高山教員)	1,400,000	財団法人向科学技術振興財団	東京都中野区本町4-38-12
	計	47件	24,260,390		
	教育研究奨励金	一般科目教室北浦守助教授の教育研究奨励	100,000	福井工業高等専門学校 一般科目教室北浦守	福井県福井市江守中2-1903-6
18年度	教育研究奨励金	環境都市工学科山田幹雄教授の教育研究奨励	800,000	前田工織株式会社	福井県坂井市春江町沖布目38-3
	教育研究奨励金	電気電子工学科原田望教授の教育研究奨励	100,000	株式会社カワフュー	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
18年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社大虫電工	福井県越前市上太田町45-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工業	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	株式会社ホリカワ	福井県鯖江市川去町6-8
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	環境都市工学科廣部英一教授・田安正茂助手の教育研究奨励	300,000	株式会社日本海コンサルタント	金沢市泉本町2丁目126番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	福井めがね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライテイング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	サカイオーバックス株式会社	福井県福井市花堂2-15-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社ホクコン	福井県福井市今市町66-20-2
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	2,500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	3,000,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
18年度	教育研究奨励金	電子情報工学科石川和彦助手の教育研究奨励	100,000	株式会社田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教授の教育研究奨励	50,000	株式会社ブライテック	東京都千代田区三崎町2-1-7(岡武ビル3F)
	教育研究奨励金	環境都市工学科奥村充司助教の教育研究奨励	100,000	日野川流域交流会 事務局長田中保土 (武生商工会議所 総務科内)	福井県越前市塚町101番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アートテックノロジー	福井県鯖江市下河端町第6号1番地33
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東工シヤッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	物質工学科上島晃智教授の教育研究奨励	300,000	有限会社笠川銅産	福井県福井市若菜町803番地
	教育研究奨励金	電気電子工学科川本昂教授の教育研究奨励	600,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライディング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	物質工学科常光幸美教授の教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社磁性材料研究所	福井県武生市北府2-1-5
	教育研究奨励金	電機電子工学科新谷邦弘教授の教育研究奨励	90,000	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロント7新栄2階
	教育研究奨励金	一般科目教室 山田孝慎講師の教育研究奨励	1,000,000	福井工業高等専門学校 一般科目教室山田孝慎	福井県福井市和田2-613
	教育研究奨励金	環境都市工学科 辻野和彦講師の教育研究助成	450,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	環境都市工学科 辻野和彦講師の教育研究助成	400,000	鯖江市鳥獣害対策協議会	鯖江市西山町13-1
	計	39件	15,890,000		

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	物質工学科 西野純一准教授の研究助成(科学技術に関する研究)	546,784	財団法人内田エネルギー科学振興財団(長岡技術科学大学から移換)	新潟県三条市東新保7-7 株式会社コナノ
	教育研究奨励金	環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究助成	500,000	株式会社吉勝重建	福井県坂井市丸岡町城北6-48
	教育研究奨励金	物質工学科 上島晃智教授の教育研究助成	250,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	物質工学科 上島晃智教授の教育研究助成	150,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	物質工学科 吉村忠典志教授の教育研究助成	500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究助成	600,000	前田工織株式会社	福井県坂井市春江町沖布目第38号3番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東インシャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カワチエウ	福井県越前市矢船町第15号10番地の9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町第20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社ホクコン	福井県越前市北府1-2-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	環境都市工学科 辻子裕二准教授の教育研究奨励	100,000	株式会社田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	電子情報工学科 井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市市川去町32字2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	電気電子工学科 原田望教授の教育研究奨励	100,000	株式会社カワチエウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	サカイオーパベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
	教育研究奨励金	一般科目教室 山田孝慎講師の教育研究奨励	200,000	福井工業高等専門学校 一般科目教室山田孝慎	福井県福井市和田2-613
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1
	教育研究奨励金	電気電子工学科 川本昂教授の教育研究奨励	600,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	300,000	笹原 敬雄	福井県あわら市温泉4-1033
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62号3番地
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成	500,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市市下司町
	教育研究奨励金	電気電子工学科 新谷邦弘教授の教育研究奨励	80,000	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階
	教育研究奨励金	一般科目教室 北浦守准教授の教育研究奨励	66,500	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成	2,878,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市市下司町
	教育研究奨励金	電子情報工学科井上昭浩教授の教育研究助成	400,000	ハリソン東芝ライティング(株)	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	電気電子工学科川本昂教授の教育研究助成	400,000	日本システムバンク株式会社	福井県福井市中央3丁目5-21

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	600,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	環境都市工学科奥村充司准教授の教育研究助成	300,000	株式会社エコ・プランナー	福井市洲2丁目1811番地
	計	38件	13,331,284		
年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
20年度	教育研究奨励金	一般科目教室(応用物理)北浦守准教授の教育研究助成	1,426,500	財団法人日本板硝子材料工学助成会	東京都港区三田3丁目5番27号
	教育研究奨励金	物質工学科松井栄樹准教授の教育研究助成	100,000	(株)田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	㈱大虫電工	福井県越前市上太田町45-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社カワチエウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	東工シャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	(株)ミソヤ	福井県福井市山室町69-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	(株)サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	武生特殊鋼材(株)	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	日東シンコー(株)	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	電気電子工学科川本昂教授の教育研究助成	400,000	日東シンコー(株)	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	丸一調査設計(株)	福井県福井市開発町第20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	大和建設(株)	福井県越前市村国2-13-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	(株)アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
20年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	電気電子工学科原田望教授の教育研究助成	250,000	株式会社カワチエウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	20,000	(株)カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	200,000	酒井化学工業(株)	福井県鯖江市川去町32字2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	1,000,000	信越化学工業(株)武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	60,000	福井めがね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
	教育研究奨励金	環境都市工学科山田幹雄教授の教育研究助成	500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究助成	100,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,000,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	国立高等専門学校における制御技術に係る教育研究助成	1,000,000	オムロン株式会社	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動産町801号
	教育研究奨励金	環境都市工学科辻野和彦講師の教育研究助成	600,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	環境都市工学科奥村充司准教授の教育研究助成	300,000	株式会社エコ・プランナー	福井市湊2丁目1811番地
	教育研究奨励金	物質工学科高山勝己准教授の教育研究助成	750,000	財団法人クリタ水・環境科学振興財団	東京都新宿区西新宿3丁目4番7号
	教育研究奨励金	環境都市工学科辻子裕二准教授の教育研究助成	100,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	300,000	福井工業高等専門学校教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	機械工学科辻田中嘉津彦教授の教育研究助成	500,000	株式会社不二越	富山県富山市不二越本町1-1-1
	計	31件	10,246,500		

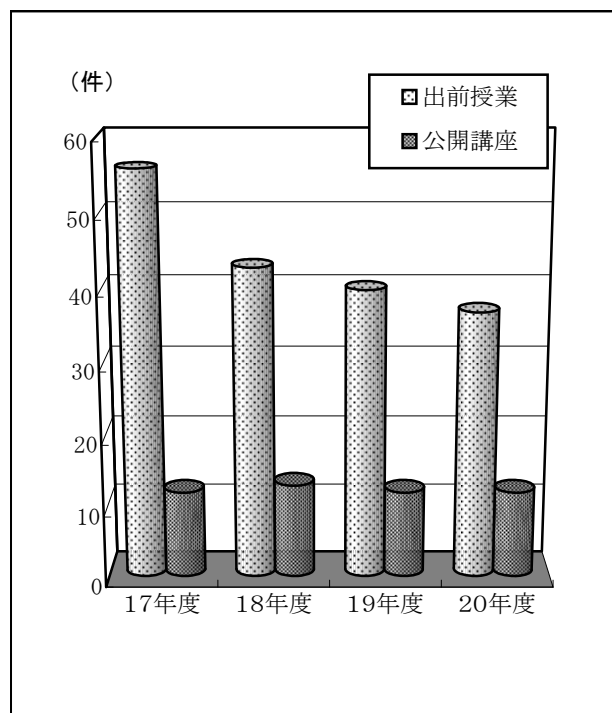
※平成20年12月31日現在

出前授業・公開講座実施一覧

(件数)

年 度	出前授業	公開講座	合 計
1 7 年度	56	12	68
1 8 年度	43	13	56
1 9 年度	40	12	52
2 0 年度	37	12	49
合 計	176	49	225

※平成20年12月31日現在



出前授業実施一覧

年度	機 械 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
17年度	10月13,14日	福井県産業会館	歩行型ロボットの制御	鈴木秀和	地域住民
	11月30日	越前市大虫小学校	おもちゃのサイエンス	田中嘉津彦, 藤田克志, 芳賀正和, 村中貴幸	小学6年生(66名)
	12月9日	越前市王子保小学校	おもちゃのサイエンス	田中嘉津彦, 藤田克志, 村中貴幸	小学6年生(23名)
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月25日	鯖江環境フェア	ソーラーカーとは、試乗会	川本昂	小, 中学生, 保護者(約30名)
	7月4日	越前市万葉中学校	生活の中の電気電子技術 (電気電子技術の概要)	新谷邦弘, 丸山晃生	理科選択の3年生(32名)
	7月7日	越前市万葉中学校	雷と遊ぶ(静電気, 放電)	川本昂	理科選択の3年生(32名)
	7月11日	越前市万葉中学校	発電機を作ろう (磁気の性質, 電流と磁気, 電磁誘導)	新谷邦弘, 丸山晃生	理科選択の3年生(32名)
	7月14日	越前市万葉中学校	次世代の太陽電池を作ろう (電圧の発生, 環境意識の啓発)	川本昂	理科選択の3年生(32名)
	7月29日	福井県民生協環境講座	ソーラーカー作り, 試乗会	川本昂	小学生, 保護者(約50名)
	8月3日	サイエンス, パートナ シップ, プログラム自然エ ネルギーフェスティバル	模型ソーラーカーを製作して太陽電池のはたらきを 楽しく理解させる授業づくり	川本昂, 原田望, 丸山晃生	鯖江市の小, 中学校理科教諭(20名)
	8月7日	2005FUKUI	ソーラーカーとは、試乗会	川本昂	小, 中学生, 保護者(約60名)
	10月15,16日	つるが観光物産フェア	ソーラーカーとは、試乗会	川本昂	小, 中学生(240名)
	11月5,6日	アクトムフェア	電気の歴史をたどろう, 花の色素を使った新型太 陽電池を作ろう	荒川正和, 川本昂	小, 中学生(60名)
	12月8日	越前市万葉中学校	～超低温の世界～超伝導体を	川本昂, 新谷邦弘	理科選択の3年生(32名)
	12月12日	越前市万葉中学校	ライントレースマシーン	新谷邦弘, 米田知晃	理科選択の3年生(32名)
	12月19日	越前市万葉中学校	蒸気船スチームロケット	川本昂, 新谷邦弘	理科選択の3年生(32名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	1月16日	越前市万葉中学校	虹をつくろう	川本昂	理科選択の3年生(32名)
	2月17日	越前市王子保小学校	雷と遊ぼう	川本昂	小学生(科学クラブ), 教職員
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	10月30日	奥越地場産業センター	ITアトラクション ペット型ロボット自走型ロボットの実演	前川公男, 蘆田昇, 斉藤徹, 石川和彦, 西仁司, 学生	国民文化祭参加住民(約300名)
	12月21日	越前市武生西小学校	段ボールでBSアンテナを作る	前川公男, 学生	科学クラブ(22名)
	1月18日	越前市武生西小学校	電波の不思議	前川公男, 学生	科学クラブ(22名)
	2月1日	越前市味真野小学校	AIBOロボットと遊ぶ (教員へのデモ・打ち合わせ)	前川公男, 西仁司(電子情報工学科), 鈴木秀和(機械工学科), 庶務課職員, 学生	教員(10名)
	2月8日	越前市味真野小学校	AIBOロボットと遊ぶ	前川公男, 西仁司(電子情報工学科), 鈴木秀和(機械工学科), 庶務課職員, 学生	科学クラブ(16名)
	2月15日	越前市武生西小学校	AIBOロボットと遊ぶ	西仁司, 清水幹朗, 庶務課職員, 学生	科学クラブ(22名)
	2月15日	越前市味真野小学校	段ボールでBSアンテナを作ろう	前川公男, 学生	科学クラブ(16名)
	2月22日	越前市味真野小学校	電波の不思議	前川公男, 学生	科学クラブ(16名)
	2月22日	越前市神山小学校	AIBOロボットと遊ぶ	西仁司, 清水幹朗, 庶務課職員, 学生	6年生(29名)
	■ 物 質 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月15日	越前市味真野小学校	液体窒素を使った実験	吉村忠与志, 野村栄市	小学生, 教諭(21名)
	6月29日	越前市味真野小学校	ホテルの光についてルミナール反応	松井修一, 上島晃智, 松井栄樹	小学生, 教諭(21名)
	7月13日	越前市味真野小学校	花火と金属Na Ma NI3のエネルギー実験	小泉貞之, 川村敏之, 野村栄一	小学生, 教諭(21名)

17年度

年度	■ 物質工学科				
	実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
17年度	10月1日	福井市東藤島小学校	液体窒素を用いた化学実験など	吉村忠興志, 野村栄市	小学生, 父兄, 教諭 (約60名)
	10月28日	越前市味真野小学校	魔法の水, めだかの卵観察など	川村敏之, 学生	科学クラブ, 教職員 (約40名)
	10月29日	越前市岡本小学校	液体窒素を用いた化学実験など	松井修一, 上島晃智, 小泉貞之, 松井栄樹, 大嶋俊一, 片岡裕一	小学生, 教諭 (約360名)
	11月11日	越前市王子保小学校	液体窒素を使った実験	小泉貞之, 野村栄市	科学クラブ, 教職員 (約30名)
	12月4日	越前市国高公民館	液体窒素を用いた化学実験など	吉村忠興志, 上島晃智, 加藤敏, 松井栄樹, 大嶋俊一	小学生, 教諭, 父兄 (約80名)
	2月10日	越前市王子保小学校	酸化と還元反応を利用した化学	小泉貞之, 片岡裕一	科学クラブ, 教職員
	2月17, 24日	越前市王子保小学校	科学おもしろ実験	小泉貞之	科学クラブ, 教職員
	■ 環境都市工学科				
	実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月16日	南越前町文化会館(南条区)	宇宙考古学による文明遺産保全へのロマン	辻子裕二	一般 (30名)
	6月25日	鯖江市饗応会館	環境フェア, 開会のフォーラム	武井幸久	一般 (100名)
	6月25日	鯖江市饗応会館	環境フェア, 食のフォーラム パネラー	武井幸久	一般 (30名)
	7月24日	足羽川	御清水川生き物調査	奥村充司, 学生	小学生 (約20名)
	7月26日	九頭竜川	生物による親子水質調査	奥村充司, 学生	小学生親子 (約20名)
	7月31日	吉野瀬川	白山たまり場塾	奥村充司, 学生	小学3年～6年生 (20名)
	8月2日	北川	水生生物による水質の簡易調査	奥村充司, 学生	小・中学生 (約30名)
	8月3日	天王川	土と炎と緑のふるさと みやざぎ塾「水生生物調査会」	奥村充司, 学生	小学生 (約30名)
	8月11日	エコネットさばえ	環境教育の課題と方法 コーディネイト	武井幸久	県内の小中学校の教諭 (50名)
	9月1日	南越前町教育委員会 今庄事務所	水の環境と人と生き物のくらし	奥村充司	地域住民 (20名)

年度	■ 環境都市工学科				
	実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
17年度	9月17日	エコネットさばえ	環境マップづくり	辻子裕二	鯖江市内小学生(15名),保護者, ボランティアスタッフ(10名)
	9月28日	若狭町三方庁舎 会議室	若狭湾国定公園ワーク, ショップ, コメンテーター	武井幸久	一般(30名)
	10月13日	鯖江市片上公民館	ディスカバーさばえin片上	武井幸久	一般親子(20名)
	10月20日	美浜町庁舎 小ホール	若狭湾国定公園ワーク, ショップ, コメンテーター	武井幸久	一般(30名)
	1月26日	王子保小学校	形が変わると強さが変わる	阿部孝弘, 辻野和彦	理科クラブ(22名)
計 56 件					
年度	■ 機械工学科				
	期日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
18年度	8月9日	武生第一中学校	越前市中学技術家庭科主任会での講義(越前市ロボットコンテストについて)	井上清一	技術家庭科の主任の先生方(6名)
	9月16日	大虫小学校	親子でものづくり体験学習	田中嘉津彦, 藤田克志, 村中貴幸, 学生9名	5年生及びその保護者(約140名)
	10月1日	越前市たけふ菊人形野外ステージ	第1回越前市中学生ロボットコンテスト2006 (ロボットコンテストの審査)	井上清一	越前市の中学生(40名)
	10月8日	ユニアイふくい	アイデアロボットの実演展示・操縦体験	安丸尚樹, 藤沢秀雄, 北川浩和, 学生12名	幼小中学生親子(400名)
	1月24日	味真野小学校	ポンポン蒸気船とコアンダカーの製作	田中嘉津彦, 吉田敏実, 水島宏和, 学生3名	小学4～6年生(14名)
	1月28日	大安寺小学校	流れを利用したおもちゃづくり	藤田克志, 卒業生1名	小学3・5・6年生とその保護者 (55名)
	■ 電気電子工学科				
	期日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
	5月30日	立待小学校	燃料電池の実験	川本昂	5年生(28名)
	6月27日	河和田小学校	ソーラーカーの試乗会, ソーラーボートの製作	川本昂	4年生(53名)
	7月3日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(30名)
	7月6日	武生第三中学校	電磁気実験	新谷邦弘, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(30名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
18年度	7月10日	武生第三中学校	電磁気実験	新谷邦弘, 丸山晃生	2年生理科選択生徒(30名)
	7月13日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(27名)
	8月3日	鯖江市環境教育支援センター	燃料電池の実験	川本昂	小中学生(15名)
	9月21日	東陽中学校	超低温の世界へ	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)
	10月23日	東陽中学校	燃料電池の実験	川本昂, 新谷邦弘	3年生理科選択生徒(30名)
	10月30日	東陽中学校	色素増感太陽電池	川本昂, 新谷邦弘	3年生理科選択生徒(30名)
	11月8日	東陽中学校	人工の虹作り	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)
	12月4日	東陽中学校	静電気モーターの製作	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)
	12月11日	東陽中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘, 学生1名	3年生理科選択生徒(30名)
	12月20日	東陽中学校	人工の雷	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)
	2月26日	東陽中学校	ホバークラフトの製作	川本昂, 学生1名	3年生理科選択生徒(30名)
	3月7日	鳥羽小学校	クリップモーターの製作	川本昂, 学生3名	3年生(80名)
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	5月31日	味真野小学校	南極教室	前川公男, 学生4名	5・6年生(97名)
	6月28日	南条小学校	AIBOで遊ぼう	西仁司, 学生4名	4～6年生科学クラブ(16名)
	7月18日	北新庄小学校	南極教室	前川公男, 学生2名	5・6年生(85名)
	8月7日	能楽の里文化交流会館	池田町公民館講座(南極教室)	前川公男, 学生2名	地域小学生(約50名)
	9月6日	大虫小学校	南極教室	前川公男, 西仁司, 学生4名	5・6年生(約140名)
	9月19日	武生西小学校	南極教室	前川公男, 上島晃智, 内藤岳志, 学生4名	5・6年生(約140名), 保護者, 教員(30名)

年度	■ 物質工学科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
18年度	6月14日	味真野小学校	科学クラブでもものづくり	小泉貞之, 野村栄市	理科クラブ, クラブ指導教員, 校長 (23名)
	6月28日	味真野小学校	液体窒素を用いた実演, 実験	大嶋俊一, 野村栄市	4～6年生 (16名)
	8月5日	豊小学校	「納涼祭」	吉村忠興志, 松井栄一, 大嶋俊一, 川村敏之, 野村栄市, 片岡裕一	5年生 (44名), 6年生 (33名)とその保護者
	9月10日	進徳小学校	進徳小学校PTAによる親子の集い 「おもしろ理科実験」	吉村忠興志, 上島晃智, 川村敏之, 片岡裕一, 山本裕之, 学生2名	1～3年生 (30名), 4～6年生 (30名)とその保護者 (約100名)
	10月24日	王子保小学校	理科クラブで化学実験1	吉村忠興志, 学生2名	理科クラブ, クラブ指導教員 (25名)
	11月17日	王子保小学校	理科クラブで化学実験2	小泉貞之, 野村栄市, 学生1名	理科クラブ, クラブ指導教員 (25名)
	11月22日	中央中学校	電池の仕組み	吉村忠興志, 高山勝己, 加藤敏野村栄市, 片岡裕一	理科クラブ, クラブ指導教員, 校長 (25名)
	11月24日	王子保小学校	理科クラブで化学実験3	吉村忠興志, 上島晃智, 学生4名	理科クラブ, クラブ指導教員 (25名)
	12月8日	王子保小学校	理科クラブで化学実験4	吉村忠興志, 上島晃智, 学生5名	理科クラブ, クラブ指導教員 (25名)
	12月13日	中央中学校	燃料電池	小泉貞之, 松井栄樹, 大嶋俊一, 学生3名	理科クラブ, クラブ指導教員, 校長 (25名)
	■ 環境都市工学科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	5月19日	河和田公民館	ワークショップ成果報告会 見つめてみよう身近な環境	武井幸久, 学生8名	河和田地区の小学生と一般 (80名)
	7月29日	第2会場 家久浄化センター	あそぼう! まなぼう! 浄化センター版 ☆橋ってこんなに強いんだ	前島正彦, 荒木俊幸, 吉田雅穂, 学生3名	越前市内の幼小中学生と保護者 (200名)
	12月13日	武生第三中学校	自分で確かめよう! 自然災害のぼうさいエンス	吉田雅穂, 辻子裕二	2年生 (30名)
	2月14日	味真野小学校	プロジェクトWET (水の環境)	奥村充司, 学生5名	味真野小学校科学クラブ4～6年生 (14名)
	2月21日	味真野小学校	形が変わると強さが変わる	辻野和彦, 阿部孝弘, 学生1名	味真野小学校理科クラブ (14名)
	計 43 件				

年度	■ 一 般 科 目 教 室				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	11月2日	河和田小学校	断層があるのに地震がない	岡本拓夫	6年生児童
	■ 機 械 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	9月15日	大虫小学校	親子でのものづくり体験教室	田中嘉津彦, 藤田克志, 芳賀正和, 吉田敏實, 学生9名	5年生およびその保護者(約110名)
	9月28日	進明中学校	進明小学校へロボット達がやってくる	井上清一, 藤沢秀雄, 学生6名	進明中学校全校生徒(約450名)
	10月20日	岡本小学校	岡本小学校 ゴーゴー学校	上嶋晃智, 加藤敏, 松井栄樹, 片岡裕一, 田中嘉津彦	
	11月30日	小浜市西津小学校	流れを利用したおもちゃ作りを通して学ぶサイエンス	藤田克志, 村中貴幸, 学生1名	小学校3年生(31名)
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
19年度	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月19日	武生第三中学校	燃料電池を作ろう	新谷邦弘, 佐藤匡, 丸山晃生	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月21日	武生第三中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘, 三好正行	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月26日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 山本幸男, 大久保茂	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月27日	東陽中学校	超低温の世界へ	川本昂, 河原林友美, 学生1名	第2学年理科選択生徒(25名)
	7月3日	武生第三中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘, 佐藤匡	第2学年理科選択生徒(30名)
	7月4日	東陽中学校	ソーラーカーの試乗会, ソーラーボートの製作	川本昂, 原田望	第2学年理科選択生徒(25名)
	7月5日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 荒川正和	第2学年理科選択生徒(30名)
	7月10日	進徳小学校	ホバークラフトの製作	川本昂	理科クラブ児童(12名)
	8月8日	進徳小学校	紙ヘリコプターの製作(1～3年), 液体窒素を使った実験(4～6年)	川本昂, 学生2名	小学生1～3年(66名), 4～6年(101名) ※希望者のみ
	10月29日	豊小学校	太陽電池のしくみ・新エネルギーの解説, ソーラーカーの試乗会, おもちゃのソーラーポートコンテスト	川本昂	第5学年生徒(43名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
19年度	12月1日	きらめきみなと館	発光ダイオードを用いた工作教室	荒川正和, 丸山晃生	主に幼児・小学生とその保護者, 他, 中学生～大学生・一般など (60名)
	12月4日	東陽中学校	雷とプラズマ発光「人工の雷」	川本昂	第2学年理科選択生徒 (25名)
	1月23日	東陽中学校	手作りモーターと手作り発電機	川本昂	
	3月17日	和田小学校	わくわく授業	川本昂	第5学年 (114名)
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月29日	勝山市地場産センター	夏休み工作(歯磨きロボット製作)教室	斉藤徹, 前川公男, 清水幹郎, 学生5名	小中学生と保護者 (20組40名)
	7月24,25日	越前市生涯学習センター	アイボくんと遊ぼう!	西仁司, 学生7名	越前市内小学生5～6年生 (25名程度)
	8月18,19日	福井県越前市サンドーム	歯磨きロボット工作教室	斉藤徹, 青山義弘, 西仁司, 堀井直弘, 学生7名	小中学生と保護者 (20組40名)
	11月27日, 28日	福井市中藤小学校体育館	南極教室	前川公男	4～6年生, 教職員, 保護者 (約400名)
	■ 物 質 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月10日	武生西小学校	武生西小学校4年生親子の集い	小泉貞之, 上嶋晃智, 西野純一, 野村栄市, 片岡裕一, 学生2名	小学校4年生約60名, その保護者約60名, 小学校教員4名 (130名)
	7月11日	武生味真野小学校	武生味真野小学校 科学クラブ	小泉貞之, 野村栄市,	小学生約30名+教員1名
	8月22-23日	福井高専	サイエンスバートナートナート教育連携講座	高山勝己, 吉村忠与志, 野村栄市, 片岡裕一, 小泉貞之	武生2中10名, 鯖江東陽中10名, 教員2名
	9月7日	清水中学校	体験ワークショップコーナー 電池と光	小泉貞之, 上嶋晃智, 野村栄市, 学生2名	中学生約60名, 教員3名

年度	■ 物質工学科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
19年度	10月20日	岡本小学校	岡本小学校 ゴーゴー学校	上嶋晃智, 加藤敏, 松井栄樹, 片岡裕一, 田中嘉津彦	
	11月11日	東安居小学校	おもしろ理科実験	吉村忠与志, 野村栄市, 片岡裕一, 加藤敏	
	■ 環境都市工学科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月5日	池田第三小学校	「角間郷の自慢を見つけよう」ーきれいな水ってなんだろう?ー	奥村充司, 学生5名	池田第三小学校3・4年生 (7名)
20年度	7月28日	越前市家久浄化センター	「あそぼう!、まなぼう! エコバックづくり」	奥村充司, 学生6名	越前市内の小学生(50名)
	8月1日	北川・若狭歴史民族資料館	夏休み水生生物による簡易水質調査	奥村充司, 学生6名	小浜第二中学校, 上中学校(30名)
	8月6日	九頭竜川・鳴鹿大堰・鳴鹿館	夏休み水生生物による簡易水質調査	奥村充司, 学生6名	松岡小学校・松岡中学・志比小学校, 永平寺中学校(60名)
	11月28日	味真野小学校	煉瓦アーチをつくろう!!	田安正茂, 学生1名	科学クラブ (16名)
	計 40 件				
年度	■ 機械工学科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	9月20日	越前市大虫小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦, 藤田克志, 芳賀正和, 村中貴幸, 吉田敏實, 学生9名	小学校5年生とその保護者 140名
	10月15日	越前市神山公民館	おもちゃ(紙トンボ、バルーンカー)づくりの体験	藤田克志, 学生5名	小学校1～3年生ほか 19名
	11月8日	福井市六条小学校	めざせ国技館!	安丸尚樹, 学生3名	小学生、保護者、教員 200名
	■ 電気電子工学科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	6月11日	東陽中学校	ホバークラフトの製作	川本昂	第2学年理科選択生徒 (18名)
	6月25日	東陽中学校	明るさの値段-電気エネルギーってどういうもの?-(I)	山本幸男, 荒川正和	第2学年理科選択生徒 (18名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	7月2日	東陽中学校	明るさの値段-電気エネルギーってどういふもの？-(Ⅱ)	山本幸男、荒川正和、河原林友美	第2学年理科選択生徒 (18名)
	9月25日	福井市 東安居小学校	科学不思議体験	川本昂、学生1名	小学校4年生72名
	11月12日	東陽中学校	燃料電池の製作	新谷邦弘、斉藤弘一	第2学年理科選択生徒 (18名)
	11月19日	東陽中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘	第2学年理科選択生徒 (18名)
	11月26日	東陽中学校	科学不思議体験	川本 昂	第2学年理科選択生徒 (18名)
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	8月6日	越前市生涯学習センター	LEGOブロックでロボット作り	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生 (15名)
	8月7日	越前市生涯学習センター	LEGOブロックでロボット作り	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生 (14名)
	9月24日	鯖江東小学校	南極教室	前川公男	小学校3～6年児童 (236名)
	10月26日	鯖江市学生活動拠点施設「らてんぼ」	初心者向けゲームプログラミング講座	蘆田昇	中学生 7名
	■ 物 質 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	7月4日	オオタキ神社	和紙の里の歴史について	上島晃智	武生2中 1年生6名、教諭1名
	7月9日	東陽中学校 理科教室	環境にやさしいものづくり「酸化と還元を利用したもののづくり」化学	小泉貞之、佐々和洋	中学生20名、教諭1名
	7月9日	越前市味真野小学校 理科教室	液体窒素を用いた低温実験とものづくり科学	小泉貞之、佐々和洋、野村栄市	小学生(科学クラブ)20名
	7月16日	東陽中学校 理科教室	光とエネルギー、回折と分光のものづくり	小泉貞之	中学生20名、教諭1名
	7月24日	越前市南児童センター	液体窒素を用いた化学実験など	川村敏之、高山勝己、加藤敏、上島晃智、吉村忠与志、野村栄市、片岡裕一	小学生40人
	7月29日	越前市国高児童センター	液体窒素を用いた化学実験など	川村敏之、高山勝己、津田良弘、上島晃智、吉村忠与志、西野潤一、野村栄市、片岡裕一	小学生20人

年度	■ 物質工学科				
	実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
20年度	7月30日	越前市味真野児童センター	液体窒素を用いた低温実験とものづくり科学	川村敏之、松井栄樹、小泉貞之、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一	小学生15名、職員2名
	8月1日	越前市中央図書館 学習支援室	極低温の世界探検	吉村忠興志、上嶋晃智、野村栄市、片岡裕一	小学生40名、保護者15名
	8月9～10日	サンatorium	愉遊誘おもしろフェスタ	物質工学科全教職員、5年学生30名	小中学生、保護者 2,000名程度
	8月28日	福井高専	SPP 遣伝子技術に触れ生命の神秘について考えよう	川村敏之、高山勝己、片岡裕一、野村栄市	中学生20名、教員2名
	8月20日	あすなろ保育園	「あつと驚く実験」講義	吉村忠興志	保育士35名
	11月8日	越前市中央図書館 学習支援室	ふれてみよう楽しい化学教室	津田良弘、小泉貞之	小学生30名、中学生5名、保護者10名
	11月9日	福井市東安居小学校	ふれあいフェスティバル「空気銃とアイスクリーム作製」	吉村忠興志、小泉貞之、松井栄樹、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一	小学生100名、保護者80名、教諭10名
	11月21日	福井高専	福井県消防学校専科教育「燃焼分析実験」	吉村忠興志、片岡裕一、野村栄市	福井県消防士24名
	11月22日	福井市酒生小学校	福井サイエンス寺子屋「低温実験」	吉村忠興志、津田良弘、片岡裕一、野村栄市	小学生60名、保護者15名
	■ 環境都市工学科				
20年度	実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月18日	東陽中学校	「安全な飲み水とは？」	奥村充司、辻子裕二	第3学年理科選択生徒
	7月30日	小浜市北川・天徳寺橋、高塚橋	平成20年度北川水生生物等による水質調査	奥村充司、学生5名	雲浜まちづくり委員会(大人6名、小学6年生14名)
	9月6日	鯖江市環境教育支援センター	環境マップづくり	辻子裕二、学生2名	4年～6年の児童20名
	10月22日	東陽中学校	地震が引き起こす液化化現象-エッキーを作ろう！	吉田雅穂、阿部孝弘	中学校2年生(理科選択生徒) 18名
	10月29日	東陽中学校	川の水質を調べよう	奥村充司、田安正茂	中学校2年生(理科選択生徒) 18名
	11月26日	国高小学校	環境計測と環境マップづくり	辻子裕二、学生2名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名
	12月10日	国高小学校	水の旅	奥村充司、学生5名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名
	12月17日	国高小学校	形が変わると強さが変わる	辻野和彦、学生2名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名
計				37	件

※平成20年12月31日現在

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
17年度	5月16日～6月9日	機械設計入門講座	市民一般 20名	22名
	6月4, 5日	英検3級合格をめざして「春季コース」	中学生 20名	
	7月2日	放射線計測講習会 ―エックス線作業主任者試験に向けて―	市民一般 10名	3名
	7月23, 24日	おうちで簡単LAN活用	市民一般 8名	
	7月25, 26日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 20名	6名
	7月28, 29日	ブリッジコンテスト2005―橋をつくってみよう―	中学生 15名	3名
	7月29～31日	楽しい電子回路入門 ―マイコンでロボットを動かしてみよう―	中学生 15名	16名
	8月20, 21, 27, 28日	やさしいテニス（親子・初心者・だれでもコース）	市民一般 16名	3名
	10月1, 2日	身の回りの“もの”を作ってみよう ―高分子材料―	中学生 10名	4名
	10月3～6日	技術者のためのExcel活用実習	市民一般 20名	3名
	10月 8, 9日	英検3級合格をめざして「秋季コース」	中学生 20名	1名
	10月15日	身の回りの微生物と細胞の顕微鏡観察	中学生 9名	1名
	計	12件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
18年度	6月3, 4日	英検合格をめざして(3級)「春季コース」	中学生 20名	
	6月3, 4日	英検合格をめざして(準2級)「春季コース」	中学生 20名	
	7月22日	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学生5年生～中学生3年生 15名	11名
	7月22, 23日	おうちで簡単LAN活用	中学生 10名	
	7月28, 29, 30日	『楽しい電子回路入門』—マイコンでロボットを動かしてみよう!—	中学生 15名	1名
	8月5, 6日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 20名	2名
	8月10, 11日	『ブリッジコンテスト 2006』 ～橋をつくってみよう～	中学生 15名	3名
	9月30日, 10月1, 7, 8日	基本情報技術者試験に向けて	高校生以上(秋期試験申込者) 15名	4名
	9月30日, 10月1日	「身の回りの“もの”を作ってみよう」—材料・素材いろいろ—	中学生 10名	1名
	10月2, 3, 4日	問題解決のためのExcelで解く科学計算入門	一般および学生 20名	
	10月7, 8日	英検合格をめざして(3級)「秋季コース」	中学生 20名	
	10月7, 8日	英検合格をめざして(準2級)「秋季コース」	中学生 20名	2名
	12月16, 17日	英文法基礎講座	中学校3年生 20名	1名
計		13件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
19年度	7月29日	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学校高学年～中学校3年生 20名	35名
	7月28, 29日	楽しい電子回路入門 マイコンでロボットを動かしてみよう！ー	中学生 15名	15名
	8月4, 5日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 20名	2名
	8月6, 7日	『ブリッジコンテスト 2007』 ～橋をつくってみよう～	中学生 15名	2名
	8月19日	電子工作教室 「FMワイヤレスマイクの製作」	中学生 10名	10名
	8月25日	化学を楽しむ講座	一般および学生(化学知識に興味のある方) 20名	1名
	9月8日	身の周りの電池のサイエンスを学ぼう	中学生 10名	2名
	9月30日, 10月6, 7, 13日	基本情報技術者試験に向けて	高校生以上(秋季試験申込者) 10名	
	10月1, 2, 3日	品質管理検定に向けたExcelによる品質管理入門	一般および学生 (Excelで品質管理を上手にしたい方)20名	10名
	10月6, 7日	英検合格をめざして(3級)	中学生 20名	6名
	10月6, 7日	英検合格をめざして(準2級)	中学生(英検3級取得者) 社会人(英語学習を再開したい方)20名	1名
	12月15, 16日	英文法基礎講座	中学3年生 20名	6名
		12件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
20年度	6月28日(土) 8月2日(土)	「化学」はじめの一步	化学に興味がある中学3年生以上の初学者 20名	3名
	7月26日(土) 7月27日(日)	『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－	中学生 12名	9名
	7月27日(日)	夏休みの自由研究講座「ちかちかたち」	小学生高学年 10名	6名
	7月27日(日)	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学生高学年・中学生 20名	20名
	8月1日(金) 8月8日(金) 8月22日(金) 8月29日(金) 9月5日(金) 9月12日(金)	技術士第一次試験を突破しよう！！	技術士第一次試験の受験を考えている人 15名	
	8月2日(土) 8月3日(日)	小学生のための初めてのプログラミング	小学生高学年 10名	2名
	8月7日(木)	遊びは遊び－You・遊・ものづくり教室－	中学生 15名	13名
	8月11日(月)	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生 10名	5名
	8月16日(土)	忠先生の化学教室	中学生 10名	6名
	8月17日(日)	電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	小学生・中学生 10名	10名
	10月4日(土) 10月5日(日)	英検準2級合格をめざして	中学生(英検3級取得者が望ましい) 社会人(英語学習を再開した方) 20名	4名
	12月13日(土) 12月14日(日)	英文法基礎講座	中学3年生 20名	2名
		12件		

公開授業実施一覧

年度	実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
17年度	井上 昭浩	電気回路Ⅱ	平成17年5月30日	野村 保之, 青山 義弘, 坪川 武弘, 荒川 正和
	吉崎 保夫	機構学	平成17年6月28日	井上 清一, 芳賀 正和, 阿部 孝弘, 米田 知晃, 太田 泰雄
	朝倉 相一	応用数学	平成17年7月4日	坪川 武弘, 北浦 守, 吉崎 保夫, 米田 知晃, 小林 秀紹
	田中 嘉津彦	振動工学	平成17年11月9日	阪口 健一, 吉崎 保夫, 坪川 武弘, 中村 吉秀, 藤田 克志
	岡本 拓夫	物理	平成17年11月15日	太田 泰雄, 坪川 武弘, 前島 正彦, 荒川 正和, 小林 秀紹
	蘆田 昇	プログラミング基礎Ⅱ	平成18年1月19日	高久 有一, 野村 保之, 鈴木 秀和, 米田 知晃
	廣部 英一	水理学Ⅰ	平成18年1月23日	田安 正茂, 辻子 裕二, 井上 清一, 藤田 克志, 辻野 和彦
	前多 信博	電気磁気学Ⅰ	平成18年2月3日	佐藤 匡, 丸山 晃生, 野村 保之, 中谷 実伸, 山本 幸男
18年度	加藤 寛敬	機械工作法Ⅱ	平成18年6月1日	村中 貴幸, 芳賀 正和, 前川 公男, 青山 義弘, 藤田 克志
	小泉 貞之	放射線概論	平成18年8月29日	上嶋 晃智, 大嶋 俊一, 田中 嘉津彦, 山本 幸男
	川本 昂	ものづくり科学	平成18年12月14日	新谷 邦弘, 大久保 茂, 村中 貴幸, 辻野 和彦, 山本 幸男
	安丸 尚樹	材料学Ⅱ	平成18年12月18日	加藤 寛敬, 吉崎 保夫, 平井 恵子, 辻野 和彦, 藤田 克志
	吉村 忠興志	情報化学	平成18年12月21日	平井 恵子, 小泉 貞之, 藤田 克志, 中谷 実伸, 常光 幸美
	武井 幸久	都市交通工学	平成19年1月10日	山田 幹雄, 奥村 充司, 中谷 実伸, 亀山 建太郎, 辻野 和彦
	森 芳周	倫理社会	平成19年1月17日	前田 安信, 瀬川 直美, 奥村 充司, 亀山 建太郎, 中村吉秀
	大久保 茂	電気回路Ⅳ	平成19年1月18日	川本 昂, 山本 幸男, 前川 公男, 辻子 裕二
	野村 保之	情報理論Ⅰ	平成19年1月22日	下條 雅史, 高久 有一, 坪川 武弘, 芳賀 正和
	柳原 祐治	解析Ⅱ	平成19年1月24日	小林 秀紹, 荻野 繁春, 新谷 邦弘, 坪川 武弘, 中谷 実伸
19年度	原口 治	英語Ⅲ	平成19年1月25日	中村 吉秀, 森 貞, 荻野 繁春, 西 仁司, 藤田 克志
	北浦 守	工学基礎物理Ⅱ	平成19年5月2日	坪川 武弘, 原田 望, 武井 幸久, 山本 裕之
	山田 幹雄	建設複合材料	平成19年7月3日	吉崎 保夫, 阿部 孝弘, 辻子 裕二, 辻野 和彦, 岡田 将人
	藤田 克志	流れ学Ⅱ	平成19年7月6日	芳賀 正和, 亀山 建太郎, 長水 壽寛, 廣部 英一, 安丸 尚樹
	山本幸男	電気回路Ⅲ	平成19年10月25日	新谷 邦弘, 米田 知晃, 河原林 友美, 村中 貴幸, 井之上 和代
	荒川正和	デジタル技術	平成19年11月21日	米田 知晃, 佐藤 匡, 河原林 友美, 亀山 建太郎, 平井 恵子
	西野純一	無機化学Ⅰ	平成19年12月20日	小泉 貞之, 津田 良弘, 松井 栄樹, 米田 知晃, 辻子 裕二
20年度	下條雅史	情報理論Ⅰ	平成20年1月24日	前川 公男, 齊藤 徹, 米田 知晃, 中谷 実伸
	村中貴幸	材料力学Ⅱ	平成20年6月18日	田中 嘉津彦, 芳賀 正和, 阿部 孝弘, 前島 正彦, 中谷 実伸

※平成20年12月31日現在

教員の派遣一覧 — 平成16年度以降 —

■海外先進教育実践支援プログラム

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究題目
平成16 (2004)	常光 幸美	物質工学科	H17.3. 30 ～H18. 3. 29	連合王国	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料創製
	吉田 雅穂	環境都市工学科	H17.3. 25 ～H18. 3. 24	アメリカ合衆国	安全なものづくりのための力学教育法の構築

■国際研究集会派遣研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究集会名
平成17 (2005)	吉村 忠興志	物質工学科	H17.12. 15 ～H17. 12. 20	アメリカ合衆国	2005環太平洋国際化学会議

■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究題目
平成18 (2006)	岡田 将人	機械工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	金沢大学大学院	CBN(立方晶窒化ホウ素)工具を用いたハードミリングに関する研究
	田安 正茂	環境都市工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	長岡技術科学大学 大学院	人工構造物に作用する流体力の数値計算法の開発およびその現地検証

■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	取組名称
平成19 (2007)	丸山 晃生	電気電子工学科	H20.3. 30 ～H21. 3. 1	オーストラリア国立大学 (ANU)	非古典論理に対する自動推論システムの構築とその高専教育への展開

※平成20年12月31日現在

自己点検・評価委員会委員名簿

委員長	池田大祐	校長
委員	太田泰雄	副校長（企画室長）
委員	安丸尚樹	副校長（教務主事）
委員	上島晃智	校長補佐（学生主事）
委員	朝倉相一	校長補佐（寮務主事）
委員	田中嘉津彦	校長補佐（専攻科長）
委員	藤田克志	機械工学科主任
委員	原田望	電気電子工学科主任
委員	蘆田昇	電子情報工学科主任
委員	小泉貞之	物質工学科主任
委員	阿部孝弘	環境都市工学科主任
委員	島田茂	一般科目教室（自然科学系）主任
委員	荻野繁春	一般科目教室（人文社会科学系）主任
委員	前田安信	図書館長
委員	蘆田昇	総合情報処理センター長
委員	加藤省三	地域連携テクノセンター長
委員	前川公男	教育研究支援センター長
委員	吉村忠與志	JABEE 委員会委員長
委員	山田幹雄	教育システム評価委員長
委員	牧野忠志	事務部長

平成21年1月発行

編集 福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発行者 独立行政法人 国立高等専門学校機構

福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL 0778-62-1111（代）

FAX 0778-62-2597（総務課）

URL <http://www.fukui-nct.ac.jp>